

ごあいさつ



平成８年９月に、「花と歩けの国際平和都市宣言」を制定した東松山市では、平和な社会を次世代に引き継ぐため、平成１０年から「花とウォーキングのまちの平和賞」を実施しております。

今回で２２回目を迎える本事業では、市内の小・中学生と一般を対象に作文を、県内の高校生と一般を対象に絵画を募集したところ、作文が１，４５４人、絵画が１０２人と、多くの応募がありました。特に作文については、昨年に引き続き過去最高の応募数となりました。

応募された作文には、旅行先での平和体験、御家族の方からの体験談、あるいはテレビや本を介して情報に触れたりすることで、戦争の悲惨さや当時の生活の苦勞を感じとり、現代の豊かさに改めて気づかされたという感想が多数見受けられました。また、日常の生活から本当の平和とは何かについて真剣に向き合う姿も印象的でした。絵画においては、生き生きとした生命を題材とした作品や、穏やかな日常の風景から平和を感じ取って描かれた作品など、才能あふれる作品が揃いました。

昨年は、台風第１９号により当市もこれまでに経験したことのない甚大な被害を受けました。復旧活動に取り組む中で、たくさんの方々の温かい御支援・御協力をいただきました。一日も早く平穏な日常を取り戻せるようにと願う皆様の思いを励みに、より一層の復旧活動を進めてまいる所存です。今こそ、この作品集を多くの方に御高閲いただき、かけがえのない日常を心に刻み、災害に負けない平和で明るいまちづくりに向けた活動の輪が更に広がっていくことを期待しております。皆様の御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

結びに、本事業に御協力いただいた学校関係者や審査に御尽力いただいた審査員など、関係する全ての皆様に感謝申し上げるとともに、平和行政の推進に引き続いての御支援を賜りますようお願い申し上げ、あいさついたします。

令和２年１月

東松山市長 森 田 光 一

【作文の部】		目次					頁
【小学生】	最優秀賞	日常の小さな幸せと平和	青鳥小学校	4年	水村	悠聖	・ ・ ・ 1
	優秀賞	へいわをいのる花火大会	松山第一小学校	3年	伊藤	愛史	・ ・ ・ 2
		なぜせんそうをするのだろう	松山第一小学校	3年	立川	悟	・ ・ ・ 4
		くさかった服	大岡小学校	6年	中山	閨之祐	・ 5
		心、そして世界中を平和に	青鳥小学校	5年	山崎	清花	・ ・ 6
	優良賞	平和とは	松山第一小学校	5年	桂嶋	暁	・ ・ ・ 7
		千年希望の丘	松山第一小学校	6年	横田	悠妃	・ ・ 8
		ちらん特攻へいたい	高坂小学校	4年	小林	由奈	・ ・ 9
		平和と戦争	青鳥小学校	5年	篠田	華	・ ・ ・ 10
		大ばあちゃんの話	桜山小学校	4年	宮下	芽依	・ ・ 12
		ひいおじいちゃんと心の傷	桜山小学校	5年	中村	陽翠	・ ・ 13
	【中学生】	最優秀賞	被爆ピアノ	松山中学校	1年	田中	海音
		歩くことに関する悲しい話	松山中学校	1年	小山	寧々香	・ 16
優秀賞		「この地球の幸せは…」	白山中学校	1年	松口	芽生	・ ・ 18
		憎しみの壁を越えて	白山中学校	2年	大野	真央	・ ・ 20
優良賞		今の自分にできること	北中学校	1年	砂永	紡輝	・ ・ 22
		二つの平和	白山中学校	1年	島田	竜成	・ ・ 24
		今日という日に感謝して	白山中学校	2年	守岡	駿和	・ ・ 26
【一般】		優良賞	平和・生命・人権	一般	水沼	安美	・ ・ 28
【作文の部総評・応募者一覧】 ・							

第22回花とウォーキングのまちの平和賞

作文の部 入選作品

【最優秀賞】

日常の小さな幸せと平和

青島小学校 4年 水村 悠聖

ぼくのなかで平和と言うと今まではなんとなく戦争が思いうかび去年はひいおじいちゃんの戦争体験を書きました。そのときはまだ勉強していなくて戦争じたいをよく知らなかったけど、4年生になって国語で戦争の学習をして当時の生活を知りとても悲しく、つらくなりました。

でも、去年とはちがい今年は戦争から思う平和ではありません。なぜかという家族の中で悲しいできごとがあり「平和って、幸せってなんだろう」と考えるようになりました。

それは去年の8月にひいおばあちゃんが亡くなってしまったからです。それまでぼくはふつうに生活していたけど、ひいおばあちゃんの命があとわずかだと知らされると、日によって深夜に病院から連絡がきたりしておばあちゃんやお母さんはその日から交たいで病院に泊まることが多くなりました。お母さんは仕事から帰るとぼくのご飯の用意をして夜おそくまでさしおうぎにある病院まで毎日行っていました。だから家族みんなでご飯を食べることも少なくなりせつかくの夏休みもぼくはおじいちゃんとすごす時間が多くなりお母さんやおばあちゃんのいない日がふえていきました。

そう考えるとみんなでご飯を食べていたことや好きなときにゲームをしたり大好きな野球をしていたことも幸せなことだし、お母さんにしかられていやな気持ちだったけどまたすぐいつものお母さんにもどっていることにも小さな平和だったと気がつきました。

ぼくは、ひいおばあちゃんの死で今まで当たり前だと思っていた日常が本当はそうじゃないことを教えてもらいました。それは、ぼくのために協力してくれるおじいちゃんやおばあちゃんの支えであったり、お父さんやお母さんのがんばりで学校にも通え野球も続けられていると気づくことができたからです。だから、ふだん感じることもない小さな幸せにも感しやしないといけないと思いました。

長い間病院で思うように生きられず、生きて家に帰ることがかなわなかったひいおばあちゃんはすごくかわいそうだったけど最期は家族みんなに見守られて天国へ行ったひいおばあちゃんの顔はなぜかとてもきれいでした。きっと苦しみがなくなって心が平和になってくれてるにちがいないはずです。

そしてぼくもこれからは一日一日を大切にしていきたいと思います。

《寸評》水村さんは、昨年の夏ひいおばあさんが余命わずかと言われてから死に至るまで、家族が協力して看病する姿を見て、平和や幸せについて考えました。お母さんやおばあさんが看病でひいおばあさんのもとへ訪れている間は、水村家は今までの生活リズムではありません。すると、みんなでご飯を食べたり好きな時にゲームをして遊んだりすることが、実は幸せなことだと気付きます。家族がみんなで支えあって生きていることに感謝の気持ちも芽生えます。そんな日常の幸せに気付いた素晴らしい作品です。

作品集の表現及び事実関係については、作者が幅広い年代にわたることや作品が伝聞を踏まえたものも見受けられることから、作者の意思を尊重し、原文の表記のとおりにしています。ただし、横書き記載にするに当たり、次のとおり表記の一部を改めています。

- 1 漢数字は、固有名詞や数量的な意味の薄い語を除き、アラビア数字にしています。
- 2 数値を表す単位として必要な場合は、「億」「万」「千」「百」を用いていることがあります。

【優秀賞】

へいわをいのる花火大会

松山第一小学校 3年 伊藤 愛史

ぼくは、今年夏休みに、にいがた県長おか市で行われる、長おか花火大会へ行ってきました。

花火大会というと、きれいで、にぎやかで、とてもわいわい楽しいおまつりといういんしょうがありました。けれど長おかの花火大会はせんそうでなくなった人びとのいれい、せんごふっこうをしていく人びとへのかんしゃ、これからのへいわをねがってうち上げられる花火大会であることを、お母さんから聞いて知りました。

ぼくがこの花火大会でいちばんいんしょうにのこっていることは、サイレンから始まる花火です。空しゅうのサイレンが鳴りひびく中、はしが赤い花火と、けむりにおおわれて、せんそうみたいでした。それを見てあの中でひとびとは、にげ回っていたと思うと、とてもこわくなりました。かわいそうになりました。

そのほかの花火では、フェニックスという花火が上がりました。フェニックスという意味は、なんどもひがいがおきてもふしちょうによみがえるという意味があるそうです。ぼくは、「せんそうが終わってふしちょうのように長おか市は、よみがえったんだな」と思いました。

せんご70年いじょうたつ今も毎年いれいの花火から始まるのでそのかんしゃの思いはとても強いのだなと思いました。

ぼくは、もう二どとこんなせんそうが、おきてはいけないなと思いました。そのためには、おもいやりをもって人となかよくすればいいと思いました。

そして、その長おか花火大会がつづいてほしいなと思いました。

《寸評》伊藤さんは、夏休みに新潟県の長岡の花火大会を見て、ちょっと違った感想を持ちました。本人も書いているように花火大会というと華やかなイメージがありますが、お母さんから、この花火大会が始まったいきさつやどんな意味で続けられているかを聞いて、花火大会の見方が変わります。サイレンから始まる花火から戦争を連想し、フェニックスという花火から長岡市が復興を願っていることに思いをはせ、自分なりの平和への考えを持つことができました。



【優秀賞】

なぜせんそうをするのだろう

松山第一小学校 3年 立川 悟

せんそうやへいわについて色いろな人から話をはじめて聞きました。
ぼくのへいわは、今です。食べ物たくさんあるし、おかしも毎日食べているしテレビもゲームも毎日しています。ぼくも家族も元気だし、友だちもたくさんいます。大すきな家もあるし、いつもきれいな洋服も着れているからです。しかし、せんそうがあったころは、ぼくのこのようなへいわは、ほとんどなかったと聞きました。そして、せんそうとは、ころし合いだとも聞きました。国と国とがケンカをして、ぼう力でかちまけを決めるのです。同じ人間どうしなのに、どうしてころし合いなんかをするのだろう。せんそうをまだべんきょうしていないぼくでも、ころし合いは、いけない事だと分かります。
ぼくのひいおじいちゃんは、中国へ、へいたいとしてせんそうに行っていたそうです。そのときに、じゅうでうたれたけれど、持っていたはんごうにたまがあたって、たすかったそうです。もし、ひいおじいちゃんがその時しんでしまっていたら、ぼくは生まれていません。ぼくのおばあちゃんや、お母さんもいませんでした。ひいおじいちゃんにも、お母さんやお父さんお姉さんがいました。家族はどれだけひいおじいちゃんを心配していただろう。家族のだけれが、しぬかもしれないじょうきょうなんて考えられません。ぼくなら、ぜったいにいやです。でも74年前には、本当にせんそうがあって、日本中がつらい思いをしていたのです。日本だけではなく、てきの国の人も同じだったと思います。
そしてぼくのひいひいおじいちゃんは、広しまの原ばくでなくなりました。毎日8時ごろ今の原ばくドーム近くまで、配たつをする仕事をしていたそうで、8月6日は、帰ってこなかったそうです。のこされたぼくのひいおじいちゃんたちは、とても大へんな思いをしたそうです。かなしくてつらい事ばかりなのに、何でせんそうなんかするのだろう。今でも世界では、せんそうをしている国があると聞き、とてもびっくりしたし、かなしい気もちになりました。ころし合いのせんそうが、なぜなくなるのか。わるい事に決まっているのに。ぼくには、まだ分からないむずかしい事が色いろとあるのかもしれない。

せんそうについて、べん強をしたいと思いました。そしてなぜぼくのひいおじいちゃんは、せんそうに行つて、ひいひいおじいちゃんは、原ばくでしななければならなかったのか考えていきたいと思います。

《寸評》立川さんは、3年生なりに平和について、そして戦争について真剣に向き合い考えました。ひいおじいさんは、中国へ行って兵隊として戦った時、運よく相手の銃弾が持っていた飯ごうにあたったために命拾いしたこと、ひいひいおじいさんは、広島に落とされた原爆で亡くなったことなどを聞いて、なんで戦争をするのかと疑問を持ちこれからも真剣に考えようとしています。もしひいおじいさんが亡くなっていたら、自分がこの世に存在しなかったことにまで触れ、自分と関連付けて考えました。

【優秀賞】

くさかった服

大岡小学校 6年 中山 閏之祐

ぼくは祖母に「花とウォーキングのまちの平和賞作文」を書くにあたって、曾祖父の事について聞きました。
「長崎から帰ってきたお父さんの服はとてもくさかったのよ。」祖母は言いました。
現在82才の祖母は第二次世界大戦中、家族と一緒に佐賀県に住んでいました。ぼくの曾祖父は警察官だったので、長崎に原爆が投下されたその日のうちに救助の要請をうけて長崎市に行きました。当時40代でした。曾祖父が長崎駅に近づくにつれて、とてもくさい臭いがしてきたそうです。着いた長崎の町は地獄のようでした。荷馬車をひいていた馬はその場で死んでいて、川のまわりや川の中には人の死体がたくさんあったそうです。生き残った人は助けを求めたり「水をくれ」と言ってきたそうです。
長崎に救助に向かってから2日目の8月11日に佐賀で空襲があったので、曾祖父は佐賀に戻りました。家に帰った曾祖父の服はとてもくさかったそうです。それは長崎で負傷した人を助けたり、亡くなった人を運んだときに着いた血や火傷でただれた肉の臭いがしみついたものでした。
それを聞いてぼくはぞっとしました。これまで写真やテレビで原爆直後の町の様子を見た事があり、それだけでも怖いと思いました。それなのに曾祖父は2日間もがれきとやけただれた人達とものすごい臭いの中にいたかと思うと、どんな心境だったのかなと思います。ぼくは長崎に「原爆」が投下されたということを知っているけれど、何の情報も無く、その光景を見た曾祖父の頭の中は真っ白になったと思います。そんな時「水をくれ」「助けてくれ」という声を聞き無我夢中で助けたんだと思います。だから曾祖父は家から持ってきた水筒の水が無くなってしまう事も考えずに、水を全てあげてしまったんだと思いました。
今回ぼくは初めて戦争の事を祖母から聞きました。体験した人から直接話を聞くと、他人事ではなく身近に感じました。やはり戦争は悲惨で怖いものだと思います。
日本は今平和で、「戦争の放棄」を含む憲法があります。その平和憲法はぼくにとって「あってあたり前」だと思っていたのですが、無くなる可能性もあると母に言われました。戦争は絶対にいけない。その憲法をこれからも守っていくのがぼくたちの役目だと思います。

《寸評》中山さんは「花とウォーキングの平和賞」の作文を書くにあたって、おばあさんから戦争中の曾祖父様のことをたくさん聞くことができました。「ひいおじいちゃんの服はくさかった」それは「負傷した人を助けたり、亡くなった人を運んだりした時についた血や火傷でただれた肉の臭いがしみついてしまった臭い」だと。それだけでも、戦争は悲惨で怖いものだと知ることができましたね。今後は、今ある憲法を守って、平和な世の中になるよう日々生活をしていってください。

【優秀賞】

心、そして世界中を平和に

青島小学校 5年 山崎 清花

私は戦争のことを考えるだけで、夜ねむれなくなります。それは、戦争がとてもおそろしいものだからです。私は戦争のおそろしさをさらに知るため、丸木美術館に行きました。丸木美術館には最初、こわいので行きたくありませんでした。でも、先生が一度は行くといいと言っていたので行きました。するとそこには思っていたのよりもはるかにおそろしい絵がたくさんえがかれていました。火の中にドミノのようにたおれていく人々の様子、目がはれてたれさがった人々のすがた…。

丸木美術館で私は、絵を見ていて思いました。なくなっていくのは、人の命だけではないと。動物も植物だって建物までなくなってしまうていました。戦争がすべてを飲みこんでしまったのです。そして生まれたのは、強い憎しみだけです。戦争は、敵も味方も関係なくきずつけましたが、心も深くきずつけたのです。丸木夫妻の思いが、私の心に強くささりました。全くその通りだと私は思いました。他にも心に深く残ったものがありました。それは、戦争の中の絵で、母子像がえがかれているものでした。説明書きには「この母子像は悲しみがえがられています。しかし母子像とは希望があるところでなければならぬはずです。」と書かれていました。私は、もう一度絵を見ました。確かに、そこには悲しい、希望がなくなってしまうような母子のすがたがえがかれていました。

このように、すべてをきずつけてしまった戦争をなくすためにはどうすればいいのでしょうか。最初は国境をなくせばいいと思いました。そうすれば、みんな一つの仲間になるからです。でも、国境がなくなっても、けんかや憎み合いがあつたら、戦争はなくなりません。では、戦争をするときに使う武器をなくしたらどうでしょうか。それでもやはり、武器なしで戦うかもしれません。言葉や行動で人をきずつけることができるからです。そうです。何かをなくすだけではだめなのです。一人一人が平和を心から願い、そしてみんなで助け合えばいいのです。戦争とはとてもおそろしいものなのに、一人一人が思った小さないらだち、いかりなどからおきてしまいます。11才の私にできることは何でしょう。例えば、けんかがおきていたら、私はどっちの味方にもつかずにとめます。そして、どうしてけんかになったのか話し合います。すると、小さなことがけんかにつながったことが多いです。小さなことが大きなことになる前に、みんなで話し合って解決していくことが大切なのです。また、青島小には、丸木夫妻がかいた、青い鳥の壁画があります。そこには、はだの色がちがっても、体のどこかがなくても、平等に生きる権利があるという意味が表されています。私は、こんな丸木夫妻の思いを受けつぎたいです。そして、自分にできることをしっかりやって、戦争のない平和な世界にみんなですていきたいです。そして、みんなの心に平和の花をさかせたいです。

《寸評》戦争の恐ろしさを知るために、丸木美術館へ行き、丸木夫妻の思いを心に強く受け止めた山崎さん。いい経験をしましたね。そして、自分なりに戦争をなくすにはどうしたらよいかを考えたり、11才の自分にできることは何なのかを考えたりして平和な世界に対する決意をしっかり述べています。これからも、みんなの心に平和の花が咲くよう、日々考えて行動していつてください。

【優良賞】

平和とは

松山第一小学校 5年 桂嶋 暁

平和って何だろう？

戦争のない世界、学校へ通える事、毎日ごはんが食べられる事、家族と一緒にいられる事。次々と色々な事が出てくる。当たり前な事が出来ない国や人がいる。テレビでも悲しいニュースがたえないでいる。

ぼくは平和にする事がそんなにむずかしい事なのかと、いつも思っています。自分がやられていやな事は他人にやらない。されてうれしい事は色々な人にやってあげる。そうすればケンカやあらしい事はなくなると思うのです。

先日ぼくは、おじさんと一緒にスケートボードの練習場に行きました。ぼくはまだ始めたばかりなのでドキドキしながらはっこの方で練習をしていました。そこへ3人の高校生くらいのお兄さん達が入って来ました。その内の一人は外国の人でした。ぼくは、へたくそなのでお兄さん達のじゃまにならない様にしていました。すると、一人の外国のお兄さんが、ぼくに話しかけてきました。ぼくは何を言っているのか全く分からずモジモジしていると、やさしく笑顔でぼくの手を引きました。その時やっと、スケボーを教えてくれるのだと分かりました。初めはきんちょうして顔も見れなかったのですが、やさしい声と笑顔で徐々にきんちょうがほぐれました。ガチガチだった足もだんだんなれてきて一人でもボードの上に立ってすべれる様になっていました。思わずうれしくてお兄さんにピースをしました。お兄さんもそれに応えるように親指を立てて「グッドジョブ！」と言ってくれました。この時ぼくは、お兄さんと言葉は分からなくても心は通じるのだと思いました。

やさしさは人を幸せにするし、自分自身も幸せになります。笑顔は世界共通だという事も分かりました。お兄さんと心が通じた時ぼくは心がポカポカした感じになりました。

今思うと、これも平和なのかなと感じます。ぼくも、お兄さんみたいに親切な人になりたいと思います。そうすれば親切の輪が少しずつ広がって、いつかはみんなが幸せになれるのではないかなと思うからです。まずは、笑顔の練習から始めたいと思います。

《寸評》桂嶋さんは、前半で、「平和って何だろう」「平和にする事が、そんなに難しいことなのか」と疑問を投げかけ、その答えとなる自分の考えをはっきり述べています。その答えを確かめるように、スケートボードの練習場で自分が経験した事例について触れています。言葉もわからない外国のお兄さんに親切にされて、緊張がほぐれ上手に滑れるようになったという大変説得力のある文章となっています。ピースサインにグッドジョブと返す素晴らしい心と心の交流が伝わってきました。

【優良賞】

千年希望の丘

松山第一小学校 6年 横田 悠妃

大切な人を突然に失うことは、言葉では言い表せないくらいとても辛くて悲しいです。

2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。地震の後、大きな津波が一しゅんでたくさん
の大切な命を、ものをうばっていきました。私のいとも流されてしまい、8年たった今でもまだ見つ
かっていません。たくさんたくさん泣いたのを覚えています。

今、いとこたちのいる名取市は、整備が進んでいて海沿いに公園がたくさんできています。私もいく
つかの公園に連れていってもらったことがあります。なぜ公園がたくさんあるのか、その理由を知り
ませんでした。

伯母さんに聞くと、大震災の津波によって人が住めなくなった土地を活用して、沿岸約10kmにわた
って6つの公園を整備したんだそうです。私たちが遊んだ公園もその一つで、どの公園にもあった高い
丘の滑り台は、津波がきた時に避難する場所なんだそうです。

深く調べてみると、公園の役割は避難するためだけのものではありませんでした。丘の土台には、
人々の生活の証である「震災ガレキ」が使われていて、大津波のこん跡や被害者の想いを後世に伝え、
震災の記憶や教訓を国内外に発信するメモリアル公園と防災教育の場として活用されていると知りまし
た。

6つの公園のある丘は「千年希望の丘」という名前があります。千年先まで、子ども達が笑顔で幸せ
に暮らせるようにと願いを込めて名づけられたそうです。悲しい出来事がくり返されることのないよう
、想いをつないでいくことは、私たちが伝えていかなければならない大切なことです。

戦争にも同じことが言えます。今、この時代に生きる人々が悲さんな戦争をもう二度と起こさないよ
うにと考えているかということ残念ながらそうではありません。

自然災害は、完全に防ぎきることはできないけれど、戦争は人の手で止めることができます。未来の
人々の笑顔や幸せを願う心を行動に起こしていくことが平和を築く力になっていくのです。私は、小さ
な幸せを積みかさね、たくさんの方々の平和であふれる丘を築いていきたいと感じました。

《寸評》2011年3月11日に発生した東日本大震災と戦争を重ね合わせ、自然災害は完全に防ぎき
ることはできないが戦争は人の手で止めることができると力強く自分の考えを述べている作文です。「千
年希望の丘」千年先まで子どもたちが笑顔で幸せに暮らせるようにと願いが込められた公園があること
は、素晴らしいことです。東日本大震災のような悲惨な地震が二度と起こらないように横田さんと共に願
うばかりです。今後は、横田さんなりに小さな幸せを積み重ね、平和を築いていってください。

【優良賞】

ちらん特攻へいたい

高坂小学校 4年 小林 由奈

今年の夏は、おばあちゃんの生まれた、ふる里の鹿児島に行きました。鹿児島市からフェリーでわた
ったところにある大隅半島です。フェリーから「開聞だけ」という山が見えるはずでしたが、雲がかか
っていて、まったく見えませんでした。なぜ開聞だけを見たいかという「知覧特攻平和会館」にフェ
リーに乗る前に行ったのです。

鹿児島市の近くにある知覧特攻平和会館に入るとすぐに、ぼろぼろのさびた小さな飛こう機がありま
した。すると、お母さんが

「これは実際に特攻に行つてとちゅうに海に落ちた飛こう機を引きあげたものだよ。ここに兵隊がのっ
ていたんだよ。」

と言いました。館内に入ると、たくさんの方々の写真が、かざられていました。写真には、22才、24才、
19才、そして、16才の男の人もありました。そこには、い書もありました。太平洋戦争で、飛こう機
にばくだんをのせて、飛こう機ごと敵の大きな船につっこむことを「特攻」といいます。写真の人たち
は、「特攻兵」であり、い書は、その人たちが飛びたつ前に書いたものです。私は「まだ若いのに、私
と6才しかちがわれないのに」と思いました。戦争のことは習ったけど、「特攻」のことは知らなかった
です。特攻をすることはひみつだったので、い書はのこせても、家族に知らせることはできなかったの
です。家族に会えずに死んでいった人もたくさんいます。飛び立つ前にすごした「三角兵舎」も見まし
たが、敵に見つからないように林の中にもありました。うすぐらくて、とてもかなしい気持ちになりまし
た。知覧から飛び立つ兵隊は、「開聞だけ」という鹿児島の有名な山を最後に飛こう機から見て日本に
別れをしたそうです。おばあちゃんたちと大隅半島にわたって、ホテルからは、開聞だけが見えまし
た。見ると、海にきれいな山が、見えました。小さいけど、富士山のような美しい形をしていました。
兵隊たちは、富士山のような開聞だけを見て、飛びさっていきました。

わたしは、この平和としあわせにととてもかんしゃでいっぱいです。この平和としあわせがつづいてほ
しいです。

《寸評》小林さんは、夏休みにおばあさんの故郷である鹿児島の知覧特攻平和会館の見学をしました。そ
の時の感想や戦争への思いを文にしてくれました。特攻にもいろいろな特攻隊があったようですが、知覧
の場合は、小林さんが書いているように爆弾を積んだ飛行機ごと敵の船などに体当たりして攻撃する方
法で、多くの若い人が命を落としました。そのような形で亡くなった人たちがいたことを知っただけでも
貴重な経験となりました。

【優良賞】

平和と戦争

青鳥小学校 5年 篠田 華

私は、平和という言葉を知ると、みんなが幸せで、明るく楽しく、戦争などがないことをイメージします。でも、昔は、戦争がありました。私の祖父は、戦争の時1才で、ひいおばあさんは26才です。私はひいおばあさんや祖父に聞いたことを思い出しました。ひいおばあさんと、ひいおじいさんと、祖父は、戦争の時、東京都に住んでいて、その家が焼けてしまい、ひいおばあさんの実家をたよって、埼玉県小鹿野町にそかいしたと聞きました。あまりしゃべらない祖父がくわしく話してくれました。

「おじいちゃんとはまたま、お母さんと小鹿野町に帰っていたから、助かったけど、近所の人達は、皆亡くなってしまったんだよ。おふろ屋さんもお医者さんも。一緒にくらしてた近所の人は皆焼け死んでしまった。」

私は、ビックリしました。祖父の命が今あることは、まったくのぐう然と幸運が重なったからなんだなと思いました。

そして、私は、祖母にも聞いてみました。太平洋戦争で2,000万人の人の命がなくなったこと、国内でも200万人の人が亡くなったと聞きました。それに、広島や長崎にも原爆くが落ち、たくさんの方が命を落とし、原爆くはたくさんの方がたっても亡くなる人はたくさんいたのです。沖縄も、すごく大変だったそうです。なぜなら、アメリカとの戦争の戦場になってしまったからです。

私はこれらのことを聞いて、できることがあります。それは、戦争を体験したお年よりの方々に話を聞いて、

「戦争は絶対してはダメだ。」

と、きもに命じて、次の世代に戦争がどんなに世界の人々が苦しみ、不幸にするかを語りつぐことです。他にもできることがないかと考えてみました。それは、私達が大人になって、戦争をしようとしている人を全力で、絶対しないようにすることです。このことを、心にとめて、絶対戦争をしないようにしたいと思います。

《寸評》普段はあまりしゃべらないお祖父様やお祖母様から疎開生活のようすや原爆が落とされた時の様子など戦争についての話をくわしく聞くことができた篠田さん。戦争を身近に考え、「戦争は絶対にしてはダメだ」「戦争をしようとしている人を全力でしないようにさせる」など力強く宣言もしてくれています。また、戦争の話を「語りついでいく」など決意も述べています。今後は、戦争のない平和な世界について更に考えていってください。



【優良賞】

大ばあちゃんの話

桜山小学校 4年 宮下 芽依

私のお母さんも、おばあちゃんも戦争を経験していない。でも、今93才の大ばあちゃんは、戦争を経験していて戦争の事を話してくれた。たくさんの戦闘機が飛んできて、ばくだんを落とし、サイレンが鳴る度に防空ごうに逃げてこわかった。日本は、お国の為に戦い多くの戦死者が出た。若者が次々に戦場に消えていったという。大ばあちゃんの兄は軍かんがばくげきされ、海に投げ出されたところを助けられたそう。他に千人針をぬったそう。大ばあちゃんは、とら年だったので、とらが「千里を歩き、千里を帰る」との言い伝えがあるので、年齢だけ赤い糸で結び目をつくって兵隊の無事をいのったのだ。

どうしてこんな戦争が起きたのか、私は気になって調べてみた。太平洋戦争に関しては、日本がハワイの真じゅわんにあるアメリカ軍き地を奇しゅうして、アメリカ・イギリスにせんせいし、始まった。でも、どうして奇しゅうしたのか分らなかった。

私は、「原爆の火」というお話を讀んだ。本の中に出てくる人達は、「水、水をくれー」と泣きさけんで地ごくのようだった。本当にそんな事があったと思うと、こわくて身ぶるいする。こんな戦争二度と起きてほしくない。

私の住んでいる町の近くに吉見百穴がある。そこは、戦争の時、地下軍需工場がつくられていた。今も工場の跡があり、私が入った時にひんやりして不気味な感じがした。後ろに何かいるような気配がして背筋がこおるようだった。この場所は、ひどいばくげきを受けた。その時に亡くなった人達の霊が、ただよっていたのかもしれない。

今は、戦争もなく平和にすごせている。東松山市は、「花いっぱい運動」や「スリーデーマーチ」をおこなっている。スリーデーマーチは、昭和53年から始まり続いていて、日本や、世界各地から参加者が来ている。東松山は花を大切にしている。これからも、戦争のない、平和な時代が続いてほしい。

《寸評》宮下さんは、93歳の大おばあさんから聞いた体験談をまるで自分が経験したかのように書きました。短い文と常体の文で読み手をその場にいろような気にさせる文章です。大おばあさんの話をきっかけとして、自分で戦争のきっかけを調べたり、「原爆の火」という本を讀んだりしてその当時の様子を知ることになりました。東松山市の近くにある吉見百穴も戦争に関係する施設があったことなどにもふれ、身近な問題としてとらえています。

【優良賞】

ひいおじいちゃんと心の傷

桜山小学校 5年 中村 陽翠

平和という言葉にはどんな意味がこめられているのだろう。けんかをしないで笑って楽しく過ごすことも平和なのかも知れない。日本は平和な国の一つだと思う。しかし、何十年も前の日本は戦争をしていて、平和というには程遠い国でした。今、平和だと感じられるのは、戦争での反省が生かされてきたからなのかも知れない。

ぼくはおばあちゃんに呼ばれ仏だんの前に行った。会ったことがないひいおじいちゃんと大好きだったひいおばあちゃんの写真の横に見たことがないぼうしがあった。そのぼうしは、ひいおじいちゃんが戦争で海軍に所属していた時に使っていた物と教えてもらいました。ぼうしが今でも残っているということにおどろいたけれど、ひいおじいちゃんは戦争の事を後の世代にも伝えたくて大切に取っておいたのかも知れない。ひいおばあちゃんは戦争の事を全く話そうとしなかったそうですが、ひいおじいちゃんはよく話していたそうです。そこには二度と経験をしてはいけないという意味もあったのかな、と思いました。

ひいおじいちゃんは海軍で、主に飛行機をそうじする部隊にいました。日本だけではなく、スラバヤ（インドネシア第2の都市・東ジャワ州州都）にも行ったそうです。ある日、そうじ中の飛行機がばく発して大やけどを負いました。やけどで両手の指は曲がり不自由になってしまいました。片手はグー、片手は関節で曲がった状態で動かず、全身の皮ふも何か所か移植しさわると固かったそうです。話の内容以上にからだ全体が戦争のひどさを語っていたのかも知れない。ひいおじいちゃんは負けずぎらいで、何事にもちょう戦する気持ちを常に持っていました。ぼくがおどろいたのは習字です。曲がった手で筆を持ち、習字をしていました。その時の文字を見たけれど、とてもしっかりとした文字を書いていました。忘れていた気持ちを取り戻してくれる大きな存在のひいおじいちゃん。ぼくもこのことを伝えていきたいです。

なぜ、日本は戦争したのだろう。日本という国を認めて欲しかったから？亡くなった人よりも、戦争を経験した人の方が大きな心の傷が残っているということを理解しなければならない。ひいおじいちゃんのぼうしにはたくさんのメッセージが残されているかも知れない。二度と戦いをしないためにも、ぼうしのメッセージひとつひとつの意味を大切にし、伝えていくことが大切だと思いました。ひいおじいちゃんと話すことは出来ません。心の傷をいやしてあげることも出来ません。残してくれたぼうしは大切にします、と伝えたいです。

《寸評》平和について考え、仏壇の前に座った中村さん。大やけどを負い曲がった不自由な指で習字を書いていたひいおじいさんに間接的に会えたり、ひいおじいさんが海軍に所属していた時に使っていた「ぼうし」を目の当たりにしたりして、平和について更に考えさせられたことでしょう。これからは、「ぼうし」に隠されたメッセージを自分なりに考えながら、ひいおじいさんの思いを胸に秘めて生活をしていてください。

【最優秀賞】

被爆ピアノ

松山中学校 1年 田中 海音

今年の夏、私には平和について考える、思い出深い二つの出会いがありました。
まず、一つ目は今夏の読書感想文の課題図書である小手鞠るいさんの「ある晴れた夏の朝」です。
この本は、アメリカの高校生8人が、広島・長崎に落とされた原子爆弾の是非について討論する話です。同じアメリカ人とはいえ、様々なルーツを持つ高校生が集まって討論をするのですが、まずもって、原爆否定派と肯定派に分かれての討論ということに、違和感がありました。

原爆を肯定する人がいるということへの違和感です。
本を読み進めていくと、原爆を肯定する人には、「戦争を終わらせるための必要悪であった」という意見があることが分かりました。原爆を落とさなければ、戦争が長引き、もっと多くの方が亡くなっていたという考え方です。到底納得いく考え方ではありません。

さらに、私もよく知っている詩、広島原爆の碑に刻まれた
「安らかに眠って下さい 過ちは 繰返しませぬから」
この詩を原爆肯定派は、日本人は戦争に対する全ての過ちを認めている詩だと解釈をしました。原爆を落とされたことも自分たちの過ちがあったからこそ、仕方がないことだったと日本人は結論を出しているというのです。この解釈に驚きました。ただ、英語の直訳だとどうしても上手く伝わらないことが分かりました。

最終的に討論会は原爆否定派が勝利し終わるのですが、私はこの本によって、言葉や文化、目にしてきた本やテレビにより、人は多くの影響を受けているということを感じました。それが正しいものであれば問題はありませんが、もしかしたら誤ったものかもしれません。私は、正しい知識を学ばなければならないと思いました。

二つ目の出会いは、戦争を見て来たスタインウェイピアノです。
東松山市民文化センターには、スタインウェイという世界最高峰といわれるピアノメーカーが作ったグランドピアノがあります。このピアノと同じメーカーのピアノが戦争中に戦地に運ばれ、演奏されていたという話を聞きました。

日本では軍歌ばかりが歌われ、娯楽にお金をさく余裕などなく、様々な企業がその技術の全てを軍事産業に注いでいた時代に、アメリカは戦地に送るためのピアノを作り、輸送機で空輸し、パラシュートで兵士たちに届けていたそうです。

そのピアノは、現在日本には2台、弾ける状態のピアノは1台しかないそうです。
アメリカ兵たちは、このピアノに集まり、演奏を聴いたり、みんなで歌ったりとひと時の癒しを与えてもらっていたようです。音楽はいつの時代もどこの国でも人々を癒してくれています。

先日、このピアノを使用したコンサートが開催されました。私は部活のコンクールと同じ日で行けませんでした。今後、広島原爆ピアノとアメリカの戦地で弾かれていたこのピアノ、それから東日本大震災で被災したピアノとの共演コンサートを計画しているそうです。私も何かの形で協力出来たらいいなと思っています。

私は、今夏のこの二つの出会いにより、平和について改めて考えました。まず、世界唯一の被爆国である日本人として生まれたからには、原爆や戦争について正しい知識を身につけ、語り継がなければな

らないこと。それから、世界の平和のためには、一人一人が平和について真剣に考えることが大事であること、自分の出来ることから、平和について行動する必要があるということが分かりました。

《寸評》「ある晴れた夏の朝」という課題図書から、原爆肯定派と否定派の討論について自分なりによく分析し、田中さんの考えが素直に述べられています。そのことによって戦争への認識が深まり、平和への想いも強くなったことでしょう。また、「広島原爆ピアノ」と「アメリカの戦地で弾かれていたピアノ」、「東日本大震災で被災したピアノ」の共演コンサートは、それぞれのつらい思いが癒され、これからの活力となるような計画です。これからも、平和について小さな一歩から地道に実践し、大きな平和へとつなげていってください。



【最優秀賞】

歩くことに関する悲しい話

松山中学校 1年 小山 寧々香

私の母方の先祖は、豊臣氏が埼玉県に来るより昔から大きな農家だったそうだ。

だが、暮らしは厳しく、特に第二次世界大戦末期に民間人であった曾祖父が徴兵されてからは、畑仕事にも人手が足りず、元士族の出身であった曾祖母は、慣れない農作業に苦勞した。大黒柱のない若い母親を軽く見る町内の商家の男性たちから、今でいうセクハラやパワハラを受け、悔しさに泣いたという話を祖母や母からも聞いている。

曾祖母は、とても優しい女性で、いわゆる「乞食」といわれる人たちが通りかかると、自分の昼食を紙に包んで届けに走るような人だったという。だから、子どもたちをととても可愛がった。母も、曾祖母は、ガンの末期で入院している最中でも、孫である私の母に優しくお菓子をわたしてくれた、お葬式では、単なる主婦の葬儀とは思えないほどの参列者がいたのだと話している。曾祖母の娘である私の祖母も、度々、死んだおばあちゃんのような優しい子育てはできないと言う。祖母はとてもおだやかな人で、私をととても可愛がってくれている。こんな祖母より優しい曾祖母とはどんな人なのか、想像が難しいほどだ。

話を変える。私の祖母の兄にあたる赤ん坊が、生後6か月ほどで病気になった。叔父が「あやしたら笑った頃と言っていた」と話していたので、きっと、とても可愛らしかっただろう。子どもを可愛がる曾祖母は、本当に大切に育てていたのだと思う。

当時、子どもの父親である曾祖父は、国内の基地を転々としていて、突然帰郷しては部隊に戻り、行き先がどこなのか家族にも話すことができないという規則のために、自宅にはいなかった。そのため、まだ30歳になったばかりの若い曾祖母が、たった一人で畑仕事をし、曾祖父の両親の世話をし、先に生まれている子どもの世話もしながら、病気の赤ん坊の看病をしていた。

いよいよ赤ん坊の様子が危うくなったが、歩いていける場所には病院がなかった。一番近い病院まで、歩くと1時間かかる。病気の赤ん坊を背負って1時間も歩くことはできないから、実際に病院に行くには高価なバスに乗るしかなかった。畑仕事、介護、育児を一人で背負っている曾祖母には、片道1時間の受診は、本当に追い詰められなければならないことだったそうだ。誰の目にも赤ん坊の命が危ないと分かる頃になって、曾祖母は一人で赤ん坊を背負ってバスに乗ることができた。だが、やっと診察してもらえた時には、赤ん坊はもう死んでいた。

法律では、死んだ人間はバスや列車に乗せることができない。でも、電話で呼び出せる家族もなく、子どもの父親がどこで戦っているのかも曾祖母には分からない。仕方なく曾祖母は、警察につかまってしまうのではと怯えながら、死んだ赤ん坊を背負ってバスに乗った。赤ん坊の顔がわからないように、ぼうしを深くかぶせたのだそうだ。ところが、バスの中で、乗り合わせた親切な女性が、

「奥さん、こんなに深くぼうしをかぶせたら、赤ちゃんが苦しいよ。」

と言って、死んだ赤ん坊のぼうしを直してくれるということがあった。曾祖母は、もし死んだ子どもをバスに乗せていることがわかったら大さわぎになると思い、生きた心地がしなかった、と話したそうだ。幸いその時は赤ん坊が死んでいることを誰にも気づかれず、曾祖母は無事に家まで帰ることができ、赤ん坊のお葬式をあげたそうだ。

私の母は、泣きながらこう言う。

「兵隊さんが死ぬのは、仕事だから仕方がない。お給料をもらっていたんだから。でも、生まれて半年の赤ちゃんが病気になって、ようやくと病院に行けたのに死んでしまったら、私なら気がくるってしまうと思う。若いお母さんが一人ぼっちでこんな目にあうなんて、ひどすぎる。」

私にはまだ、自分の子どもを失ったのに、泣くこともできない母親の気持ちはわからない。この話を聞いても、いつも元気で強気な母が泣く様子を、どうしてよいかわからない気持ちが強い。でも母は、そんな気持ちは一生わからなくて良いんだ、と泣きながら言う。

曾祖母の命日は8月1日である。

《寸評》小山さんの曾祖母の限りなく聡明なやさしさが代々引き継がれている尊いお話です。戦時中の厳しくつらい時期を力強く生き抜いた曾祖母の様子が伝わってきて、生まれて半年の赤ちゃんが病気になって現代では考えられないような厳しい状況に置かれた曾祖母の想いに胸打たれます。死んだ赤ん坊を背負ってバスに乗ることの苦しさや無念さ、どんなにか辛い思いをしたことでしょう。お母さんや祖母の話から、当時の体験の悲惨さが細かく綴られており、平和への願いが強く感じられた作文です。

【優秀賞】

「この地球の幸せは…」

白山中学校 1 年 松口 芽生

気球のイメージ。カラフルな風船の下でゴーゴーと炎を出し、空高く飛んで行く。そこから見る景色を想像するとなんとワクワクする乗り物である。

実際、幼少の頃イベントで気球に乗る機会があった。もちろんロープでつながれている為、自由にどこかに飛んでいくわけでもないが、空高く上がるにつれ眼下に広がる世界はなんとも言えず、ワクワクしたのを今でも覚えている。

ところが、その夢のある気球が戦争当時は「風船爆弾」「気球爆弾」として敵国に爆弾を落としに行った道具として使われていたそう。

このことを知ったのは、つい数年前。

親戚に小川和紙の職人だった人がいる。90過ぎのお爺さんだ。

和紙の勉強をしていた時に風船爆弾の話を書く事ができた。

12歳の頃奉公に出て、紙漉きを学び始めた。戦時中は、できるだけ薄い紙を作るようにという要請の下、最盛期は朝から晩まで一日に4名で700枚もの紙を漉いていたという。なんと気の狂う作業だ。

爆弾を飛ばす作戦は秘密裡に行われており、気球紙の漉き手や気球紙の張り合わせに動員されていた女性たちは自分が何を作っているかは知らされていなかった。また知りたくても知ることができなかったそう。

もし、和紙が戦争の道具として使われていたと知りながら作らなければならなかったら、きっとやり場のない気持ちでいたに違いない。

私にとって戦争は、この世で一番恐怖なことだ。実際に体験しているわけではないが、親戚の話もちろん、戦争を体験した曾祖母からの話。そして8月6日にテレビで流れる原爆のニュース。これらの情報から想像するだけでも恐ろしくて眠れない。もしも私がこの時代に生きていたら、死が間近にきているという恐怖を感じながら、毎日を過ごしていただろう。

一昨年の夏休み。私は母とピースミュージアムに行った。そこには戦時中の洋服や青い目の人形など展示されていた。焼けてボロボロになっている物、壊れていてなんだか分からない物など様々な物があった。その展示されている物を見ると戦争の痛々しさが伝わってくるようだった。また、戦争当時の教室に入って、空襲警報が流れたら防空壕に逃げるという体験があった。当時は戦争の怖さを知らなかったため、軽い気持ちで体験してみた。しかし、思った以上に怖かった。実際に爆弾が落ちてくるわけでもなく、炎に囲まれているわけでもない。でも自分が本当に戦争をしている場にいるようで、防空壕の奥底まで隠れてしまった。その時、日本は戦争をしていないのに私は怖がっていたのだ。自分が戦争時代に生きていたら、おそらく逃げられなくて生きていなかっただろう。そこで改めて戦争の怖さ・厳しさを知ったと同時に、戦争について考えてみようと思うようになった。

辛い思いしかない戦争をなぜ人々は始めたのだろうか。「戦争なんかしたって何の意味もない。ただ大切な人が亡くなって淋しく辛い思いをするだけだ。生きているという大切な命と笑顔を一瞬にして簡単に奪っていく。戦争なんて始めなければ良かったのに。」戦争のデメリットなんて数え切れないくらいある。戦争に負ければデメリットしかない。勝ってもメリットは領土が増えるだけだ。

昨年の4月に家族で沖縄に行った。その時、ひめゆりの塔や沖縄平和資料館を見に行った。どちらも戦争に関する所だ。一緒に観光をしながらガイドさんが沢山のことを教えてくれたため、色々な情報を知ることができた。ひめゆりの塔では、ひめゆり学徒隊や防空壕の中にいた患者さんを含む大勢の方が、落ちてきた爆弾により亡くなったこと。沖縄戦争でたくさんの人々が犠牲になったこと。ガイドさんの説明を聞いて改めて、「戦争の怖さ」や「もう二度としてほしくない。」と家族で話し合ったことを覚えている。

みんなが幸せに生きていくことが「平和」と言えるのではないだろうか。現在、日本人の大半が幸せだとしてもそう感じていない人もいるだろう。逆に世界に視野を広げて、「今の世の中が幸せか。」と問われれば、誰もが「いいえ。」と答えるのではないか。戦争がある限り人々は「平和」と言う事は出来ないと思う。

日本は昭和20年8月15日に終戦日を迎えたが、未だに他国は戦争をしている。

終戦日から74年が経つ今、戦争について考えている人は多くはない。戦争という言葉の頭に入れ、今後の世代に戦争の怖さなどを語り継いでいくことが、今の世の中には最も必要だと思う。私自身も戦争について考え、安全に暮らせていることに感謝をしながら、一日一日を大切に過ごしていきたい。

《寸評》親戚の小川和紙の職人だったお爺さんから聞いた「風船爆弾」の話は、興味深いものでした。松口さんは、当時の状況を知り、戦争ということの学びを深めることができたのですね。大切な命と笑顔を一瞬にして奪っていく戦争、その戦争の悲惨な実態を知ること、平和への想いがより強くなったのだと思います。これからも、戦争の怖さを語り継いでください。そして、戦争という過去の歴史をしっかりと学び、平和な暮らしが続けられるようこれからの活躍を願っています。

【優秀賞】

憎しみの壁を越えて

白山中学校 2年 大野 真央

私の愛を待つ人がいる。あなたの愛を待つ人がいる。そう何かが訴えかけている。今もやむことのない紛争。その地で暮らす人々も平和な暮らしを望んでいるはずなのに。紛争が絶えない今の地球は、互いをにらみ合い、憎悪し、そして敵視する。そんな憎悪とにらみ合いがなくなった地球に住み、愛であふれた世界を築き上げたい。

私は、1枚の写真を見て、衝撃をうけた。それは、空爆で重傷を負った少女の写真。片目を負傷している彼女のもう一方の目はカメラを越え、私を見ている。彼女の目には、涙でも笑みでもなく、強い意志を感じる。爆撃の恐怖の中で生きる彼女を苦しめている、「紛争」とは、なぜ起こったのだろう。そして、紛争下で生きる人々を守るためには何を胸に、何を行動にしていけば良いのだろう。

紛争は、歴史的な背景、国内の問題、外国からの干渉、経済的な動機で起こる。しかし、これらは全て国家的な問題である。そう思うと、権力によって失った彼女の目の悲惨さを改めて感じる。

想像する。もしも、世界中の人々が同じ人種で、同じ宗教であるとしたら、紛争は起こっていただろうか。そんな世界であれば、考え方の違いもなく、争いも差別もない、穏やかな世界であったかもしれない。しかし、現実はその風にはいかない。この地球には人種が存在し、私もそのうちの一人なのだから。

紛争の原因となる、国家的な問題は全て、人種差別からきていると言っても過言ではないだろう。私が見たあの写真の少女は、どこでどんな思いをして片目を負傷したのだろう。きっと彼女が負傷したのは片目だけではない。紛争は彼女の身内にも友達にも傷を負わせたかもしれない。何よりも彼女の胸に深い傷を負わせたことは事実である。身体の傷は治すことができても、胸の傷は、彼女の頭に紛争の記憶がある限り、そして彼女の望む世界がやってくるまで、深く傷跡を残すだろう。

彼女はイエメンという国で紛争に巻きこまれた。イエメンでの紛争はすでに3年が経過し、世界最悪の人道危機となっている。中でも最も影響を受けているのは子どもたちである。犠牲になった子どもたちは数えきれないほどいる。彼女も、彼女の家族も、友達も、空爆や爆撃をしてきた人々のことをどれほど憎んでいるだろうか。とてつもなく憎んでいるにちがいない、と思っていた。しかし、思い返せば、平和とは憎しみと憎悪を失うことが必要であった。紛争下で暮らす人々は、憎しむことから目をそむけ、平和な暮らしを目指して前を向いたに違いない。敵視する立場にある人々。しかしその人々の間には愛が存在すると思う。その愛はきっと国家権力に左右されたものではなく、個人を想う美しい愛である。それこそが平和の象徴であると言っても良いと思う。アメリカのミュージシャンだったジミ・ヘンドリックスはこう言う。

「カへの愛に、愛の力が勝利した時、世界は平和を知る。」
この言葉のように、憎悪とうらみから打ち切らないと平和を築き上げることは、夢になってしまう。平和は決して夢で終わってはいけない。

全ての人々が、あらゆる偏見と差別、そして憎悪から解放され、平和で暮らせる世界を目指したい。そして私たちは、共通の敵、すなわち互いに対する無知と戦わなければならない。

《寸評》紛争が絶えない今の時代から、愛であふれた世界を築きたいとする大野さんからは、平和

について直視しようとする決意が感じられました。空爆で重傷を負った一枚の写真から、様々な思いを巡らせることができましたね。地球上に存在するそれぞれの人種や宗教など、互いに認め合っ
て差別のない穏やかな世界を目指して、平和への想いを強く持って、これからも力強く生き抜いて
ください。



【優良賞】

今の自分にできること

北中学校 1年 砂永 紡輝

今年も沖縄の夏が来た。沖縄にいとこがいる僕はここ数年、毎年のように遊びに行っている。海とキラキラする太陽が似合う場所だけれども、それとは全然ちがった歴史も持っている、それが沖縄だ。

2年前に行った平和祈念公園で、沖縄が日本の中で唯一地上戦が行われた場所なのだと知った。いれい碑には、日本人の名前もそれからアメリカ軍の人の名前もたくさん書いてあった。

今年は「旧海軍司令部壕」に母と弟といとこたちで行った。実際に使われた軍の防空壕のようなものだ。僕は防空壕は、市内のピースミュージアムに行った時に複製されたものを見て、中にも入ってみた。少し暗くてさみしい感じがしたのを覚えている。

壕に入るとまず、入り口の階段にたくさんの千羽鶴がかざってあった。平和への祈りとして全国から届いたそうだ。中は通路のようになっており、ぐるりと一周できるような構造をしていた。途中いくつか部屋があったが、その中でも「幕僚室」という部屋には無数の手りゅう弾の破片の跡が当時のままに残っていた。司令部を率いた大田司令官らがここで自決したそうだ。その時のままに残されている本物なので僕は少しこわくなった。自分で命を絶つという気持ちがどんなものなのか僕にはまだよく理解することができない。通路の壁はでこぼこで「つるはし」という道具で人力で作ったからだそうだ、どれだけ大変だったのだろう。

パンフレットの中に、九州へ疎開しようとしていた子どもを乗せていた対馬丸がアメリカ軍に撃沈され、700人も亡くなったと書いてあった。僕と同じ中1の子もいたと思う。こんな戦争がなければ死ぬこともなかったし勉強や運動をして、将来の夢を持っていたらと思う。同時に自分たちは「平和ぼけ」をしてしまっていて、あたりまえに学校に行き、部活をしているけれどそれは本当はとても貴重で幸せなことなのだと感じた。あい変わらず勉強が嫌いな僕だけれど、したくてもできなかった当時の子たちのことを考えると苦しくなってくる。

この壕で指揮をしていた大田少将は、もう自決しか方法がないと考えた時、海軍次官に最後の電文を打った。「沖縄県民かく戦えり」である。そこには、沖縄の人々がこの戦争でどれだけ国のために頑張ったか、そしてその思いが叶わずに死んでいったかが書かれている。僕は、たまたま県民だったというだけなのに、日本のために軍に自主的に協力して、つらい思いをしてきた県民の人たちの気持ちを考えて、わざわざ伝えなくてもいいことなのに本土にそのことを伝え、その勇気をたたえたという大田少将という人の人間性に感しんした。きっと自分が率いていた軍が戦争で結局勝利をおさめられなかったことを申し訳なく思ったのかもしれない。結局自分自身も自決して死んでしまうなんて、本当に悲しい。

沖縄の地上戦は約6か月続いたが、戦死者は20万人、うち沖縄の人が13万人、他県の人が7万人だそうだ。20万人という数は想像がつかないけれど、母がパソコンで東松山市の人口を調べてくれ、9万人だと分かった。東松山市の全人口の倍以上が、一瞬にして亡くなってしまったということになる。とても信じられない。しかもそれが70年前に本当に起きていたことなんて。

僕が生まれた「平成」の時代は戦争がなく平和に終わることができた。これから始まる「令和」の時代はどうなるのかと考えた時、やっぱり平和でいてほしいと思う。戦争は多くの人の命や夢をうばうものだ。

今の自分に何ができるのか、まず思い浮かんだのは「何もできない。」ということだ。確かに中1の

僕が、戦争が起きないようにするために直接的に何かをすることは難しい。でも、間接的に何かできないかと考えた。まずは過去の歴史を知るということだ。今回知った沖縄地上戦以外にも、広島、長崎、に落とされた原子爆弾のこと、東京大空しゅうのことなど、これから実際に資料を読んだり、実際に行ってみて、日本がどのようなことをしたのか、されたのかを知ること、もう二度と同じ過ちをおかさないという思いを持つことができると思う。今の自分を考えたとき、できる事は、身近なことに注目して精一杯頑張るということだ。生きたくても生きられなかった70年前の子どもたちのためにも、一日を大切に精一杯生きていきたい。そして「令和」の時代も、その先の時代も永遠に平和でいる世の中であれと思う。

《寸評》砂永さんは、毎年のようにいとこがいる沖縄へ行き、沖縄の歴史や日本で唯一地上戦が行われた地であることを知り、自決についても、深く考えることができました。今の自分に出来ることは「過去の歴史を知ること」とし、その上で、過去の悲惨な出来事から、生きたくても生きられなかった70数年前の子供たちのためにも、今の自分たちが一日一日を大切に精一杯生きていくことや「令和」の時代に向けた平和への願いをしっかりとめられています。

【優良賞】

二つの平和

白山中学校 1年 島田 竜成

みなさんは平和といたら何を思い浮かべますか？きっと、「戦争がないこと」、「争いがないこと」と思う人がたくさんいると思います。たしかに、平和の意味を調べると、「戦いや争いがなくおだやかな状態」と出てきます。しかし、ぼくは平和というのは、もっといろいろな意味があると思います。

一つ目は、みなさんが思い浮かべている戦争や争いがない世界これは、たしかに平和だと思います。戦争によって、亡くなられた人は、日本だけでも約310万人以上います。その中には、いろいろな国との戦いで亡くなってしまった人、原爆によって亡くなってしまった人といろいろなことで、亡くなってしまった人がいるのです。ぼくは、戦争は、大きなまちがいだと思います。そして、戦争や争いがない平和は、例えると「国の平和」とぼくは思います。

二つ目は、心の平和です。みなさんの心は平和ですか？心はいろいろな感情を生み出すことができます。嬉しかったり、楽しかったり、さびしかったり、悲しかったり、あこがれたり、いろいろな感情を心は生み出すことができます。今挙げた6つの感情をプラスとマイナスの感情に分けてみましょう。プラスの感情は、嬉しい、楽しい、あこがれる、マイナスの感情は、さびしい、悲しい、おこる。このように分けられます。心に平和がないときは、マイナスの感情が強く出ているときです。そうすると人は、興奮状態になります。興奮というのは、感情が高ぶってしまうことです。そうすると、「けんか」がおこります。みなさんも一度はしたことがあるでしょう。ここで、戦争に話をもどします。この戦争を簡単に表すと、国と国とのけんかなのです。みなさんは、戦争というと、なにか大きなものに感じていませんか？しかし、簡単に表すと、戦争は、身のまわりで、しょっちゅうおこっているけんかなのです。このけんかがどんどんエスカレートしていくと、人を自殺においこんでしまうこともあります。そうすると、戦争と同じで、「犠牲者」が生まれてしまいます。ネットのいじめも同じです。悪ふざけで、友だちに、「死ね」、「うざい」、「きえろ」このような言葉をかきこんで、その友だちを苦しめて「なんで私が、ぼくがこんなめにあわなくちゃいけないの」と思いその苦しみからぬけだしたくて、自殺をする人だっています。そうすると、書いた人は、「ふざけてやった」、「いたずらでやった」と自分が悪ノリでやったと言います。しかし、事態は変わりません。亡くなった人の命は、もう元にはもどっては来ないのです。

総合の時間に担任の先生から言われた言葉があります。「スマホは凶器だ、その気になれば人を死に ойやることのできる武器になる」この言葉はとても印象に残っています。その言葉は、「大げさだ」と思う人もいるかもしれませんが、全て事実です。ネットやラインの言葉によって自殺をしてしまった人はたくさんいます。そんな若い命が亡くならないようにするためにも、心の平和は必要なのです。このネットのいじめについても、ドラマでやっていたものがあります。それは、「3年A組」です。このドラマは、3年A組の生徒をかんきん（人質に）していろいろないじめについて、担任の教師が教えていくドラマです。このドラマでは、まったく知らない人達が3年A組の一人の生徒にSNSで悪口を書いて、その子が自殺してしまったというシーンがあります。その子は、SNSの書き込みによって、幻聴や、たくさんの誹謗中傷に悩ませられ、その苦しみから逃れたくて、自殺をしてしまった。ネットはたしかに便利なものです。しかし、その中には周りの言葉に流されて、簡単に言葉の暴力を吐きます。そして、その自覚のない悪意が心を殺すことだってあるということを、このドラマは教えてくれまし

た。ぼくは、このSNSというもので、人の心を簡単にこわせてしまうのだなと思いました。こんなことをする人が一人ずついなくなればいいなと思いました。

心の平和は、争いなどをなくすだけでなく冷静にもさせてくれます。冷静になると、自分も悪かったなと思える余裕もできます。そして、冷静にもどしてくれるのは、友達が多いと思います。友達が「話を聞くよ」や「どうしたの」などと声をかけてくれると落ちつくことができます。冷静にもどしてくれる友達がいるということを忘れないでほしいと思います。暴言などをすぐに吐かないで、ちゃんと話し合っ解決をすると良いです。そうすれば物事は少なくすみます。いじめだけでもいろいろないじめがあります。その全てがなくなれば良いなと思います。

このことから、戦争や争いのない平和「国の平和」といじめがなく、協力し合える平和、「心の平和」の両方を全国民一人一人が持てる世の中に少しずつでもなっていけば良いなとぼくは、思います。

《寸評》島田さんは、「平和の意味」を自分なりに分析し、戦争や平和ということについてプラスとマイナスの感情に分けて、それぞれの想いが丁寧に綴られています。そして、戦争とけんかを結び付けて、身の回りのことからわかりやすく書かれていて、いじめについてもネットやラインの言葉から考えたり、ドラマから様々なことを考えるきっかけとしたりしています。「平和」について、様々な観点から綴られ、平和を願う気持ちが伝わってきました。

【優良賞】

今日という日に感謝して

白山中学校 2年 守岡 駿和

8月15日、今年も日本は終戦の日を迎えた。74年前の苦い記憶、記録…。戦争を経験していない僕には、記憶とも言えない。

僕は以前、祖父から聞いたことがある。「曾祖父は、30歳を過ぎてからフィリピンへ3年間、戦争へ行っていたんだ。（祖父が）まだ生まれたばかりの頃（昭和16年）の話だよ。」と。また、祖母からは「曾祖父は戦死してしまって…。（祖母の心に父親の）記憶も薄いままなのよ。」と聞いた記憶がある。僕の心臓はずっとバクバクしていて、深くため息をついたことを、今でも覚えている。

僕は今まで、戦争と平和という日本の歴史を深く考えたことはなかった。でも、令和を生きぬこうとしている今、真剣に向き合っていきたいと思ったのだ。僕が次世代へつなげていけるものがあるだろうか。何かを伝えていけるのか。僕達へ命をいただけたことに深い感謝の気持ちを持ち、心に留めて、行動していきたいと思っている。

「過去を顧み、深い反省の上に立つて。」と天皇陛下がお言葉を述べられた。非戦への祈りと平和への深いお気持ちに、僕は心を打たれた。各国の、日本の人々の、世代を超えた「想い」が状況を少しずつ変えてきたのだろう。僕の生まれた平成も戦いのない時代であった。僕自身は衣食住に困ることなく、当たり前のように毎日を過ごしてきた。でも、「当たり前ではないこと」かもしれないと感じるようになった。人々の「一瞬一瞬」の積み重ねが、僕の「今の幸せ」につながっているように思うから。「偶然が重なった」こともある。「必然的な想いの残る」積み重ねなのかもしれない。僕が感じている、この「幸せ」を「記憶」として伝え続けていこう。僕にできることのひとつとして、大切にしよう。

では、僕自身の「心の幸せ」とは、何のどんな状態のことだろう。考えてみようと思う。

一つは、家族と一緒に過ごせるということ。毎日、僕が帰宅すると「おかえり。」と母の声がする。何ともホッとする一瞬だ。また、お風呂上がりに飲む一杯の牛乳は、おいしさが倍増する。食事時、「今日は〇〇があったよ。」「そうか、〇〇だったのか。」と父と何気なく話すこともあるが、心が落ち着いてくる。

もう一つは、友達が居てくれるということ。クラスメートや野球部の仲間達。今夏は、連日35度越えの中、練習が続いた。みんなが居たからのりこえてきたのだ。先日も早朝より遠征へ、3回戦の試合に臨んだ。相手が同じ市内チームだった為か、僕は緊張気味で、レフトの守備へついた。点を取ったら取り返す接戦。2アウト、ランナー3塁の場面で、僕の所へ打球が飛んできた。「とれた！よし。」と僕の心が叫ぶ。ベンチへ戻る際、サードのA君が待っていてくれた。二人でグラブタッチ！うれしかった。僕達のチームは編成上、隣町の中学校（B、C、D君）と合同を組む。初めはお互いに不安を感じていたと思う。共に汗をかき、プレーしていく中で、少しずつ心の距離が縮まっていっていった。試合中、B君がタイムリーを打ち、続いてC君が打点をあげた時、僕の心は自分のこと以上に、ドキドキしていた。次の回、僕がファーストを守るB君に「たのむよ。」と声をかけると、「うん。わかったよ！」と笑顔で返してくれた。僕の仲間が増えた瞬間だった。

最後の一つは、自由に学べる環境があるということ。ネットやTV等でタイムリーな情報を得ることができる。地域の図書館や資料館等へおもむき、様々な分野の体験談を聞いたり見たりできる。心に栄養をいっぱい詰め込んで充電できるのだ。僕は、自身の知識が増え、少しでも視野が広がったなと実感す

ると心がポッカポカになる。この温かさは「幸せの感触なのかな。」と自然に笑顔になれる。

僕は、8月15日の読売新聞で「元特攻隊員の91歳男性とシベリアで抑留されていた94歳男性が、語り部として過酷な体験を話し始めた」という記事を読んだ。94歳の方は、自作の詩「今日の幸せ 伝えていこう 戦争の悲惨さを」で話を結ばれるそう。また、16日には、「戦没者追悼式に参列した遺族のうち、戦没者の孫とひ孫は10年前に比べ4・5倍に増加」とあった。奈良県のある高校生は、「祖父と父と3世代で参列し、世界が平和であり続けられるよう、できることをしたいと誓った」そうなのだ。世代を超えたその「想い」は、とどまることはないであろう。だからこそ、「伝え続けていく」大切さを感じるのだ。僕達が受けつぐ想いは、熱く重い「責任」に似た感情なのかもしれない。少しでも多くの「想い」を心で受けとめることから、僕の一責任を果たしていきたい。

僕は、自身の、身近な人の、小さな「心の幸せ」は大きな「心の平和」へとつながると信じる。僕の言葉で語り、共感し行動に移す等工夫して「人」の為に尽くしていきたい。

《寸評》守岡さんの、祖父母から聞いた戦争の話から、戦争と平和について真剣に考えようとする姿勢は立派です。「心の幸せ」についても、何気ない日常の中から具体的に書かれ、守岡さんの温もりのある想いが伝わってきます。心がポッカポカになるような心からの笑顔は素敵ですね。自身の「小さな幸せ」が大きな「心の平和」へとつながると信じて、これからも平和について考え続け、人のために尽くせる人になってください。



【優良賞】

平和・生命・人権

一般 水沼 安美

初めに、平和とは何かを、何冊かの辞典で探ってみた。「戦争や紛争などが無くて、世の中が穏やかな状態」という表現が多かった。が、これだけでは物足りないと思った。そこで、私の今までの学びや経験を綴^{つづ}ってみて、平和を考えてみることにした。

沖縄慰霊の日、小学6年生の山内玲奈さんが朗読した「平和の詩」が新聞に掲載された。海、大地、空が、かつて経験した戦争、その戦争を知らない私、その悲惨さを繰り返してはいけない。家族と友達と笑い合える毎日が幸せ、未来に夢を持つことが最高の幸せ。と呼びかけたのである。

私は中国からの引揚者、直接戦争の被害を受けてはいないが、残留孤児になっていたかもしれない。敗戦の時、子ども4人を抱えていた父母に、子どもを預かるかと声をかけてきた中国人がいた。父母が断ったので一緒に引き揚げられた。がその時の苦労で、母は流産した。

小学3年生の時、薙^{なぎ}刀で敵に向かっていくという教育を受けていた。薙^{なぎ}刀で敵を倒せると信じていた私、平和をプラスにもマイナスにもするのは教育だと思うが正にその通りだ。

引き揚げてから、中学、高校、大学と進んだが、その中で戦争中の出来事を知ることはなかった。成人になって関心を持ち始め、原爆資料館、丸木美術館、無言館、アウシュヴィッツ平和博物館を訪れ、また空襲体験者、原爆被害者の体験を伺うことが出来た。私達が関心を持ち求めるならば、それに応えて下さる方はおられる。玲奈さんも、伝え継いでいくことは、今に生きる私達の使命だと語っている。私達も学んだこと、見聞きしたことを語り継いでいくことが課せられた使命だと信じている。

一度は訪れたいと思っている中南米のコスタリカは、武器を捨てた国として知られている。兵士達は教育者となり、子ども達に平和、民主主義を教えている。また、自国のみならず、近隣諸国の仲介も買って出て、戦争を食い止めてきた。国民は、非武装、平和を掲げたアイリスを大統領に選んだ。弱冠42才の大統領の誕生。軍事力にかわる手段を、対話、協調外交であるとした努力が評価されノーベル平和賞が贈られた。

コスタリカを訪れた日本人4人の講演、著書を読むと、平和、民主主義について学ぶことが出来る。感動的なのは、小学生から大学生まで自分の権利をきちんと主張することだ。例えば、大統領が武器所有に心が向いた時、大学生（ロベルト・サモラ）が裁判を起こして勝利したこと、この大学生を日本に招いたが、その後弁護士になったとコスタリカの映画で知ることになる。また、狭い校庭に校長が車を停めた所、小学生が裁判に訴えて勝った。日本では考えられない話だが、枚挙にいとまがないのが愉快だ。裁判の決め手となったのは、子どもの権利条約、一般的な人権に加えて、子ども独自の人権を有するものである。

さて、私の好きな日本国憲法条文は、第24条「家庭生活における個人の尊厳と両性の平等」である。この条文の生みの親は、22才で来日、憲法草案に携わったベアテ・シロタ・ゴードン。当時の日本政府側は、日本的でないとの理由で反対したが、5才から10年間日本で過ごし、日本女性の人権の低さを具^{つづ}に見てきたことから、図書館や大学で人権の項を書き出して主張を貫いたのだ。かつては、「女子ども」と軽んじられ、人権が無かった時代があった。平和と人権は切り離せないものと思う。

今の日本を見ていると、人の生命を蔑ろにしていると思う。自分の生命も他人の生命も。学校、職場でのいじめ、親による虐待、特に気になるのは、他国に比べて自己肯定感の低さである。「私なんか」

と言うのは止めよう。

最近関心を持ったのはハンセン病訴訟。本人だけではなく、家族も被害者だということで、国の誤った隔離政策による差別を国の責任と認めた判決があった。以前、草津栗生楽泉園の重監房を訪れた時、まるで犯罪者のような扱いをされた患者を押し込めていた建物であったと知った。そこには、寒さと飢えに苛まれて生命を落とした人達がいた。また私が長く関心を抱き応援してきたのは、水俣病のこと、ハンセン病と同じく国の責任は重く大きな犠牲を強いられた人々がいた。そして今も終わっていないのだ。

こうして見てくると、平和は戦争が無いだけではなく、人の人権が守られているか、生きている喜びを持てるか、玲奈さんが語っていた「命どう宝」を国がしっかり見つめているか、私達も心に刻んでいくことではないかと思うのである。

マザーテレサの言葉で締めくくりとしたい。「わたしたちは、目を向けていても見ていないのです。心の目を開いてしっかりと見ましょう。」

《寸評》「私は中国からの引揚者、直接戦争の被害を受けていないが、残留孤児になっていたかもしれない」とご自分の生い立ちについて詳しく述べてから説得力のある内容の文章を書いていただきました。更に、子どもの人権、日本女性の人権の低さにも触れ、平和と人権は切り離せないとも述べています。平和は、戦争がないだけではなく、人の人権が守られているか、生きている喜びを持っているかが大切だとも訴えています。最後はマザーテレサの言葉でまとめ見事です。

第22回 花とウォーキングのまちの平和賞 作文の部 総評

1945年8月15日、日本はポツダム宣言を受け入れて第二次世界大戦が終わりました。令和の時代を迎えて、昭和の時代にあった第二次世界大戦は、多くの人々にとって遠い過去になろうとしています。しかし、戦争の記憶を風化させないために、東松山市にあるピースミュージアムをはじめ、さまざまな場所で、展示やイベントが開催されています。

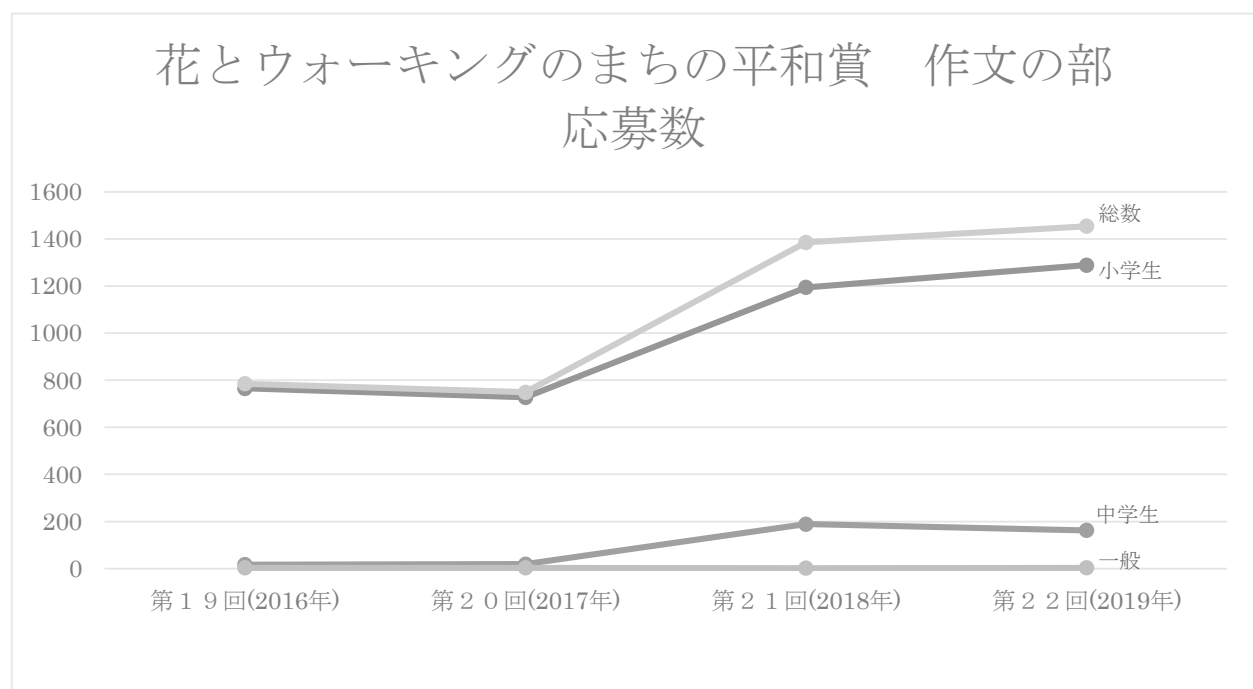
一方、別の視点から平和について考えることも大切です。香港では、若者を中心にデモが繰り返され多くのけが人が出ています。また、人々が安らかに暮らすことを平和とするならば、国内では痛ましい児童虐待であるとか、SNSでの誹謗中傷、放火による大量殺人など、問題は枚挙に暇がありません。

このような状況の中で、「花とウォーキングのまちの平和賞」の作文という形を通じて、戦争の悲劇に向き合ったり、安らかな生活について考えたりするのは、たいへん意義深いことであると思います。

本年も東松山市平和推進事業の一環として「花とウォーキングのまちの平和賞」の作文を募集したところ、全部で1,454点の応募がありました。内訳は、小学生1,289点、中学生が162点、一般が3点でした。過去3年間の応募数と比較すると、今年度の応募数が最も多くなりました。平和への関心の高まりととらえることができます。

花とウォーキングのまちの平和賞 作文の部 応募数

	小学生	中学生	一般	総数
第19回(2016年)	765	17	3	785
第20回(2017年)	727	19	3	749
第21回(2018年)	1,194	189	2	1,385
第22回(2019年)	1,289	162	3	1,454



応募作文の内容を分類すると、その傾向は大きく三つに分かれていると感じます。

一つ目は、家族の戦争体験をもとに、自分の考えを述べるというものです。例を挙げますと、

- ・兵隊として戦地に赴いたことや広島での被爆体験を聞くことによって、戦争の悲惨さを考えたり、その後、自分の命が繋がれた重さを感じたりしたこと。
- ・疎開生活のようすや原子爆弾のことについて話を聞くことによって、反戦への決意を強くしたこと。
- ・被爆地での救援体験を聞くことによって、戦争のむごさを感じ、平和への思いを強くしたこと。
- ・戦時中の厳しい状況の中で亡くなった赤ん坊を背負ってバスに乗った曾祖母の苦しさや無念さから、その思いを受け継いでいかなければならないと感じたこと。

二つ目は、戦争の跡地を訪ねたり戦争に関する本を読んだりすることによって、戦争について真剣で深い考えを持つというものです。例を挙げますと、

- ・鹿児島の知覧特攻平和会館や沖縄のひめゆりの塔を見学することによって、若い人の命が散った事実を知り、反戦と平和の尊さを感じたこと。
- ・長岡の花火大会を見学して、平和と復興の意義を感じたこと。
- ・東松山市内にあるピースミュージアムや丸木美術館を見学して、戦時中の実態を知るとともに、平和への決意を持ったこと。
- ・原子爆弾投下についての本を読み、分析したこと。さらに、戦争や東日本大震災で被害を受けたピアノのコンサートに平和への期待を大きくしたこと。

三つ目は、日常生活で感じたことを述べるというものです。例を挙げますと、

- ・家族が協力して高齢の家族を介護した体験をとおして、家族にとっての幸せを考えたり、何気ない日常を平和と感じたりしたこと。
- ・外国人との交流をとおして、さまざまな人と理解し合う大切さを感じたこと。

東松山市では、10月の台風豪雨の影響で多くの方が被災されました。被災者の方にお見舞いを申し上げますとともに、改めて、普段何気なく暮らしていけることも平和であると認識することができました。

今回も、東松山市総務部総務課の皆さんには、第一次選考を担当してもらい、応募された1,454点すべての作品を読んでもらいました。心より感謝します。最終選考は、鍋谷正則、八木原和子、間中龍史、比島順の4人で行い、個々の入賞作品の寸評や入賞作品全体の総評を書きました。

来年度も、「花とウォーキングのまちの平和賞」の意義を理解してもらい、多くの方の応募があることを期待して、総評の筆を置きます。

比島 順

作文の部 小学生応募者一覧

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
1	阿久津 咲希	きえないヒョウのつめあとを読んで	松山第一小学校	3	参加賞
2	荒井 楓佳	平和はしあわせ	松山第一小学校	3	参加賞
3	新井 琉希士	こわいせんそう	松山第一小学校	3	参加賞
4	石井 恒也	みんなのしあわせをねがって	松山第一小学校	3	参加賞
5	伊藤 愛史	へいわをいのる花火大会	松山第一小学校	3	優秀賞
6	馬橋 息吹	平和の作文	松山第一小学校	3	参加賞
7	大久保 遙香	花と平和	松山第一小学校	3	参加賞
8	尾越 明輝	へいわについて	松山第一小学校	3	参加賞
9	小高 潤平	今、生きているへいわ	松山第一小学校	3	参加賞
10	金井 夏楓	平和について	松山第一小学校	3	参加賞
11	上浦 心斗哉	平和をねがって	松山第一小学校	3	参加賞
12	川田 庸平	平和しりょう館を見学して	松山第一小学校	3	参加賞
13	川端 詩月	へいわとは何	松山第一小学校	3	参加賞
14	川邊 仁	平和って何だろう	松山第一小学校	3	参加賞
15	栗原 葵菜	へいわとはなにかを考えた	松山第一小学校	3	参加賞
16	杉本 奏斗	せんそうとへいわ	松山第一小学校	3	参加賞
17	鈴木 栞音	私に出きる事	松山第一小学校	3	参加賞
18	高橋 優心	せんそうから平和へ	松山第一小学校	3	参加賞
19	武内 紗希	花とウォーキングのまちの平和	松山第一小学校	3	参加賞
20	田中 優牙	せんそうがどういうものなのか	松山第一小学校	3	参加賞
21	堤 泰誠	平和って何だろう	松山第一小学校	3	参加賞
22	中根 悠真	平和について	松山第一小学校	3	参加賞
23	永峯 毅洋	平和しりょう館へ行って	松山第一小学校	3	参加賞
24	中村 翠	わたしが思う平和	松山第一小学校	3	参加賞
25	星野 晴飛	平和っていいな	松山第一小学校	3	参加賞
26	丸山 碧士	平和について	松山第一小学校	3	参加賞
27	水野 琉愛	千ばづる	松山第一小学校	3	参加賞
28	柳澤 祐介	平和について	松山第一小学校	3	参加賞
29	山崎 奈々	せんそうのお話	松山第一小学校	3	参加賞
30	吉田 愛莉	へいわなくらし	松山第一小学校	3	参加賞
31	荒井 唯愛	へいわについて	松山第一小学校	3	参加賞
32	荒谷 瑛夢	さいたまピースミュージアムにいった	松山第一小学校	3	参加賞
33	石井 直陽	平和について	松山第一小学校	3	参加賞
34	井上 ゆず季	青い目の女の子	松山第一小学校	3	参加賞
35	内野 実花	埼玉ピースミュージアムに行って	松山第一小学校	3	参加賞
36	大野 ひかり	へいわとみらいとせんそう	松山第一小学校	3	参加賞
37	大橋 春暖斗	しぜんと平和	松山第一小学校	3	参加賞
38	長田 直人	さいたまピースミュージアム	松山第一小学校	3	参加賞
39	小澤 拓巳	もしせんそうがはじまったら	松山第一小学校	3	参加賞
40	笠原 璃乃	「平和を守る」について思ったこと	松山第一小学校	3	参加賞
41	黒川 絵里菜	「平和について」	松山第一小学校	3	参加賞
42	黒澤 咲藍	心のへいわ	松山第一小学校	3	参加賞
43	高坂 心	平和って何だろう？	松山第一小学校	3	参加賞
44	小山 琳子	へいわについて	松山第一小学校	3	参加賞
45	齊藤 希步	「へいわ」	松山第一小学校	3	参加賞
46	柴田 流空	花でいっぱいになれば。	松山第一小学校	3	参加賞
47	島田 崇弘	平和作文	松山第一小学校	3	参加賞
48	鈴木 珈利奈	せんそうをくり返さないために	松山第一小学校	3	参加賞
49	高田 乃檀	へいわなじかん	松山第一小学校	3	参加賞
50	立川 悟	なぜせんそうをするのだろう	松山第一小学校	3	優秀賞

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
51	田村 遥士	平和について	松山第一小学校	3	参加賞
52	成澤 惺吾	平和について	松山第一小学校	3	参加賞
53	西原 美羽	平和	松山第一小学校	3	参加賞
54	長谷部 信治郎	戦争はどうして始まったのか	松山第一小学校	3	参加賞
55	長谷部 陽莉	みんな仲良く	松山第一小学校	3	参加賞
56	服部 未来	「世界に平和を。」	松山第一小学校	3	参加賞
57	帆足 七海	平和について	松山第一小学校	3	参加賞
58	本田 恭太郎	こわいせんそう	松山第一小学校	3	参加賞
59	松永 杏凜	へいわと犬	松山第一小学校	3	参加賞
60	宮本 悠真	この世界の片すみに	松山第一小学校	3	参加賞
61	山田 杏璃	平和について	松山第一小学校	3	参加賞
62	横田 煌己	さわ村せん手とせんそう	松山第一小学校	3	参加賞
63	吉澤 玲	平和な世の中	松山第一小学校	3	参加賞
64	安藤 頼正	「平和について」	松山第一小学校	4	参加賞
65	安藤 瑠彩	戦争を知って	松山第一小学校	4	参加賞
66	池田 有里	「ひめゆりを未来へ」	松山第一小学校	4	参加賞
67	石井 魁翔	平和について	松山第一小学校	4	参加賞
68	磯部 正虎	平和について考えたこと	松山第一小学校	4	参加賞
69	大木 絆	平和を守るために	松山第一小学校	4	参加賞
70	大西 莉央	終わらなかった「戦争」	松山第一小学校	4	参加賞
71	岡安 真凜	平和について	松山第一小学校	4	参加賞
72	金澤 光希	ピースミュージアムに行って	松山第一小学校	4	参加賞
73	金内 章乃	平和ってどんな事	松山第一小学校	4	参加賞
74	金子 咲希	戦争と平和	松山第一小学校	4	参加賞
75	小島 紗季	平和しりょう館に行って考えたこと	松山第一小学校	4	参加賞
76	小沼 千紗	丸木美じゅつ館に行って	松山第一小学校	4	参加賞
77	小室 妃絆	平和について	松山第一小学校	4	参加賞
78	酒井 彩加	戦争の原因	松山第一小学校	4	参加賞
79	佐々木 燦	こっせつをけいけんして	松山第一小学校	4	参加賞
80	鈴木 華奈	世界を平和にするために	松山第一小学校	4	参加賞
81	鈴木 暖琉	平和について	松山第一小学校	4	参加賞
82	鈴木 倫太郎	平和について思うこと	松山第一小学校	4	参加賞
83	武内 叶斗	花とウォーキングのまちの平和	松山第一小学校	4	参加賞
84	谷津 麗優	「ホテルのはか」を見て	松山第一小学校	4	参加賞
85	中尾 晃翔	赤紙	松山第一小学校	4	参加賞
86	長島 実桜	戦争と日本のけん法	松山第一小学校	4	参加賞
87	福田 琉汰	平和について	松山第一小学校	4	参加賞
88	細井 彩愛	平和について思うこと	松山第一小学校	4	参加賞
89	馬島 誠彦	戦争と平和	松山第一小学校	4	参加賞
90	松永 凜花	動物と平和	松山第一小学校	4	参加賞
91	松本 愛姫	わたしが幸せと思うこと	松山第一小学校	4	参加賞
92	溝口 徳香	平和なきれいな町	松山第一小学校	4	参加賞
93	森田 美咲	戦後のくらし	松山第一小学校	4	参加賞
94	山崎 あおい	東日本大震災について	松山第一小学校	4	参加賞
95	山下 奈々	わたしのぞむ平和	松山第一小学校	4	参加賞
96	横田 心愛	平和	松山第一小学校	4	参加賞
97	吉野 太賀	平和のお母さん「マザーテレサ」	松山第一小学校	4	参加賞
98	渡邊 知里	平和な国へ	松山第一小学校	4	参加賞
99	渡邊 虹心	安心してらせる世界のために	松山第一小学校	4	参加賞
100	渡辺 愛唯	東松山市花と歩けの国際平和都市せん言を知って	松山第一小学校	4	参加賞

作文の部 小学生応募者一覧

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
101	青山 和桜	平和とは	松山第一小学校	4	参加賞
102	五十嵐 翔蒼	ぼくが思う平和	松山第一小学校	4	参加賞
103	市川 結珠	戦争のつらさ	松山第一小学校	4	参加賞
104	今泉 美咲	アメリカの銃社会から感じたこと	松山第一小学校	4	参加賞
105	岩上 騎士	ぼくが思う平和	松山第一小学校	4	参加賞
106	大木 主	戦争について	松山第一小学校	4	参加賞
107	大下 幸輝	平和について	松山第一小学校	4	参加賞
108	大槻 明優奈	身の回りの平和	松山第一小学校	4	参加賞
109	小川 晴暉	「心の平和について」	松山第一小学校	4	参加賞
110	小倉 和華	青い目の人形物語	松山第一小学校	4	参加賞
111	尾崎 はな	わたしが思う平和とは	松山第一小学校	4	参加賞
112	笠原 朱莉	命のたいせつさ	松山第一小学校	4	参加賞
113	加藤 隆	熊谷空しゅう	松山第一小学校	4	参加賞
114	金子 芽依	おはかまいり	松山第一小学校	4	参加賞
115	黒澤 春香	戦争の時代へタイムスリップ	松山第一小学校	4	参加賞
116	小泉 莉々愛	忘れてはいけない日	松山第一小学校	4	参加賞
117	小松 謙太	平和な社会のために	松山第一小学校	4	参加賞
118	西海谷 結衣	花と平和と戦争について	松山第一小学校	4	参加賞
119	佐渡 宣紀	本当の平和とは	松山第一小学校	4	参加賞
120	菅井 美結	戦争の時代にいたら	松山第一小学校	4	参加賞
121	砂永 美満	戦争	松山第一小学校	4	参加賞
122	関口 美柊	埼玉ピースミュージアムに行って	松山第一小学校	4	参加賞
123	高田 春	ぼくの「一つだけ」	松山第一小学校	4	参加賞
124	田島 佑一	「戦争の時の小学生」を見て	松山第一小学校	4	参加賞
125	田中 美有	争いのない世界	松山第一小学校	4	参加賞
126	畠山 結未	へいわとは	松山第一小学校	4	参加賞
127	服部 楓花	日じょうの平和	松山第一小学校	4	参加賞
128	平岡 由埜	戦争して、とくする？	松山第一小学校	4	参加賞
129	深谷 凪	「平和を守るために」	松山第一小学校	4	参加賞
130	堀内 理名	戦争と家族の絆	松山第一小学校	4	参加賞
131	牧 優花	家を建てるシュモ—のやさしさ	松山第一小学校	4	参加賞
132	丸島 恋果	もうどう犬と会ってみて	松山第一小学校	4	参加賞
133	四方田 樹果	「私ができる平和」	松山第一小学校	4	参加賞
134	新井 理玖人	心の平和	松山第一小学校	5	参加賞
135	荒谷 璃夢	埼玉ピースミュージアムに行きました	松山第一小学校	5	参加賞
136	石川 歩胡	戦争と今	松山第一小学校	5	参加賞
137	馬橋 利玖	なぜ戦争をするのか	松山第一小学校	5	参加賞
138	大嶋 心葉	戦争について	松山第一小学校	5	参加賞
139	大畑 音彩	戦争について	松山第一小学校	5	参加賞
140	小澤 吹芽	平和とは何か	松山第一小学校	5	参加賞
141	加島 花栖	戦争とは何か	松山第一小学校	5	参加賞
142	桂嶋 暁	平和とは	松山第一小学校	5	優良賞
143	金内 彩音	戦時中と終戦の世界	松山第一小学校	5	参加賞
144	北原 奈実	平和とは	松山第一小学校	5	参加賞
145	佐藤 萌華	ほたるのはかを見て	松山第一小学校	5	参加賞
146	鈴木 柊斗	命の大切さ	松山第一小学校	5	参加賞
147	関口 鵬靖	平和資料館にきて	松山第一小学校	5	参加賞
148	高橋 悠	戦争中の生活と戦争後の生活	松山第一小学校	5	参加賞
149	竹内 華音	戦争と平和って何？	松山第一小学校	5	参加賞
150	中西 翔琉	これからの平和について	松山第一小学校	5	参加賞

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
151	中根 千奈莉	命の大切さ	松山第一小学校	5	参加賞
152	中村 桃華	平和について	松山第一小学校	5	参加賞
153	成澤 秀真	戦争について	松山第一小学校	5	参加賞
154	賛田 千晴	「平和」って大事だな	松山第一小学校	5	参加賞
155	野澤 美友子	火垂るの墓をよんで	松山第一小学校	5	参加賞
156	峰岸 拓未	平和ってどんなこと	松山第一小学校	5	参加賞
157	森田 樹	ぼくの思う平和	松山第一小学校	5	参加賞
158	山崎 柊音	戦争体験者の話を聞いて	松山第一小学校	5	参加賞
159	山田 侑璃	平和について	松山第一小学校	5	参加賞
160	吉田 央	戦争の体験談を聞いて	松山第一小学校	5	参加賞
161	渡邊 誉那	わたしにとっての平和	松山第一小学校	5	参加賞
162	浅見 羽菜	平和のために戦争を知る	松山第一小学校	5	参加賞
163	新井 健大	平和について	松山第一小学校	5	参加賞
164	内田 莉瑠	私にできること	松山第一小学校	5	参加賞
165	内布 美花	東京二〇二〇にむけて	松山第一小学校	5	参加賞
166	内野 純汰	平和と戦争について	松山第一小学校	5	参加賞
167	江野 航介	おじいちゃんから聞いた話	松山第一小学校	5	参加賞
168	大野 意織	ほうかいした町	松山第一小学校	5	参加賞
169	岡田 流碧	平和について	松山第一小学校	5	参加賞
170	尾越 仁	戦争について	松山第一小学校	5	参加賞
171	越智 蓮	花とウォーキング	松山第一小学校	5	参加賞
172	菊池 裕翔	東京での空しゅう体験を、きいて	松山第一小学校	5	参加賞
173	菊池 龍馬	平和になるために	松山第一小学校	5	参加賞
174	隈谷 瑠梨	戦争後のじごく	松山第一小学校	5	参加賞
175	高坂 龍希	平和とは何か	松山第一小学校	5	参加賞
176	小山 寛太	平和について	松山第一小学校	5	参加賞
177	齋藤 愛琉	僕が思う世界	松山第一小学校	5	参加賞
178	佐々木 琉奈	花とウォーキングの町	松山第一小学校	5	参加賞
179	椎名 夏希	せんそうのできごと	松山第一小学校	5	参加賞
180	柴崎 結歌	戦争のときにつかうこと	松山第一小学校	5	参加賞
181	下浦 ゆい	あたりまえのありがたさ	松山第一小学校	5	参加賞
182	新穂 真尋	約束の日	松山第一小学校	5	参加賞
183	鈴木 凜音	平和を考える	松山第一小学校	5	参加賞
184	田中 ひなた	私の平和	松山第一小学校	5	参加賞
185	田中 竜之助	平和について	松山第一小学校	5	参加賞
186	中島 愛姫	本当の幸せとは	松山第一小学校	5	参加賞
187	宮田 絢音	世界で一番美しい大統領のスピーチ	松山第一小学校	5	参加賞
188	山田 乃愛	栄太くと賢治くん	松山第一小学校	5	参加賞
189	山畠 千依	「心の平和」について	松山第一小学校	5	参加賞
190	新井 姫彩	平和、幸せ	松山第一小学校	6	参加賞
191	新井 漣生	平和な心	松山第一小学校	6	参加賞
192	岩切 峻真	戦争で起こった悲劇	松山第一小学校	6	参加賞
193	大谷部 翼	平和のとりでを築く	松山第一小学校	6	参加賞
194	加藤 陽奈	戦争の時の食べ物について	松山第一小学校	6	参加賞
195	金子 奈生	私が思う平和	松山第一小学校	6	参加賞
196	北原 舞	戦争と平和について	松山第一小学校	6	参加賞
197	黒澤 陽大	平和	松山第一小学校	6	参加賞
198	小島 諒真	のび太から学んだ平和	松山第一小学校	6	参加賞
199	小林 悠翔	人の幸せと平和	松山第一小学校	6	参加賞
200	小柳 涼子	戦争について	松山第一小学校	6	参加賞

作文の部 小学生応募者一覧

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
201	齋藤 彩芽	平和とは何か	松山第一小学校	6	参加賞
202	櫻井 ななみ	平和な国日本	松山第一小学校	6	参加賞
203	櫻井 将人	平和ということ	松山第一小学校	6	参加賞
204	島田 堅進	平和について	松山第一小学校	6	参加賞
205	鈴木 鉄也	平和とは何だろう	松山第一小学校	6	参加賞
206	丹沢 十蔵	平和について	松山第一小学校	6	参加賞
207	永峯 哉輝	平和資料館へ行って	松山第一小学校	6	参加賞
208	二階堂 涼	みんなで平和な世界へ	松山第一小学校	6	参加賞
209	長谷部 かれん	幸せな日本	松山第一小学校	6	参加賞
210	半澤 きさら	身近な平和	松山第一小学校	6	参加賞
211	平原 直樹	ぼくの幸せ	松山第一小学校	6	参加賞
212	福田 照瑛	平和について	松山第一小学校	6	参加賞
213	藤原 望楓	自分が変わらなくちゃ！	松山第一小学校	6	参加賞
214	堀内 敦史	戦後74年語り継ぐ	松山第一小学校	6	参加賞
215	堀内 悠吾	平和とはなにか	松山第一小学校	6	参加賞
216	松村 拓海	ニュースを見て	松山第一小学校	6	参加賞
217	水野 琉羽	「原爆の図・『原子野』」を見て	松山第一小学校	6	参加賞
218	横田 悠妃	千年希望の丘	松山第一小学校	6	優良賞
219	吉田 姫乃	平和とは	松山第一小学校	6	参加賞
220	青山 芽生	平和、幸せとは	松山第一小学校	6	参加賞
221	新井 輝	平和とは何か	松山第一小学校	6	参加賞
222	安藤 月彩	今と昔	松山第一小学校	6	参加賞
223	磯 耀太	どうして戦争になったのか	松山第一小学校	6	参加賞
224	馬橋 未結	平和ってなんだろう	松山第一小学校	6	参加賞
225	岡 来樺	せんそう	松山第一小学校	6	参加賞
226	長田 遥	平和と戦争	松山第一小学校	6	参加賞
227	加藤 煌大	百穴の秘密	松山第一小学校	6	参加賞
228	河嶋 玲凰	これからの日本を担う僕たち	松山第一小学校	6	参加賞
229	川副 直太	大切な自然	松山第一小学校	6	参加賞
230	菊池 まりあ	動物と人間	松山第一小学校	6	参加賞
231	小杉 妃凪	家族と生き物の平和	松山第一小学校	6	参加賞
232	坂本 廉之輔	戦争の始まり	松山第一小学校	6	参加賞
233	志賀 滉人	平和について	松山第一小学校	6	参加賞
234	関口 敦司	ぼくが思う平和	松山第一小学校	6	参加賞
235	田中 香凜	「ひろしま」のきおく	松山第一小学校	6	参加賞
236	土屋 有翼	平和とは	松山第一小学校	6	参加賞
237	中島 凌央	平和のためにできること	松山第一小学校	6	参加賞
238	野辺 遥瑚	平和について考え続けること	松山第一小学校	6	参加賞
239	長谷部 颯汰	平和について	松山第一小学校	6	参加賞
240	福富 琉以	平和のために	松山第一小学校	6	参加賞
241	藤田 七帆	平和の大切さ	松山第一小学校	6	参加賞
242	松信 咲希	「平和」と「幸せ」	松山第一小学校	6	参加賞
243	松村 虹海	なぜ争いが起きるのか	松山第一小学校	6	参加賞
244	茂木 優歩	今の私にできること	松山第一小学校	6	参加賞
245	本嶋 育美	豊川海軍工廠	松山第一小学校	6	参加賞
246	山崎 雄一朗	戦争と平和	松山第一小学校	6	参加賞
247	ルビナ アユミ	平和と戦争	松山第一小学校	6	参加賞
248	渡邊 托馬	原爆ドーム	松山第一小学校	6	参加賞
249	荒井 鈴	「笑顔と平和」	松山第二小学校	5	参加賞
250	江島 朋子	「平和と戦争」	松山第二小学校	5	参加賞

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
251	大澤 理乃	「戦争と今の平和」	松山第二小学校	5	参加賞
252	大囲 慶将	戦争と平和	松山第二小学校	5	参加賞
253	小川 真人	平和と戦争	松山第二小学校	5	参加賞
254	奥田 結香	アンネ・フランクから学んだ平和	松山第二小学校	5	参加賞
255	小國 暖心	世界平和	松山第二小学校	5	参加賞
256	金子 風沙	わたしにとっての平和	松山第二小学校	5	参加賞
257	小松 愛華	私が考える平和への一歩	松山第二小学校	5	参加賞
258	齊藤 壮汰	戦争と平和	松山第二小学校	5	参加賞
259	清水 僚馬	ぼくにとっての平和	松山第二小学校	5	参加賞
260	鈴木 凜音	昔と平和とは何か	松山第二小学校	5	参加賞
261	春原 陸翔	平和な町	松山第二小学校	5	参加賞
262	塚村 幸弥	戦争と平和について	松山第二小学校	5	参加賞
263	長谷部 心麗	犠牲と平和	松山第二小学校	5	参加賞
264	原井川 穂ノ香	平和が一番	松山第二小学校	5	参加賞
265	福田 葵	平和について	松山第二小学校	5	参加賞
266	藤野 颯	ぼくが、考えた、平和	松山第二小学校	5	参加賞
267	布施 香織	「戦争について」	松山第二小学校	5	参加賞
268	三角 玲介	東松山の平和	松山第二小学校	5	参加賞
269	峰 勇基	平和について考える	松山第二小学校	5	参加賞
270	山岸 タ音	戦争について	松山第二小学校	5	参加賞
271	山崎 友梨乃	「平和とは」	松山第二小学校	5	参加賞
272	吉野 太陽	平和について	松山第二小学校	5	参加賞
273	和田 あやめ	戦争と平和	松山第二小学校	5	参加賞
274	青野 優菜	学校が楽しくなるには	松山第二小学校	5	参加賞
275	浅見 円香	平和な世界をめざして	松山第二小学校	5	参加賞
276	伊藤 海莉	ぼくの思う平和	松山第二小学校	5	参加賞
277	岩崎 心晴	戦争と平和について	松山第二小学校	5	参加賞
278	大澤 理央	「昔と今」	松山第二小学校	5	参加賞
279	大村 玲欧	戦と戦争と平和な日本	松山第二小学校	5	参加賞
280	小川 琴音	平和って何だろう	松山第二小学校	5	参加賞
281	陰山 一瑠	平和について	松山第二小学校	5	参加賞
282	笠原 優亜	平和というもの	松山第二小学校	5	参加賞
283	加藤 優和	平和	松山第二小学校	5	参加賞
284	桐山 乃愛	平和とは	松山第二小学校	5	参加賞
285	須長 凌麻	けんかと平和	松山第二小学校	5	参加賞
286	高波 美帆	心の平和「いじめ」について	松山第二小学校	5	参加賞
287	長田 治輝	ぼくのひいじいちゃん	松山第二小学校	5	参加賞
288	成川 乃愛	平和の大切さについて	松山第二小学校	5	参加賞
289	長谷部 杏弥	今は、平和	松山第二小学校	5	参加賞
290	濱田 匠海	戦争	松山第二小学校	5	参加賞
291	林 咲花	平和について	松山第二小学校	5	参加賞
292	廣山 愛美	戦争と平和	松山第二小学校	5	参加賞
293	藤田 香音	平和について	松山第二小学校	5	参加賞
294	程島 琥太郎	花とウォーキングの町の平和	松山第二小学校	5	参加賞
295	松本 美来依	平和って何だろう？	松山第二小学校	5	参加賞
296	柳澤 樹莉来	今と昔	松山第二小学校	5	参加賞
297	柳澤 優輝	平和資料館に行って	松山第二小学校	5	参加賞
298	青木 唯音	心の平和	松山第二小学校	6	参加賞
299	石川 真子	戦争	松山第二小学校	6	参加賞
300	稲田 暉士	戦争と原爆	松山第二小学校	6	参加賞

作文の部 小学生応募者一覧

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
301	猪俣 葵	戦争のえいきょう	松山第二小学校	6	参加賞
302	臼田 千乃	青い目の人形物語を見て	松山第二小学校	6	参加賞
303	大澤 由依	テロを防いで、平和になるために	松山第二小学校	6	参加賞
304	岡田 結実	平和なくらしになるために	松山第二小学校	6	参加賞
305	加藤 翔太	今の平和	松山第二小学校	6	参加賞
306	鎌田 祐斗	「平和」ってなんだろう？	松山第二小学校	6	参加賞
307	小林 恵真	世界が平和にふみだす一歩	松山第二小学校	6	参加賞
308	齋藤 蒼大	戦争を無くし、平和と向き合って	松山第二小学校	6	参加賞
309	白石 咲瑛	森林の多い未来へ	松山第二小学校	6	参加賞
310	中村 美月	戦争の怖さ	松山第二小学校	6	参加賞
311	西川 幹太	兵器について考える	松山第二小学校	6	参加賞
312	萩澤 琢磨	ぼくが思う平和	松山第二小学校	6	参加賞
313	平田 心美	命の大切さ	松山第二小学校	6	参加賞
314	深澤 壮志	人との関わり	松山第二小学校	6	参加賞
315	星川 雅翔	自分の考える平和と周りの考える平和	松山第二小学校	6	参加賞
316	堀 雄士郎	戦争をしないために	松山第二小学校	6	参加賞
317	町田 彩紗	平和とは	松山第二小学校	6	参加賞
318	皆本 千洋	望まれる日本の平和	松山第二小学校	6	参加賞
319	宮崎 笙	「平和」	松山第二小学校	6	参加賞
320	山口 友寛	やさしさに出会えたスリーデーマーチ	松山第二小学校	6	参加賞
321	山崎 結斗	平和について	松山第二小学校	6	参加賞
322	齋藤 美咲	戦争と平和	松山第二小学校	6	参加賞
323	安部 友規	今と昔	松山第二小学校	6	参加賞
324	池田 百花	平和とは	松山第二小学校	6	参加賞
325	一野 舞穂	平和って何だろう	松山第二小学校	6	参加賞
326	臼元 小春	平和って何？	松山第二小学校	6	参加賞
327	大石 梨乃	勇気とたくましさ	松山第二小学校	6	参加賞
328	大山 倫太郎	平和とは？	松山第二小学校	6	参加賞
329	萩野 遥生	豊かな国増やそう	松山第二小学校	6	参加賞
330	小國 心結	平和と戦争	松山第二小学校	6	参加賞
331	金井塚 蔵人	平和について	松山第二小学校	6	参加賞
332	亀井 雄斗	平和な地域	松山第二小学校	6	参加賞
333	木村 晴	平和かな	松山第二小学校	6	参加賞
334	柴田 葵	平和とは	松山第二小学校	6	参加賞
335	高橋 真白	今の日本と昔の日本	松山第二小学校	6	参加賞
336	武井 彩華	「戦時と戦後のできごと」	松山第二小学校	6	参加賞
337	竹中 環菜	国と平和	松山第二小学校	6	参加賞
338	田端 朔也	戦争の悲しさ	松山第二小学校	6	参加賞
339	丹下 朝日	当たり前の	松山第二小学校	6	参加賞
340	時田 真緒	平和とは奇跡である	松山第二小学校	6	参加賞
341	永嶋 琉海	「戦争のない国」	松山第二小学校	6	参加賞
342	沼田 悠人	戦争はダメ	松山第二小学校	6	参加賞
343	福井 香萌	平和とは？	松山第二小学校	6	参加賞
344	本間 智貴	平和とは	松山第二小学校	6	参加賞
345	樹野 隆喜	安心安全な未来	松山第二小学校	6	参加賞
346	矢澤 瑠那	平和な世の中を目指して	松山第二小学校	6	参加賞
347	青木 渉	平和ってなんだろう	大岡小学校	3	参加賞
348	新井 希乃花	今とむかしをくらべたら	大岡小学校	3	参加賞
349	新井 陽斗	平和って何だろう。	大岡小学校	3	参加賞
350	大河原 凌真	せんそう中の日本	大岡小学校	3	参加賞

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
351	大木 愛理	へいわっていいな	大岡小学校	3	参加賞
352	大澤 あかり	みんなが作る平和	大岡小学校	3	参加賞
353	岡本 莉珠	みんながなかよく	大岡小学校	3	参加賞
354	小高 優樹	平和について	大岡小学校	3	参加賞
355	勝田 滯愛	平和について	大岡小学校	3	参加賞
356	加藤 莉愛	平和について	大岡小学校	3	参加賞
357	川島 瑞葉	大切な命	大岡小学校	3	参加賞
358	雲井 啓心	ぼくのクラス	大岡小学校	3	参加賞
359	小林 優仁	ぼくが考えるみらいと平和	大岡小学校	3	参加賞
360	下里 彩菜	花とウォーキングのまちへいわしょう作文	大岡小学校	3	参加賞
361	鈴木 陽葵	東日本大しんさいの話を聞いて	大岡小学校	3	参加賞
362	砂永 詩文	「平和が一番」	大岡小学校	3	参加賞
363	田山 瞳羽	わたしと平和	大岡小学校	3	参加賞
364	長田 璃音	平和について	大岡小学校	3	参加賞
365	萩原 皐月	「世界中にさくえ顔の花」	大岡小学校	3	参加賞
366	福島 至恩	ピースミュージアムで思ったこと	大岡小学校	3	参加賞
367	古海 暖々香	へいわについて	大岡小学校	3	参加賞
368	松田 昊	わたしの平和	大岡小学校	3	参加賞
369	松本 邦章	楽しい夏休み	大岡小学校	3	参加賞
370	松本 咲良	花とウォーキングのまちの平和賞	大岡小学校	3	参加賞
371	松本 優芽	わたしと花とへいわ	大岡小学校	3	参加賞
372	松本 龍貴	平和について	大岡小学校	3	参加賞
373	美川 真桜	戦争と平和	大岡小学校	3	参加賞
374	新井 樹	平和とは何か	大岡小学校	4	参加賞
375	安藤 瑠美	私が知る時代	大岡小学校	4	参加賞
376	橘井 衣吹	この世界のかたすみ	大岡小学校	4	参加賞
377	高橋 諺輝	ぼくが思う平和	大岡小学校	4	参加賞
378	田口 乙葉	平和について	大岡小学校	4	参加賞
379	野口 樹	平和について	大岡小学校	4	参加賞
380	星野 絢香	まぼろしのオリンピック	大岡小学校	4	参加賞
381	松本 結衣花	平和について	大岡小学校	4	参加賞
382	柳 美優	心の平和	大岡小学校	4	参加賞
383	青木 佳蓮	平和について考えて	大岡小学校	5	参加賞
384	安藤 慎之佑	大日本帝国と戦争	大岡小学校	5	参加賞
385	安藤 悠輝	「平和への祈り」	大岡小学校	5	参加賞
386	上野 佑輔	受けつがなければいけない思い	大岡小学校	5	参加賞
387	大木 白風	花とウォーキングの町のへいわしょう	大岡小学校	5	参加賞
388	勝田 凜愛	平和な世界にするためには	大岡小学校	5	参加賞
389	加藤 大聖	戦争と食べ物	大岡小学校	5	参加賞
390	川原 咲良	「平和」とは	大岡小学校	5	参加賞
391	小島 月妃	身近を平和にするためには	大岡小学校	5	参加賞
392	鈴木 日菜	今の昔	大岡小学校	5	参加賞
393	関根 一也	「日本の平和を考えて」	大岡小学校	5	参加賞
394	田山 成	平和について	大岡小学校	5	参加賞
395	長田 優璃	平和について	大岡小学校	5	参加賞
396	庭野 ゆうか	私達の大切なアサガオ	大岡小学校	5	参加賞
397	橋本 蓮音	平和な世界に	大岡小学校	5	参加賞
398	藤野 楓	わたしが思う平和	大岡小学校	5	参加賞
399	美川 優瑞希	戦争を体験したひいじいちゃん	大岡小学校	5	参加賞
400	道下 拓斗	平和ってなんだろう	大岡小学校	5	参加賞

作文の部 小学生応募者一覧

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
401	望月 優羽	森に住む生き物の平和	大岡小学校	5	参加賞
402	森田 惺	今の日本について	大岡小学校	5	参加賞
403	横川 愛莉	夢と平和	大岡小学校	5	参加賞
404	吉田 葵	花と戦争と人々のくらし	大岡小学校	5	参加賞
405	阿部 杏梨	みんなが平和であるために	大岡小学校	6	参加賞
406	梅井 華恋	心の平和	大岡小学校	6	参加賞
407	榎本 将希	平和	大岡小学校	6	参加賞
408	大河原 優真	戦争をなくす	大岡小学校	6	参加賞
409	川島 陸仁	絶対反対	大岡小学校	6	参加賞
410	清水 咲希	花と平和	大岡小学校	6	参加賞
411	清水 梨華	核とは	大岡小学校	6	参加賞
412	末崎 瞳	夢みたいな世界	大岡小学校	6	参加賞
413	砂永 佳歩	平和について	大岡小学校	6	参加賞
414	辰己 楓	平和になった世の中	大岡小学校	6	参加賞
415	中山 閏之祐	くさかった服	大岡小学校	6	優秀賞
416	古海 眞之介	たくさんのふしぎを読んで	大岡小学校	6	参加賞
417	星野 秀明	戦争時の子供たち	大岡小学校	6	参加賞
418	松田 楓娃	何が平和なのか	大岡小学校	6	参加賞
419	松本 篤志	戦争について、平和について	大岡小学校	6	参加賞
420	三浦 大雅	平和な日常	大岡小学校	6	参加賞
421	松本 里	今がしあわせ	唐子小学校	4	参加賞
422	松本 笑	家族といられること	唐子小学校	5	参加賞
423	安部 美羽	平和について考える	唐子小学校	6	参加賞
424	天野 優希	平和な未来へ！！	唐子小学校	6	参加賞
425	新井 結菜	家族との平和	唐子小学校	6	参加賞
426	及川 碧愛	動物の平和	唐子小学校	6	参加賞
427	岡野 隼也	世界の平和な未来のために	唐子小学校	6	参加賞
428	小川 実璃	平和な心が一番いい	唐子小学校	6	参加賞
429	加藤 幸心	権利はなんのために	唐子小学校	6	参加賞
430	川嶋 心彩	心の平和	唐子小学校	6	参加賞
431	木村 和樹	戦争から平和へ 平和から戦へ	唐子小学校	6	参加賞
432	小林 悠太郎	だれかに感謝	唐子小学校	6	参加賞
433	小林 蒼空	平和な未来	唐子小学校	6	参加賞
434	沢口 美羽	平和って何だろう	唐子小学校	6	参加賞
435	塩野 百愛	心の平和と日本	唐子小学校	6	参加賞
436	島崎 美来	「平和」と「幸せ」	唐子小学校	6	参加賞
437	鈴木 愛理	これからの時代も	唐子小学校	6	参加賞
438	高田 美波	平和とは	唐子小学校	6	参加賞
439	田村 柊大	いじめと平和	唐子小学校	6	参加賞
440	塚田 花凜	平和な世界の為に	唐子小学校	6	参加賞
441	中島 拓海	平和	唐子小学校	6	参加賞
442	西澤 芽梨愛	平和にする勇氣	唐子小学校	6	参加賞
443	西田 咲	「世界中が花で」	唐子小学校	6	参加賞
444	西山 琉衣	じしんと平和	唐子小学校	6	参加賞
445	野口 滉太	素晴らしい平和	唐子小学校	6	参加賞
446	橋田 美優	戦争のかなしみ	唐子小学校	6	参加賞
447	樋川 結希奈	平和へ	唐子小学校	6	参加賞
448	星野 花恋	心の平和	唐子小学校	6	参加賞
449	松永 航汰	平和な世界にするために	唐子小学校	6	参加賞
450	山内 凜	平和について	唐子小学校	6	参加賞

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
451	山田 稜	やさしさ	唐子小学校	6	参加賞
452	渡辺 拓真	さべつといじめをなくす	唐子小学校	6	参加賞
453	梅館 由和	平和・・・。	唐子小学校	6	参加賞
454	浦越 奏来	自由と平等	唐子小学校	6	参加賞
455	小川 永遠	自由	唐子小学校	6	参加賞
456	小川 凜空	平和	唐子小学校	6	参加賞
457	荻野 達基	自分の考え	唐子小学校	6	参加賞
458	小澤 有里	平和のために	唐子小学校	6	参加賞
459	小野澤 絋里	平和について思う事	唐子小学校	6	参加賞
460	笠原 みらい	平和な時代にするために	唐子小学校	6	参加賞
461	剣持 結衣	戦争のない自由な世界へ	唐子小学校	6	参加賞
462	鴻野 結菜	平和が大切であること	唐子小学校	6	参加賞
463	斉藤 颯斗	平和	唐子小学校	6	参加賞
464	佐々木 横吾	世界平和	唐子小学校	6	参加賞
465	佐藤 実由果	平和になるために	唐子小学校	6	参加賞
466	嶋田 汰晃	生命	唐子小学校	6	参加賞
467	島田 結衣	平和について	唐子小学校	6	参加賞
468	島野 こころ	平和な世界を目指すには	唐子小学校	6	参加賞
469	清水 優希	戦争はいじめと同じだ	唐子小学校	6	参加賞
470	関口 陽菜	平和な未来	唐子小学校	6	参加賞
471	田中 颯馬	自由と平等	唐子小学校	6	参加賞
472	富永 悠翔	平和のために	唐子小学校	6	参加賞
473	中村 悠乃	平和のために	唐子小学校	6	参加賞
474	野澤 美羽	勇気を出して平和な世界に。	唐子小学校	6	参加賞
475	野原 久暢	3つの場所に行って	唐子小学校	6	参加賞
476	野原 由衣	平和のために	唐子小学校	6	参加賞
477	正木 佑征	平和のために	唐子小学校	6	参加賞
478	諸星 茉海	みんなが自由にくらせる世の中に	唐子小学校	6	参加賞
479	今井 美玖	青空教室を作らないために	高坂小学校	3	参加賞
480	小林 由奈	ちゃん特攻へいたい	高坂小学校	4	優良賞
481	加藤 優季	自然の中で感じる平和	高坂小学校	5	参加賞
482	乾 煌李	花と心の平和	高坂小学校	6	参加賞
483	小野里 亜弥	「未来と平和」	高坂小学校	6	参加賞
484	宮林 陽向	「未来へつなぐ平和」	高坂小学校	6	参加賞
485	山本 拓真	平和について	高坂小学校	6	参加賞
486	清水 偉瑠	せんそうと家族の事	野本小学校	3	参加賞
487	吉成 夏音	「平和なくらし」	野本小学校	4	参加賞
488	小峯 菜愛	「なかよくすること」	野本小学校	4	参加賞
489	新井 麗音	平和について	野本小学校	5	参加賞
490	井口 怜	戦争と平和	野本小学校	5	参加賞
491	池上 叶真	へい和とせんそう	野本小学校	5	参加賞
492	井上 琉斗	平和と命考える	野本小学校	5	参加賞
493	上野 夏葵	楽しい一日	野本小学校	5	参加賞
494	大川 瑠子	国と平和	野本小学校	5	参加賞
495	大谷 春翔	本当の平和とは	野本小学校	5	参加賞
496	嵩 ひなの	花とウォーキングの町平和賞	野本小学校	5	参加賞
497	柏俣 凪規	花とウォーキングのまちの平和賞	野本小学校	5	参加賞
498	桑原 未来	平和について	野本小学校	5	参加賞
499	小池 風花	平和資料館を訪れて	野本小学校	5	参加賞
500	志治 さくら	「平和」ってなんだろう？	野本小学校	5	参加賞

作文の部 小学生応募者一覧

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
501	高橋 利央	平和について	野本小学校	5	参加賞
502	滝瀬 梓	平和について	野本小学校	5	参加賞
503	松岡 琳音	笑顔あふれる東松山市	野本小学校	5	参加賞
504	松本 海大	平和の大切さ	野本小学校	5	参加賞
505	三村 旺輔	争いのない平和	野本小学校	5	参加賞
506	村上 蓮	平和の大切さ	野本小学校	5	参加賞
507	山口 藍可	平和について	野本小学校	5	参加賞
508	渡邊 慧至	平和について	野本小学校	5	参加賞
509	上原 彩	キャンプ	野本小学校	5	参加賞
510	梅澤 幸樹	平和な日本	野本小学校	5	参加賞
511	大塚 萌恵	平和の大切さ	野本小学校	5	参加賞
512	柏俣 有規	日本と外国との平和に	野本小学校	5	参加賞
513	川田 結稀	戦争のない未来	野本小学校	5	参加賞
514	神戸 咲樂	平和と戦争について	野本小学校	5	参加賞
515	國島 琴美	地雷	野本小学校	5	参加賞
516	栗原 百合愛	平和について	野本小学校	5	参加賞
517	國分 日葵	「夏休みに平和について考えました。」	野本小学校	5	参加賞
518	澤畑 雫	私の平和	野本小学校	5	参加賞
519	関根 綾華	平和について	野本小学校	5	参加賞
520	中村 遥飛	平和について	野本小学校	5	参加賞
521	野澤 春陽	ぼくの平和	野本小学校	5	参加賞
522	堀内 碧	平和とは	野本小学校	5	参加賞
523	牧 亜弥音	私を感じた戦争	野本小学校	5	参加賞
524	牧 幸大	平和について	野本小学校	5	参加賞
525	松浦 愛莉	花と平和の私たち	野本小学校	5	参加賞
526	三上 武琉	花とウォーキングのまちのへいわしよう	野本小学校	5	参加賞
527	峯 楽空	平和はすごい	野本小学校	5	参加賞
528	村田 美咲	花とウォーキングの平和	野本小学校	5	参加賞
529	山下 湧大	平和の大切さ	野本小学校	5	参加賞
530	青山 蓮	へいわについて	新明小学校	3	参加賞
531	秋葉 壮賢	しらかなことがいっぱいいせんそう	新明小学校	3	参加賞
532	新井 爽介	ぼくがおもうへいわ	新明小学校	3	参加賞
533	荒井 遥斗	やきばに立つ少年	新明小学校	3	参加賞
534	新井 楓香	へい和な時代へ	新明小学校	3	参加賞
535	新井 諒太	ぼくの目ひょう	新明小学校	3	参加賞
536	石畑 美苗	けいさつに礼い	新明小学校	3	参加賞
537	大野 夢実	学校に通えない子どもたちについて	新明小学校	3	参加賞
538	岡村 幹奈	「私たちは知らないせんそうの事」	新明小学校	3	参加賞
539	小川 純一郎	「ごめんね。」	新明小学校	3	参加賞
540	管 信乃助	へいわについて	新明小学校	3	参加賞
541	佐藤 菜夢	ロゲンカ	新明小学校	3	参加賞
542	鈴木 さくら	友だちとなかよく	新明小学校	3	参加賞
543	高瀬 乃衣	「日本がへいわに、なってほしい。」	新明小学校	3	参加賞
544	滝瀬 千弘	「友だちとなかよく」	新明小学校	3	参加賞
545	附柳 龍斗	学どうのときのケンカ	新明小学校	3	参加賞
546	長崎 瑚心	びょうきや学校にいけない子どものいのち	新明小学校	3	参加賞
547	中村 愛里	友だちとケンカしたとき	新明小学校	3	参加賞
548	萩原 紫央里	へいわは、だいじ	新明小学校	3	参加賞
549	長谷川 柊々	この世界にしあわせを	新明小学校	3	参加賞
550	堀井 彩奈	友だちと、けんかをした後は	新明小学校	3	参加賞

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
551	松葉 暖乃	「ごみについて」	新明小学校	3	参加賞
552	松本健吾	へいわについて	新明小学校	3	参加賞
553	丸山 結生	ちいちゃんのかげおくり	新明小学校	3	参加賞
554	森田 虎太郎	せんそうはへいわのこと	新明小学校	3	参加賞
555	山形 開己	なぜ人はいのちをうばってしまうのか	新明小学校	3	参加賞
556	山田 趣里香	がんばっている人たち	新明小学校	3	参加賞
557	横石 将吾	「ぼくが思う生命」	新明小学校	3	参加賞
558	阿部 友花	せんそうがない平和なじだいへ	新明小学校	3	参加賞
559	石井 孔明	しあわせとぼく	新明小学校	3	参加賞
560	内山 楓果	平和な時代	新明小学校	3	参加賞
561	小川 洋登	「しあわせなこととぼく」	新明小学校	3	参加賞
562	小川 莉菜	へいわについてわたしが思うこと	新明小学校	3	参加賞
563	川村 海翔	平和とぼく	新明小学校	3	参加賞
564	倉橋 慶吾	いまは平和でよかった	新明小学校	3	参加賞
565	黒木 理子	いまは平和	新明小学校	3	参加賞
566	小林 隆晟	この世界の平和を考える	新明小学校	3	参加賞
567	佐藤 初羽	平和について	新明小学校	3	参加賞
568	芝山 彩花	平和とわたし	新明小学校	3	参加賞
569	鈴木 勇太郎	今としょうわのちがいがい	新明小学校	3	参加賞
570	須藤 蒼生	ぼくが思う平和	新明小学校	3	参加賞
571	関口 誠	おじいちゃんから聞いた戦争の話	新明小学校	3	参加賞
572	染森 優音	ぼくの幸せ	新明小学校	3	参加賞
573	高橋 慶多	平和とぼく	新明小学校	3	参加賞
574	田端 紅	平和とせんそう	新明小学校	3	参加賞
575	塚田 莉瑚	平和について	新明小学校	3	参加賞
576	中島 柚葉	「わたしが考えた平和」	新明小学校	3	参加賞
577	永春 結菜	今とむかし	新明小学校	3	参加賞
578	中村 光汰	平和について	新明小学校	3	参加賞
579	中村 優斗	遊ぶ毎日	新明小学校	3	参加賞
580	蓮沼 千鶴	あんぜんな世界ときげんな世界	新明小学校	3	参加賞
581	長谷部 凪	お金があつてしあわせ	新明小学校	3	参加賞
582	福士 慶大	にととせんそうのないせかいへ	新明小学校	3	参加賞
583	藤田 泰輔	平和がつづくといいな	新明小学校	3	参加賞
584	堀江 勇人	「平和について」	新明小学校	3	参加賞
585	間部 祐佳	平和とは	新明小学校	3	参加賞
586	宮田 海璃	平和とぼく	新明小学校	3	参加賞
587	森田 咲和	平和な町と平和じゃない町	新明小学校	3	参加賞
588	八十島 芽衣	わたしが考える平和	新明小学校	3	参加賞
589	山口 佳那子	平和とわたし	新明小学校	3	参加賞
590	新井 僚太	東松山のおまつり	新明小学校	4	参加賞
591	飯塚 聖哉	平和な東松山	新明小学校	4	参加賞
592	五十嵐 夢華	平和だからできた事	新明小学校	4	参加賞
593	石坂 壱輝	お祭りに行ったこと	新明小学校	4	参加賞
594	市川 海羽	お祭りに行ったこと	新明小学校	4	参加賞
595	稲村 陽	やきとりを食べたこと	新明小学校	4	参加賞
596	井上 綾萌	東松山市の花火大会	新明小学校	4	参加賞
597	江良 ひより	平和だから行ける場所	新明小学校	4	参加賞
598	追分 宗磨	花火を家で見たよ	新明小学校	4	参加賞
599	奥田 有希	スリーデーマーチでがんばりたいこと	新明小学校	4	参加賞
600	金子 一花	東松山花火大会	新明小学校	4	参加賞

作文の部 小学生応募者一覧

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
601	上村 美来	花火大会に行ったこと	新明小学校	4	参加賞
602	小林 咲智	お祭りに行ったこと	新明小学校	4	参加賞
603	小山 聖翔	東松山の楽しい花火大会	新明小学校	4	参加賞
604	佐藤 奏多	お祭りで楽しかったこと	新明小学校	4	参加賞
605	新村 海雅	スリーデーマーチ	新明小学校	4	参加賞
606	鈴木 友唯	戦争中だったら	新明小学校	4	参加賞
607	関口 心渚	いのちと平和	新明小学校	4	参加賞
608	谷口 唯	東松山の花火大会	新明小学校	4	参加賞
609	塚田 正人	花火大会に行ったこと	新明小学校	4	参加賞
610	筒井 佐伍	東松山のおまつり	新明小学校	4	参加賞
611	仲田 嵐	楽しかった夏まつり	新明小学校	4	参加賞
612	中塚 仁菜	平和について	新明小学校	4	参加賞
613	中村 真珠	平和資料かんに行ったこと	新明小学校	4	参加賞
614	仲本 恵実梨	カブスカウトへ行ったこと	新明小学校	4	参加賞
615	波塚 藍乃	平和だからこそでること	新明小学校	4	参加賞
616	野巻 昴咲	箭弓稲荷神社に行ったこと	新明小学校	4	参加賞
617	橋本 夏那	スリーデーマーチでがんばりたいこと	新明小学校	4	参加賞
618	早川 れおな	東松山市のいいところ	新明小学校	4	参加賞
619	林 倅太郎	御茶山町のおまつりに行った	新明小学校	4	参加賞
620	廣河原 愛音	いっしょけんめいがんばったべんきょう	新明小学校	4	参加賞
621	笛木 規仁	とき川に行った事	新明小学校	4	参加賞
622	本田 陽菜	東松山のお祭りに行った事	新明小学校	4	参加賞
623	松本 理奈	東松山花火大会を見て思ったこと	新明小学校	4	参加賞
624	南 創太	埼玉の夏まつり	新明小学校	4	参加賞
625	本橋 結衣奈	東松山のおまつりに行ったよ	新明小学校	4	参加賞
626	屋宜 心羽	おまつりに行ったこと	新明小学校	4	参加賞
627	矢島 一	東松山の見どころ	新明小学校	4	参加賞
628	山口 温人	平和だからできる事	新明小学校	4	参加賞
629	渡邊 怜	東松山のお祭り	新明小学校	4	参加賞
630	浅沼 うた	平和について考える	新明小学校	4	参加賞
631	荒井 椋太	四年二組の事	新明小学校	4	参加賞
632	磯部 優花	平和とは	新明小学校	4	参加賞
633	打田 琴美	わたしの思う平和	新明小学校	4	参加賞
634	内田 虎太	へいわ	新明小学校	4	参加賞
635	大木 優明	平和だと思ったこと	新明小学校	4	参加賞
636	岡 奈那実	平和について	新明小学校	4	参加賞
637	高山 結衣	楽しかった一学期	新明小学校	4	参加賞
638	齊藤 俐玖	平和な世界	新明小学校	4	参加賞
639	坂ノ上 權	平和な暮らし	新明小学校	4	参加賞
640	櫻木 光	「平和」ということ	新明小学校	4	参加賞
641	塩田 かずき	平和について	新明小学校	4	参加賞
642	鈴木 奏登	タイトルなし	新明小学校	4	参加賞
643	鈴木 優希	だれもが平和でくらせるように	新明小学校	4	参加賞
644	鈴木 友菜	戦争と今	新明小学校	4	参加賞
645	須長 奏葉	平和	新明小学校	4	参加賞
646	関原 蒼未	今と昔のちがいが	新明小学校	4	参加賞
647	高石 結愛	平和とは	新明小学校	4	参加賞
648	高橋 依和	平和なまちづくり	新明小学校	4	参加賞
649	高橋 侑来	戦争と平和	新明小学校	4	参加賞
650	高谷 幸甫	平和と戦争	新明小学校	4	参加賞

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
651	高柳 彩	平和について	新明小学校	4	参加賞
652	田嶋 清花	みんなが願う「平和」	新明小学校	4	参加賞
653	田中 弦輝	平和について	新明小学校	4	参加賞
654	塚田 環	平和な暮らし	新明小学校	4	参加賞
655	長島 蒼空	戦争と今のじだい	新明小学校	4	参加賞
656	永島 大翔	平和	新明小学校	4	参加賞
657	中村 彩乃	平和なとき	新明小学校	4	参加賞
658	西川 心渚	平和な世界を目指すためには	新明小学校	4	参加賞
659	根岸 小春	戦争のあったじだいと今をくらべて	新明小学校	4	参加賞
660	萩原 友里愛	私が思う平和について	新明小学校	4	参加賞
661	長谷川 花奈	平和	新明小学校	4	参加賞
662	平野 幸音	平和な時代	新明小学校	4	参加賞
663	深澤 庵吏	平和	新明小学校	4	参加賞
664	深澤 楓	平和な暮らし	新明小学校	4	参加賞
665	深津 翔馬	平和とせんそう	新明小学校	4	参加賞
666	安原 沙優	平和	新明小学校	4	参加賞
667	山口 桃夏	平和な日本	新明小学校	4	参加賞
668	横田 心結	せんそうがない平和	新明小学校	4	参加賞
669	渡辺 ハルミ	平和について	新明小学校	4	参加賞
670	長谷川 桃子	八月十五日	市の川小学校	3	参加賞
671	金澤 美結	戦争をわすれないで	市の川小学校	5	参加賞
672	岡野 彩佳	日本にピースを	市の川小学校	6	参加賞
673	赤沼 怜弥	平和について	青鳥小学校	3	参加賞
674	網代 美紅	平和について	青鳥小学校	3	参加賞
675	磯崎 真愛	戦争と平和	青鳥小学校	3	参加賞
676	伊藤 帆花	「平和ってなんだろう。」	青鳥小学校	3	参加賞
677	梅館 和奏	ちきゅうの人数をへらさないためには	青鳥小学校	3	参加賞
678	遠藤 珀斗	せんそうのくらしみ	青鳥小学校	3	参加賞
679	大澤 愛莉	ごみひろいとうこうつあんぜん(しんごう)	青鳥小学校	3	参加賞
680	大竹 莉央	せんそうとは	青鳥小学校	3	参加賞
681	大山 大翔	平和について	青鳥小学校	3	参加賞
682	岡部 結歩空	平和さく文	青鳥小学校	3	参加賞
683	黒坂 優希	平和と戦争	青鳥小学校	3	参加賞
684	佐々木 来夏	ウォーキングと平和	青鳥小学校	3	参加賞
685	嶋田 羽菜	ピースミュージアムに行ってみて	青鳥小学校	3	参加賞
686	高沢 藍	みんなとなかよくくらしたい	青鳥小学校	3	参加賞
687	高橋 悠斗	「せんそうと平和」	青鳥小学校	3	参加賞
688	高山 颯良	平わとせんそう	青鳥小学校	3	参加賞
689	千葉 里桜	今と昔	青鳥小学校	3	参加賞
690	坪井 翔矢	平和について	青鳥小学校	3	参加賞
691	中川 紡紀	せんそうってどんなの	青鳥小学校	3	参加賞
692	二瓶 久実	せんそうは多くのぎせいしやを出す	青鳥小学校	3	参加賞
693	原 直輝	タイトルなし	青鳥小学校	3	参加賞
694	廣川 宇流	兄弟の平和について	青鳥小学校	3	参加賞
695	福田 陽生	平和	青鳥小学校	3	参加賞
696	吉澤 咲南	平和について	青鳥小学校	3	参加賞
697	荒木 心愛	平和について	青鳥小学校	3	参加賞
698	安齋 昂	へいわのたいせつさ	青鳥小学校	3	参加賞
699	飯塚 倅恵子	花からもらう元気	青鳥小学校	3	参加賞
700	稲葉 聖人	平和のためにぼくにできること	青鳥小学校	3	参加賞

作文の部 小学生応募者一覧

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
701	井上 珠花	世界とへいわ	青鳥小学校	3	参加賞
702	大谷 風詞	せんそうりかえさないために	青鳥小学校	3	参加賞
703	大塚 青和	平和のためにこうしよう！	青鳥小学校	3	参加賞
704	大野 絢世	ぼくの思う平和	青鳥小学校	3	参加賞
705	小川 萌々香	平和はゆたか	青鳥小学校	3	参加賞
706	笠原 凜翔	平和について	青鳥小学校	3	参加賞
707	加藤 愛海	平和で幸せな毎日を	青鳥小学校	3	参加賞
708	金井塚 望	平和とせんそう	青鳥小学校	3	参加賞
709	木内 菜瑠巳	平和の意味	青鳥小学校	3	参加賞
710	齊藤 美輝	平和と8才のわたし	青鳥小学校	3	参加賞
711	崎原 龍輝	学校や家ででの平和	青鳥小学校	3	参加賞
712	椎名 慧太	おばあちゃんのせんそう体けん	青鳥小学校	3	参加賞
713	新保 辰道	せんそうがないのはいいこと	青鳥小学校	3	参加賞
714	高柳 実季子	平和について	青鳥小学校	3	参加賞
715	竹内 悠美子	平和について	青鳥小学校	3	参加賞
716	中田 葵	わたしたちの平和	青鳥小学校	3	参加賞
717	西川 美華	平和について	青鳥小学校	3	参加賞
718	堀越 彩人	平和ってなんだろう	青鳥小学校	3	参加賞
719	松浦 結弦	へいわについて	青鳥小学校	3	参加賞
720	水野 姫歌	わたしが思う平和	青鳥小学校	3	参加賞
721	山口 華奈	せんそうじだい	青鳥小学校	3	参加賞
722	若林 真紀	へいわの世界へ	青鳥小学校	3	参加賞
723	渡辺 愛優	今のしあわせをたいせつに	青鳥小学校	3	参加賞
724	青木 希空	平和について	青鳥小学校	4	参加賞
725	雨宮 史歩	平和	青鳥小学校	4	参加賞
726	石川 莉大	昔と今はどちらがうのだろうか	青鳥小学校	4	参加賞
727	伊藤 葵桜	花と平和について	青鳥小学校	4	参加賞
728	今井 大我	心の平和・花の平和	青鳥小学校	4	参加賞
729	今井 那奈	「心の平和」	青鳥小学校	4	参加賞
730	今村 祐貴	戦争のない、平和な時代とは	青鳥小学校	4	参加賞
731	大本 風優	心の平和	青鳥小学校	4	参加賞
732	小川 結士	平和と学校	青鳥小学校	4	参加賞
733	小川 夕輝	世界と平和	青鳥小学校	4	参加賞
734	霞 優香	戦争	青鳥小学校	4	参加賞
735	喜多 笑鈴	平和な世界	青鳥小学校	4	参加賞
736	四釜 夏海	平和とは	青鳥小学校	4	参加賞
737	杉本 結衣	「平和な心」	青鳥小学校	4	参加賞
738	高井 望光	平和	青鳥小学校	4	参加賞
739	竹内 惇	平和な時代に生まれたぼく	青鳥小学校	4	参加賞
740	徳江 呉羽	わたしの平和の時代と昔の時代	青鳥小学校	4	参加賞
741	野澤 結愛	平和の話	青鳥小学校	4	参加賞
742	野本 珀斗	平和とは	青鳥小学校	4	参加賞
743	則本 桜花	「時と心の平和」	青鳥小学校	4	参加賞
744	橋本 祐典	ヒロシマの原爆	青鳥小学校	4	参加賞
745	長谷部 海道	平和って何	青鳥小学校	4	参加賞
746	服部 優惹	りそうの平和	青鳥小学校	4	参加賞
747	平井 孝明	「平和な時代」	青鳥小学校	4	参加賞
748	堀川 比呂	「平和にするには」	青鳥小学校	4	参加賞
749	真子 葵	今と昔	青鳥小学校	4	参加賞
750	諸井 みう	花と平和	青鳥小学校	4	参加賞

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
751	谷島 結斗	心の平和	青鳥小学校	4	参加賞
752	横須賀 蒼埜	戦争に行った兵士の気持ちを知って	青鳥小学校	4	参加賞
753	新井 華音	わたしたちの平和	青鳥小学校	4	参加賞
754	家永 優詩	街の平和	青鳥小学校	4	参加賞
755	伊藤 漣	ぼくの平和は・・・	青鳥小学校	4	参加賞
756	岩波 健太	平和とは	青鳥小学校	4	参加賞
757	岡本 頼磨	平和について	青鳥小学校	4	参加賞
758	小野 蒼人	平和とは	青鳥小学校	4	参加賞
759	粕谷 名沙	平和について	青鳥小学校	4	参加賞
760	加藤 潤	ぼくにとって平和というのは	青鳥小学校	4	参加賞
761	金井塚 真子	平和と戦争	青鳥小学校	4	参加賞
762	岸 美織	戦争・平和ってなに	青鳥小学校	4	参加賞
763	後藤 夢結	一つの花を読んで・・・	青鳥小学校	4	参加賞
764	小林 瑠花	「平和」ってなんだろう？	青鳥小学校	4	参加賞
765	佐藤 颯紀	一つの花を勉強して	青鳥小学校	4	参加賞
766	佐藤 潤菜	今は平和、昔は戦争	青鳥小学校	4	参加賞
767	嶋田 浩己	平和ってなに	青鳥小学校	4	参加賞
768	鈴木 陽斗	一つの花を読んで	青鳥小学校	4	参加賞
769	平 琉良	平和な暮らし	青鳥小学校	4	参加賞
770	千場 玲奈	戦争がおきないためには	青鳥小学校	4	参加賞
771	根岸 舞拓	せんそうとは	青鳥小学校	4	参加賞
772	野原 佳凜	一つの花を読んで	青鳥小学校	4	参加賞
773	蓮見 莉奈	平和について	青鳥小学校	4	参加賞
774	長谷部 翔平	平和について	青鳥小学校	4	参加賞
775	古山 七菜佳	いつまでも平和な毎日を	青鳥小学校	4	参加賞
776	堀安 梁代	平和なけしき	青鳥小学校	4	参加賞
777	水村 悠聖	日常の小さな幸せと平和	青鳥小学校	4	最優秀賞
778	望月 菜々子	戦争と平和	青鳥小学校	4	参加賞
779	山口 健太	1の花をよんでがくしゅうした	青鳥小学校	4	参加賞
780	山崎 圭悟	一つの花を勉強して	青鳥小学校	4	参加賞
781	横川 美羽	「平和について」	青鳥小学校	4	参加賞
782	青木 莉奈愛	ほたるのはかをみて	青鳥小学校	4	参加賞
783	浅見 圭汰	平和は大切	青鳥小学校	4	参加賞
784	新井 愛音	平和とは	青鳥小学校	4	参加賞
785	飯沼 菜々	平和と戦争は、どんなものか？	青鳥小学校	4	参加賞
786	石垣 穂乃花	平和があらわすこと・・・	青鳥小学校	4	参加賞
787	磯山 結毅	戦争は意味ない	青鳥小学校	4	参加賞
788	市川 圭介	戦争について	青鳥小学校	4	参加賞
789	梅澤 瑠生	平和と戦争のちがいが	青鳥小学校	4	参加賞
790	遠藤 沙依	平和は大切	青鳥小学校	4	参加賞
791	岡本 怜央	平和とは何か	青鳥小学校	4	参加賞
792	小川 未奈歩	なんで日本は、戦争したの	青鳥小学校	4	参加賞
793	久保 琴暖	戦争はとてもこわい？	青鳥小学校	4	参加賞
794	栗原 逞真	戦争をやることでおきるいやなこと	青鳥小学校	4	参加賞
795	高山 礼葵	戦争とは	青鳥小学校	4	参加賞
796	篠原 舞	戦はひどい	青鳥小学校	4	参加賞
797	関口 夏芽	わたしが思う平和	青鳥小学校	4	参加賞
798	戸野倉 良	平和について	青鳥小学校	4	参加賞
799	戸張 璃音	日本は、平和が一番	青鳥小学校	4	参加賞
800	長島 純玲	戦争のない時代に生まれて	青鳥小学校	4	参加賞

作文の部 小学生応募者一覧

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
801	野口 優	平和たいせつ	青島小学校	4	参加賞
802	堀 悠希	戦争って本当にいるの？	青島小学校	4	参加賞
803	山崎 里桜	戦争はとつてもわるいこと	青島小学校	4	参加賞
804	横田 英恵	戦争は、いけない。	青島小学校	4	参加賞
805	吉田 直人	平和な今	青島小学校	4	参加賞
806	青木 輝空	平和への願い	青島小学校	5	参加賞
807	荒井 志織	戦争は絶対にやっていけない	青島小学校	5	参加賞
808	新井 梨央	戦争やテロの悲しさ	青島小学校	5	参加賞
809	飯野 瑛太	世界を平和にするためにについて	青島小学校	5	参加賞
810	猪野 結菜	未来の笑顔	青島小学校	5	参加賞
811	今井 麗	平和と戦争のちがい	青島小学校	5	参加賞
812	大谷 寛太郎	八月六日	青島小学校	5	参加賞
813	大谷 優月	平和へのいじめ0	青島小学校	5	参加賞
814	大野 友也	戦争と平和	青島小学校	5	参加賞
815	小川 莉香	平和にするため	青島小学校	5	参加賞
816	金田 瑠華	こわい戦争と大切な平和	青島小学校	5	参加賞
817	川邊 暖心	戦争に立ち向かう人たち	青島小学校	5	参加賞
818	神澤 七緒	平和への道	青島小学校	5	参加賞
819	久保田 知歩	戦争がおきなかったら	青島小学校	5	参加賞
820	小岩井 結愛	みんなの幸せを願って	青島小学校	5	参加賞
821	今 博樹	今と昔	青島小学校	5	参加賞
822	斎藤 煌生	花と心の平和	青島小学校	5	参加賞
823	島田 果歩	ばくだんなどへのぎもん	青島小学校	5	参加賞
824	高橋 亜弥	素直な気持ちと強い意志	青島小学校	5	参加賞
825	高柳 春喜	平和のための行動	青島小学校	5	参加賞
826	高山 詩汰	平和とはなにか	青島小学校	5	参加賞
827	津田 好葉	戦争はこわい。では、平和とはなにか。	青島小学校	5	参加賞
828	長谷部 航大	平和とはなにか	青島小学校	5	参加賞
829	半谷 龍弥	みじかのいじめで平和じゃなくなる	青島小学校	5	参加賞
830	廣川 流音	言葉を大切にする	青島小学校	5	参加賞
831	逸見 心遥	平和の大切さ	青島小学校	5	参加賞
832	松本 祥影	平和とはどのようなことか	青島小学校	5	参加賞
833	山崎 清花	心、そして世界中を平和に	青島小学校	5	優秀賞
834	山田 翠水	私たちの平和のために	青島小学校	5	参加賞
835	山本 潤	戦争での死	青島小学校	5	参加賞
836	新井 輝	平和について考えた	青島小学校	5	参加賞
837	飯嶋 心琉	いつまでも平和を願う	青島小学校	5	参加賞
838	稲葉 仁人	戦争がなければ	青島小学校	5	参加賞
839	大江 七穂	平和ということについて	青島小学校	5	参加賞
840	大嶋 心苺乃	ひいおじいちゃんの体験	青島小学校	5	参加賞
841	大塚 叶	戦争のこわさ	青島小学校	5	参加賞
842	岡部 雄空	平和で安心な未来へ	青島小学校	5	参加賞
843	尾上 陽人	平和の大切さ	青島小学校	5	参加賞
844	小栗 大志	平和について	青島小学校	5	参加賞
845	加藤 杏里	平和と未来へ	青島小学校	5	参加賞
846	北澤 くるみ	平和をもっとよくするには	青島小学校	5	参加賞
847	栗林 瑛梨奈	「戦争」	青島小学校	5	参加賞
848	小林 虹々	平和を保つため	青島小学校	5	参加賞
849	小宮 璃音	平和で楽しい毎日	青島小学校	5	参加賞
850	篠田 華	平和と戦争	青島小学校	5	優良賞

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
851	菅谷 優希奈	平和の未来へ	青島小学校	5	参加賞
852	菅原 百合香	平和がどれだけ大切か	青島小学校	5	参加賞
853	関根 結	平和とは	青島小学校	5	参加賞
854	武田 タ彩	「昔の戦争と今の平和」	青島小学校	5	参加賞
855	田嶋 麻衣	第二次世界大戦～戦争を知らない現代	青島小学校	5	参加賞
856	中田 龍乃介	今と昔の幸せ	青島小学校	5	参加賞
857	野原 宏志	戦争がない世界へ	青島小学校	5	参加賞
858	萩原 心望	平和になるために	青島小学校	5	参加賞
859	廣瀬 美咲	平和の国へ	青島小学校	5	参加賞
860	福田 姫乃	世界を平和にするために	青島小学校	5	参加賞
861	松本 瑠唯	平和のために	青島小学校	5	参加賞
862	丸山 颯心	人々の平和にするための気持ち	青島小学校	5	参加賞
863	山岡 夢來	平和と貿易	青島小学校	5	参加賞
864	山口 琥太郎	戦争のない今そして未来へ	青島小学校	5	参加賞
865	山崎 瑠璃	みんなが笑顔になるために	青島小学校	5	参加賞
866	網代 真	平和な世界へ	青島小学校	6	参加賞
867	飯野 愛果	私にとって平和とは	青島小学校	6	参加賞
868	石川 杏紗	戦争のない平和なくらし	青島小学校	6	参加賞
869	石川 柚稀	原爆ドームの永久保存の意味	青島小学校	6	参加賞
870	伊藤 歩汰	原ばくドームのひばく	青島小学校	6	参加賞
871	伊藤 百愛	平和というなら、幸せというなら	青島小学校	6	参加賞
872	今井 来夢	平和を築く	青島小学校	6	参加賞
873	遠藤 杏珠	平和への第一歩	青島小学校	6	参加賞
874	遠藤 悠斗	戦争をなくすために	青島小学校	6	参加賞
875	大塚 結加	いじめやぎゃくたいは、戦争と同じ	青島小学校	6	参加賞
876	岡部 虎太郎	平和な未来へ	青島小学校	6	参加賞
877	岡部 陸	戦争が起こらないで	青島小学校	6	参加賞
878	門倉 杏奈	戦争のない未来へ	青島小学校	6	参加賞
879	川野 穂菜実	戦争はなんであるの	青島小学校	6	参加賞
880	桑原 陸	平和な未来へ	青島小学校	6	参加賞
881	高山 立葵	ばくだん一発で人や建物が	青島小学校	6	参加賞
882	齋藤 月菜	平和な世界を	青島小学校	6	参加賞
883	佐藤 真十	戦争の存在に権利は無い。	青島小学校	6	参加賞
884	高野 壮吾	本当の平和って何だろう	青島小学校	6	参加賞
885	竹内 英司	せんそうとむき合うには	青島小学校	6	参加賞
886	田中 聖徠	多くの人の憎しみや苦しみ	青島小学校	6	参加賞
887	長島 佑樹	町の人の世界遺産	青島小学校	6	参加賞
888	野口 晴斗	平和の未来へ	青島小学校	6	参加賞
889	野澤 綾	平和な世の中へ	青島小学校	6	参加賞
890	野澤 巧	平和のためには	青島小学校	6	参加賞
891	堀越 結菜	平和な未来へ	青島小学校	6	参加賞
892	矢田部 紘司	平和な世界を願う	青島小学校	6	参加賞
893	柳澤 友希	自然災害と戦争	青島小学校	6	参加賞
894	矢部 紗羽	平等な世界へ	青島小学校	6	参加賞
895	山崎 瑛太	本当の、平和とは。	青島小学校	6	参加賞
896	山田 大凱	世界が平和になるために	青島小学校	6	参加賞
897	若林 拓哉	平和な日本であり続けるために	青島小学校	6	参加賞
898	安嶋 澤音	争戦	青島小学校	6	参加賞
899	飯野 咲希	平和について	青島小学校	6	参加賞
900	岩波 昂希	平和について	青島小学校	6	参加賞

作文の部 小学生応募者一覧

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
901	歌津 晴斗	戦争は、辛い、恐ろしい	青島小学校	6	参加賞
902	大竹 葵陽	平和で新しい日本	青島小学校	6	参加賞
903	大塚 叶英	私にとっての平和	青島小学校	6	参加賞
904	小川 光輝	平和な国へ	青島小学校	6	参加賞
905	小川 永遠	戦争	青島小学校	6	参加賞
906	小野 心遥	平和って何だろう	青島小学校	6	参加賞
907	小石 晴太	わすれてはいけないこと	青島小学校	6	参加賞
908	小林 慎弥	平和な未来へ	青島小学校	6	参加賞
909	佐藤 愛	世界の平和を願って	青島小学校	6	参加賞
910	清水 穂香	「戦争」とは？	青島小学校	6	参加賞
911	杉本 尚樹	戦争について	青島小学校	6	参加賞
912	丹 直翔	戦争って	青島小学校	6	参加賞
913	戸張 亜蓮	平和で楽しい世界へ	青島小学校	6	参加賞
914	新田見 仁菜	平和な未来を作るために	青島小学校	6	参加賞
915	野澤 優太	「平和」を望む人々	青島小学校	6	参加賞
916	長谷部 理都	戦争と今のくらし	青島小学校	6	参加賞
917	桧田 真輝	平和な未来へ	青島小学校	6	参加賞
918	百石 花乃子	戦争のない世界へ	青島小学校	6	参加賞
919	平田 昶太郎	戦争のない世へ	青島小学校	6	参加賞
920	本郷 珠俐	平和の今	青島小学校	6	参加賞
921	正木 陸達	ロヒンギヤの人々達	青島小学校	6	参加賞
922	本村 彩夏	平和で楽しい未来へ	青島小学校	6	参加賞
923	モハマド アル ラマダン	安心安全平和な世界へ	青島小学校	6	参加賞
924	茂呂田 汰一	平和と戦争	青島小学校	6	参加賞
925	矢島 稜大	平和	青島小学校	6	参加賞
926	山崎 理央	平和とは	青島小学校	6	参加賞
927	吉野 綺紗	戦そうと人々の願い	青島小学校	6	参加賞
928	若林 直哉	平和について	青島小学校	6	参加賞
929	渡邊 柚乃	平和を願う人々の思い	青島小学校	6	参加賞
930	渡辺 琉依	戦争のない世界	青島小学校	6	参加賞
931	阿部 巧実	家のオリーブ	新宿小学校	4	参加賞
932	安藤 早希	私は家の前の人に感どうしました。	新宿小学校	4	参加賞
933	池田 蓮	学校のさくら	新宿小学校	4	参加賞
934	石塚 心菜	おばあちゃんの家の庭	新宿小学校	4	参加賞
935	岩村 フィリップ	バラの花	新宿小学校	4	参加賞
936	上田 朱湊	すみれ	新宿小学校	4	参加賞
937	上野 来菜	おばあちゃんちにさいているお花	新宿小学校	4	参加賞
938	岡本 陽斗	さくら	新宿小学校	4	参加賞
939	風早 碧	色とりどりのチューリップ	新宿小学校	4	参加賞
940	カナグスク ソフィア	花を大切にしよう	新宿小学校	4	参加賞
941	菊池 心愛	草花を大切に	新宿小学校	4	参加賞
942	菊池 珠羽	家の植物	新宿小学校	4	参加賞
943	クア ユ ミュキ	お花の公園	新宿小学校	4	参加賞
944	熊倉 巧海	平和の桜	新宿小学校	4	参加賞
945	小池 真友莉	平和を感じるひまわり	新宿小学校	4	参加賞
946	地主 智貴	アジサイ	新宿小学校	4	参加賞
947	菅谷 ひなた	ありがとう桜	新宿小学校	4	参加賞
948	菅谷 蘭	家で植えている花	新宿小学校	4	参加賞
949	須和田 一奈	さくら	新宿小学校	4	参加賞
950	ソナダ ガブリエル	学校のさくら	新宿小学校	4	参加賞

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
951	高橋 海空斗	桜	新宿小学校	4	参加賞
952	竹村 皆人	いつも育ててもらっている花	新宿小学校	4	参加賞
953	照内 優莉	アサガオと桜	新宿小学校	4	参加賞
954	唐仁原 陽菜璃	お花にもらう人の心花のつよさ	新宿小学校	4	参加賞
955	長嶋 杜茂	家にあるいね	新宿小学校	4	参加賞
956	成田 絆人	小学校でそだてた、アサガオ	新宿小学校	4	参加賞
957	根岸 ひなこ	しあわせのパンジー	新宿小学校	4	参加賞
958	舟橋 璃月	アジサイ	新宿小学校	4	参加賞
959	矢島 祈輝	いろいろな花	新宿小学校	4	参加賞
960	山中 一真	家の前にある花	新宿小学校	4	参加賞
961	横井 虎太郎	心をつなぐツバキの花	新宿小学校	4	参加賞
962	青木 大和	花を植えて思ったこと	新宿小学校	4	参加賞
963	浅見 柚奈	花のたねを植えて	新宿小学校	4	参加賞
964	今井 汰海	家にさいた花	新宿小学校	4	参加賞
965	上田 凌雅	初めて花を育てたこと	新宿小学校	4	参加賞
966	内野 陽色	花を植えて	新宿小学校	4	参加賞
967	内野 結衣	花を植えて	新宿小学校	4	参加賞
968	大澤 りお	平和の花	新宿小学校	4	参加賞
969	大本 来実	花を見ると	新宿小学校	4	参加賞
970	小笠原 瑠音	花をうえて	新宿小学校	4	参加賞
971	小川 るな	はじめてたねをまいたとき	新宿小学校	4	参加賞
972	川島 美咲	あさがおの花	新宿小学校	4	参加賞
973	楠田 瑠衣	初めての花	新宿小学校	4	参加賞
974	栗原 りおん	花がさいて…	新宿小学校	4	参加賞
975	佐々木 杏奈	花をうえて	新宿小学校	4	参加賞
976	島田 聖斗	花をうえて	新宿小学校	4	参加賞
977	清水 愛幸	おばあちゃんと植えたお花	新宿小学校	4	参加賞
978	鈴木 愛実	花のたねを植えて思ったこと	新宿小学校	4	参加賞
979	鈴木 拓磨	花がさいたら	新宿小学校	4	参加賞
980	須長 奈々美	一輪の花	新宿小学校	4	参加賞
981	高倉 優希	花の大切さ	新宿小学校	4	参加賞
982	高月 璃穂	花の種を植えて	新宿小学校	4	参加賞
983	武田 リュウイチ	はじめてのヒマワリ	新宿小学校	4	参加賞
984	田中 悠翔	ひまわりのたねを植えて	新宿小学校	4	参加賞
985	畑 杏奈	花のたねを植えた気持ち	新宿小学校	4	参加賞
986	日野 浩聖	がんばれ花	新宿小学校	4	参加賞
987	船戸 優成	キレイな花	新宿小学校	4	参加賞
988	松下 セドリクジェイムス	はじめての花	新宿小学校	4	参加賞
989	松本 夏音	花を植えて	新宿小学校	4	参加賞
990	三浦 ビクトル	花を植えて	新宿小学校	4	参加賞
991	宮崎 涼夏	花を植えて	新宿小学校	4	参加賞
992	矢嶋 魁人	花の種を植えて	新宿小学校	4	参加賞
993	谷島 結愛	初めて花をそだてたとき	新宿小学校	4	参加賞
994	山口 輝大	花の花	新宿小学校	4	参加賞
995	新井 瑛人	ぼくと平和	新宿小学校	5	参加賞
996	荒井 佑太	ぼくたちの平和	新宿小学校	5	参加賞
997	安藤 結花	わたしの思う平和	新宿小学校	5	参加賞
998	内山 桜名	平和なくらし	新宿小学校	5	参加賞
999	遠藤 凌	平和な世界	新宿小学校	5	参加賞
1000	奥田 悠理	戦争と平和	新宿小学校	5	参加賞

作文の部 小学生応募者一覧

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
1001	金谷 紗月	わたしたちの平和	新宿小学校	5	参加賞
1002	小塚 海羽音	幸せな世界	新宿小学校	5	参加賞
1003	コハツ ナオミ	平和	新宿小学校	5	参加賞
1004	齋藤 美空	わたしが思う平和。	新宿小学校	5	参加賞
1005	齊藤 雄斗	AI	新宿小学校	5	参加賞
1006	坂田 のあ	平和な暮らし	新宿小学校	5	参加賞
1007	佐藤 優真	これからのみんなの平和	新宿小学校	5	参加賞
1008	白石 蒼空	わたしが思う平和について。	新宿小学校	5	参加賞
1009	鈴木 瑛大	AIについて	新宿小学校	5	参加賞
1010	関根 伊織	本当の平和・平和な世界	新宿小学校	5	参加賞
1011	塚越 星渚	げん在と未来	新宿小学校	5	参加賞
1012	銅谷 吏紗	平和の大切さ	新宿小学校	5	参加賞
1013	広瀬 悠星	みんなの平和	新宿小学校	5	参加賞
1014	水谷 心	平和とはなんだろう	新宿小学校	5	参加賞
1015	山崎 はるか	平和と平等	新宿小学校	5	参加賞
1016	横沢 唯磨	自分が思う平和	新宿小学校	5	参加賞
1017	若原 荘太	世界の平和	新宿小学校	5	参加賞
1018	イザドラフェルナンデス	平和	新宿小学校	5	参加賞
1019	天野 莉愛	自分が思う平和	新宿小学校	5	参加賞
1020	池田 宏輝	平和	新宿小学校	5	参加賞
1021	岩渕 理乃愛	赤い羽ぼきんは平和への一歩	新宿小学校	5	参加賞
1022	エスタシオ アンドレア	小さな平和と大きな平和の違い	新宿小学校	5	参加賞
1023	大葉 颯真	自分が思う平和	新宿小学校	5	参加賞
1024	影山 拓望	平和	新宿小学校	5	参加賞
1025	河橋 輝里	みんなとの会話	新宿小学校	5	参加賞
1026	岸澤 凜	平和	新宿小学校	5	参加賞
1027	工藤 ももな	平和について	新宿小学校	5	参加賞
1028	クマガイ ユウキ	平和について	新宿小学校	5	参加賞
1029	コハツ ツヨシ	平和とはなにか	新宿小学校	5	参加賞
1030	今野 拓実	平和について	新宿小学校	5	参加賞
1031	坂井 愛未	平和について	新宿小学校	5	参加賞
1032	島 千綱	ぼくの平和	新宿小学校	5	参加賞
1033	鈴木 愛恵	平和の暮らし	新宿小学校	5	参加賞
1034	高橋 悠仁	平和とはなにか	新宿小学校	5	参加賞
1035	高橋 美羽	「戦争」と「平和」について	新宿小学校	5	参加賞
1036	竹田 莉音	今の日本の人々は平和なのだろうか	新宿小学校	5	参加賞
1037	田中 悠友	これからの平和と今までの平和を考えてみる	新宿小学校	5	参加賞
1038	竹間 蒼空	平和について	新宿小学校	5	参加賞
1039	中山 鷲牙	タイトルなし	新宿小学校	5	参加賞
1040	ヒノ ユウキ	平和とは、	新宿小学校	5	参加賞
1041	平出 佳次郎	世界平和	新宿小学校	5	参加賞
1042	福島 萌花	これからも平和でいて欲しい	新宿小学校	5	参加賞
1043	福島 琉空	平和について	新宿小学校	5	参加賞
1044	藤城 光紀	みんな平和	新宿小学校	5	参加賞
1045	本田 智美	平和	新宿小学校	5	参加賞
1046	松本 大輝	今と昔のちがいが	新宿小学校	5	参加賞
1047	松山 もな美	「平和」とは	新宿小学校	5	参加賞
1048	マルケス アケミ	平和、には、なにがある。??	新宿小学校	5	参加賞
1049	吉澤 健太郎	今と昔の未来の平和のちがいが	新宿小学校	5	参加賞
1050	新井 美緒	戦争と平和	新宿小学校	6	参加賞

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
1051	大坂 優心	平和	新宿小学校	6	参加賞
1052	大澤 健二	平和	新宿小学校	6	参加賞
1053	小笠原 城李	戦争と平和	新宿小学校	6	参加賞
1054	垣塚 翔	戦争はこわい	新宿小学校	6	参加賞
1055	北原 奏	平和のありがたさ	新宿小学校	6	参加賞
1056	島田 玲菜	平和	新宿小学校	6	参加賞
1057	デルアキラ イチロー	平和の幸せさ。	新宿小学校	6	参加賞
1058	照内 向日葵	平和があるから幸せ	新宿小学校	6	参加賞
1059	富澤 柚季	昔と今	新宿小学校	6	参加賞
1060	長谷川 拓人	平和	新宿小学校	6	参加賞
1061	針谷 寿哉	平和	新宿小学校	6	参加賞
1062	ビニウス・サトウ	平和	新宿小学校	6	参加賞
1063	深澤 聖羅	戦争のこわさ	新宿小学校	6	参加賞
1064	眞苺 杏奈	平和について	新宿小学校	6	参加賞
1065	松田 小夏	平和	新宿小学校	6	参加賞
1066	宮島 玲奈	平和である幸せ	新宿小学校	6	参加賞
1067	矢部 桜	昔と今	新宿小学校	6	参加賞
1068	山本 愛莉	平和っていいな	新宿小学校	6	参加賞
1069	山本 史思	今の平和である幸せ	新宿小学校	6	参加賞
1070	渡辺 美空	今の平和である幸せ	新宿小学校	6	参加賞
1071	青木 祥太郎	平和になるにはどうしたらいいんだろう	新宿小学校	6	参加賞
1072	朝比 星奈	戦争と平和	新宿小学校	6	参加賞
1073	浅見 亮汰	今と昔のちがいが	新宿小学校	6	参加賞
1074	安藤 友也	戦争と平和ってなに	新宿小学校	6	参加賞
1075	岡田 優奈	なぜ戦争があるのか	新宿小学校	6	参加賞
1076	川嶋 愛太	戦争	新宿小学校	6	参加賞
1077	北野 京弥	戦争をなくしたいと思う	新宿小学校	6	参加賞
1078	小林 佳鈴	戦争	新宿小学校	6	参加賞
1079	小峰 優太	戦争をなくす為には	新宿小学校	6	参加賞
1080	坂中 翔統	戦争はバカバカしいと思う	新宿小学校	6	参加賞
1081	佐藤 菜々実	平和について	新宿小学校	6	参加賞
1082	志村 百香	世界中が平和になるには	新宿小学校	6	参加賞
1083	須田 瑛汰	戦争	新宿小学校	6	参加賞
1084	須藤 愛響	戦争ってなんだろう？	新宿小学校	6	参加賞
1085	関根 拓海	戦争をなくすためには	新宿小学校	6	参加賞
1086	畑 伶音奈	戦争は、バカバカしい	新宿小学校	6	参加賞
1087	平川 莉央	タイトルなし	新宿小学校	6	参加賞
1088	藤本 奈津季	戦争のこわさ	新宿小学校	6	参加賞
1089	松崎 幸多	日本の「戦争」	新宿小学校	6	参加賞
1090	森田 青春	平和作文	新宿小学校	6	参加賞
1091	矢島 優祈	平和ってなんだろう？	新宿小学校	6	参加賞
1092	山中 詩桜里	平和ってなんだろう？	新宿小学校	6	参加賞
1093	渡部 類	戦争	新宿小学校	6	参加賞
1094	梅澤 雅幸	戦争によって変わった日本	新宿小学校	6	参加賞
1095	江口 歩	戦争で変わった日本列島	新宿小学校	6	参加賞
1096	大池 永遠	戦争のない平和な日本へ	新宿小学校	6	参加賞
1097	大葉 千洸	戦争のない平和な日本へ	新宿小学校	6	参加賞
1098	工藤 雫	戦争をとめる・ふせぐ	新宿小学校	6	参加賞
1099	小林 洸太	すごしやすい日本	新宿小学校	6	参加賞
1100	神原 直希	すごしやすい日本	新宿小学校	6	参加賞

作文の部 小学生応募者一覧

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
1101	島田 彩乃	いつまでも平和に	新宿小学校	6	参加賞
1102	鈴木 愛莉	平和な日本へ	新宿小学校	6	参加賞
1103	高橋 大我	戦争をなくす	新宿小学校	6	参加賞
1104	長嶋 杏	私たちの幸せ	新宿小学校	6	参加賞
1105	野村 響	戦争をなくすために	新宿小学校	6	参加賞
1106	原 有咲	戦争と平和	新宿小学校	6	参加賞
1107	日置 萌花	大切な募金	新宿小学校	6	参加賞
1108	平本 蓮	争いのない国へ	新宿小学校	6	参加賞
1109	舟橋 真斗	ぼくが思う戦争	新宿小学校	6	参加賞
1110	古間 翔志	平和になるために	新宿小学校	6	参加賞
1111	星野 叶夢	せんそうはなんでおこるの	新宿小学校	6	参加賞
1112	松浦 宏樹	戦争はなぜおこるのか	新宿小学校	6	参加賞
1113	松崎 蒼雅	平和の大切さ作文	新宿小学校	6	参加賞
1114	密 絢寧	平和な日本へ	新宿小学校	6	参加賞
1115	三本 桜綺	失ってはいけないもの「平和」	新宿小学校	6	参加賞
1116	山崎 千咲子	平和への道のり	新宿小学校	6	参加賞
1117	石川 翔大	「平和について」	桜山小学校	3	参加賞
1118	伊藤 実結	平和について	桜山小学校	3	参加賞
1119	長内 綸桜	青い目の人形	桜山小学校	3	参加賞
1120	柿沼 さくら	平和になるために	桜山小学校	3	参加賞
1121	梶田 将吾	平和が気づかせてくれたこと	桜山小学校	3	参加賞
1122	片岡 昊	平和について	桜山小学校	3	参加賞
1123	加藤 陸	ぼくが考える平和	桜山小学校	3	参加賞
1124	神谷 愛未	わたしたちのまわりのへいわ	桜山小学校	3	参加賞
1125	木村 美桜	「平和の時間」	桜山小学校	3	参加賞
1126	齋藤 樹	せんそうってこわいこと	桜山小学校	3	参加賞
1127	酒見 陽登	平和とかなしみ	桜山小学校	3	参加賞
1128	坂本 桜菜	せんそうとへいわについて	桜山小学校	3	参加賞
1129	嶋本 彩乃	タイトルなし	桜山小学校	3	参加賞
1130	関ロザリエル瑠仁	「平和について」	桜山小学校	3	参加賞
1131	高道 想太郎	平和を考えた	桜山小学校	3	参加賞
1132	長嶋 湊	平和について	桜山小学校	3	参加賞
1133	橋本 悠佑	平和の大切さ	桜山小学校	3	参加賞
1134	服部 一路	ぼくの平和	桜山小学校	3	参加賞
1135	福島 慧紋	平和ってなんだろう	桜山小学校	3	参加賞
1136	山田 朋徳	平和とは何か	桜山小学校	3	参加賞
1137	若松 千尋	ピースミュージアムへ行って	桜山小学校	3	参加賞
1138	浅野 虹心	平和について	桜山小学校	3	参加賞
1139	飯塚 玲央	平和	桜山小学校	3	参加賞
1140	五十嵐 実潤	戦時の暮らし方	桜山小学校	3	参加賞
1141	井上 来夢	平和について思ったこと	桜山小学校	3	参加賞
1142	大木 健介	いのち	桜山小学校	3	参加賞
1143	金子 京平	平和について	桜山小学校	3	参加賞
1144	川村 朋之	「平和について」	桜山小学校	3	参加賞
1145	河野 天香	平和について	桜山小学校	3	参加賞
1146	小島 伊吹	平和にするには	桜山小学校	3	参加賞
1147	小杉 倫太郎	ぼくが平和について考えたこと	桜山小学校	3	参加賞
1148	笹崎 一秀	「せんそうとは」	桜山小学校	3	参加賞
1149	鹿山 慶人	平和について	桜山小学校	3	参加賞
1150	柴田 咲優花	モノラルの世界で	桜山小学校	3	参加賞

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
1151	関口 愛理	平和の大切さ	桜山小学校	3	参加賞
1152	富田 康太郎	「平和をまもりたい」	桜山小学校	3	参加賞
1153	西山 稜子	世界のぜんぶがへいわになるために	桜山小学校	3	参加賞
1154	福島 脩紋	タイトルなし	桜山小学校	3	参加賞
1155	星野 姫菜	平和の大切さ	桜山小学校	3	参加賞
1156	宮澤 遼	平和とは何か	桜山小学校	3	参加賞
1157	山中 瑞貴	せんそうはいやだ	桜山小学校	3	参加賞
1158	石川 萌衣	わたしの平和	桜山小学校	4	参加賞
1159	石田 亜朱音	平和	桜山小学校	4	参加賞
1160	大谷 つばめ	広島のパカ	桜山小学校	4	参加賞
1161	木場 優莉	「だれもが願う平和」	桜山小学校	4	参加賞
1162	佐藤 秀一朗	「あの日のオルガン」を見て	桜山小学校	4	参加賞
1163	島村 朋佳	昔と今のちがいが	桜山小学校	4	参加賞
1164	鈴木 秀将	タイトルなし	桜山小学校	4	参加賞
1165	鈴木 実結	戦争時代の生活で考えたこと	桜山小学校	4	参加賞
1166	高島 里緒	平和	桜山小学校	4	参加賞
1167	二ノ宮 愛理	お兄ちゃん	桜山小学校	4	参加賞
1168	秦 仙雅	へいわについて	桜山小学校	4	参加賞
1169	半田 彪斗	日じょうと平和	桜山小学校	4	参加賞
1170	樋口 幹太	「スリーデーマーチ」	桜山小学校	4	参加賞
1171	平野 愛菜	世界の平和	桜山小学校	4	参加賞
1172	深澤 雅人	アンパンマンの思い	桜山小学校	4	参加賞
1173	藤田 睦空	平和について	桜山小学校	4	参加賞
1174	松井 夕奈	身近な平和	桜山小学校	4	参加賞
1175	宮下 芽依	大ばあちゃんの話	桜山小学校	4	優良賞
1176	本村 陽向	悲しい時代と平和な時代	桜山小学校	4	参加賞
1177	桃井 煌太郎	「小さなせんずいかにん」に恋をした大きなクジラ」を見て	桜山小学校	4	参加賞
1178	鷲巢 颯姫	「すてきな花きらいな花」	桜山小学校	4	参加賞
1179	内田 樹里	「花と平和」	桜山小学校	4	参加賞
1180	大河原 梨咲	「平和とウォーキングの繋がり」	桜山小学校	4	参加賞
1181	小倉 菜々心	「平和へ」	桜山小学校	4	参加賞
1182	川上 莉奈	「ジョバンニの島」	桜山小学校	4	参加賞
1183	川口 葵	「平和について」	桜山小学校	4	参加賞
1184	小林 風我	「つしま丸」というアニメを見て	桜山小学校	4	参加賞
1185	五味 大地	タイトルなし	桜山小学校	4	参加賞
1186	櫻沢 奏太	「ひいおじいさんと戦争」	桜山小学校	4	参加賞
1187	滋野 陽友	平和は大切	桜山小学校	4	参加賞
1188	高橋 昂雅	平和について	桜山小学校	4	参加賞
1189	高橋 直行	「言葉の平和」	桜山小学校	4	参加賞
1190	為貞 日南歩	平和について	桜山小学校	4	参加賞
1191	富田 歩夢	平和っていいな	桜山小学校	4	参加賞
1192	中島 梓	戦争について学ぶ	桜山小学校	4	参加賞
1193	長谷川 彩	わたしの町と平和	桜山小学校	4	参加賞
1194	長谷部 凜奈	「平和な暮らし」	桜山小学校	4	参加賞
1195	羽鳥 心菜	「平和な日本」	桜山小学校	4	参加賞
1196	福山 和奏	「平和とは」	桜山小学校	4	参加賞
1197	間中 吏玖	「せんそうはいやだ」	桜山小学校	4	参加賞
1198	山口 翔	「戦争ってなんだろう」	桜山小学校	4	参加賞
1199	荒木 志翔	戦争をなくすためには	桜山小学校	5	参加賞
1200	飯塚 海斗	平和について	桜山小学校	5	参加賞

作文の部 小学生応募者一覧

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
1201	宇津木 太郎	「ぼくたちがほこる町東松山」	桜山小学校	5	参加賞
1202	監物 佑哉	「はだしのゲンから考えた事」	桜山小学校	5	参加賞
1203	小松 実花	ランドセルがとどける幸せ	桜山小学校	5	参加賞
1204	齊藤 雅騎	平和になるために	桜山小学校	5	参加賞
1205	坂本 駿	あたりまえのこと	桜山小学校	5	参加賞
1206	佐々木 希花	日本は今平和？	桜山小学校	5	参加賞
1207	島田 結衣	戦争を考える	桜山小学校	5	参加賞
1208	鈴木 秀治	「戦争の時代から平和な時代へ」	桜山小学校	5	参加賞
1209	高柳 寿悠	平和ということ	桜山小学校	5	参加賞
1210	武田 ゆいな	へいわについて	桜山小学校	5	参加賞
1211	利根川 彩実	一人一人の平和	桜山小学校	5	参加賞
1212	中島 哲平	「今の豊かさ」	桜山小学校	5	参加賞
1213	中村 鈴	「わたしの考える平和」	桜山小学校	5	参加賞
1214	中村 蓮音	ぼくの気持ち	桜山小学校	5	参加賞
1215	伏原 愛来	東日本大震災について	桜山小学校	5	参加賞
1216	宮澤 悠	「平和」	桜山小学校	5	参加賞
1217	山田 歩愛華	平和について	桜山小学校	5	参加賞
1218	山本 葵	平和について	桜山小学校	5	参加賞
1219	吉田 凧晴	平和について	桜山小学校	5	参加賞
1220	吉野 琥珀	平和なんだろう。	桜山小学校	5	参加賞
1221	井上 蓮太	平和について思ったこと	桜山小学校	5	参加賞
1222	井部 紫月	私にとっての平和	桜山小学校	5	参加賞
1223	上原 凧沙	平和について	桜山小学校	5	参加賞
1224	岡部 巧	ぼくの理想	桜山小学校	5	参加賞
1225	小倉 一真	「平和へ」	桜山小学校	5	参加賞
1226	柿沼 空良	現在は平和で幸せか	桜山小学校	5	参加賞
1227	國井 蒼太	「原爆を知って」	桜山小学校	5	参加賞
1228	小島 柚莉	「平和と戦争」	桜山小学校	5	参加賞
1229	小林 花音	「平和」にするために	桜山小学校	5	参加賞
1230	齋藤 萌々穂	「心の平和について」	桜山小学校	5	参加賞
1231	坂本 留衣	戦争と平和	桜山小学校	5	参加賞
1232	笹尾 心	私達の平和	桜山小学校	5	参加賞
1233	笹川 こころ	戦争の無い平和	桜山小学校	5	参加賞
1234	佐々木 颯波	「平和について」	桜山小学校	5	参加賞
1235	笹崎 晴開	自分が思う平和	桜山小学校	5	参加賞
1236	穴戸 拓末	「戦争から、平和を考える」	桜山小学校	5	参加賞
1237	須澤 絢子	絵と平和	桜山小学校	5	参加賞
1238	清家 悠楽	平和	桜山小学校	5	参加賞
1239	関口 結姫乃	戦時下の願いより	桜山小学校	5	参加賞
1240	地野 比呂斗	タイトルなし	桜山小学校	5	参加賞
1241	中川 若奈	平和について	桜山小学校	5	参加賞
1242	中村 陽翠	ひいおじいちゃんと心の傷	桜山小学校	5	優良賞
1243	森谷 然	サッカーはフェアプレー	桜山小学校	5	参加賞
1244	厚木 文花	平和に生きるための選たくを！	桜山小学校	6	参加賞
1245	阿部 小夏	ウォーキングのと中に花を見つけて	桜山小学校	6	参加賞
1246	五十嵐 迅	原子爆弾の投下	桜山小学校	6	参加賞
1247	及川 琉斗	ぼくの思う平和	桜山小学校	6	参加賞
1248	神谷 陽翔	今と昔の平和のちがいがい	桜山小学校	6	参加賞
1249	久保田 奈緒	「マジヤミン」を読んで思ったこと	桜山小学校	6	参加賞
1250	柴田 結衣	ひばく者からの手紙を見て	桜山小学校	6	参加賞

No.	氏名	テーマ	小学校名	学年	審査結果
1251	清水 莉絢	今出来る平和	桜山小学校	6	参加賞
1252	瀬戸 翔太	戦争はこわくて悲しい	桜山小学校	6	参加賞
1253	田頭 一馬	戦争と平和は対義語なのか、その二	桜山小学校	6	参加賞
1254	利根川 ののか	一番の平和って何？	桜山小学校	6	参加賞
1255	富田 大夢	戦争は人を人ではなくす	桜山小学校	6	参加賞
1256	二ノ宮 晴輝	家族	桜山小学校	6	参加賞
1257	野中 茶助	平和になるためには	桜山小学校	6	参加賞
1258	廣瀬 絢女	平和	桜山小学校	6	参加賞
1259	森 悠泰	「命は、だれにとっても宝物」	桜山小学校	6	参加賞
1260	森田 花凜	「平和」と「戦争」	桜山小学校	6	参加賞
1261	矢嵐 太陽	平和について思うこと	桜山小学校	6	参加賞
1262	柳田 妃夏	戦争のない国へ	桜山小学校	6	参加賞
1263	山中 千煌	戦争中に起きたウソ	桜山小学校	6	参加賞
1264	横田 桜幸	だれもがのぞむ世界へ	桜山小学校	6	参加賞
1265	吉岡 華	「自分が思う平和」	桜山小学校	6	参加賞
1266	渡邊 麗羽	平和について	桜山小学校	6	参加賞
1267	相原 輝	争いのない世界	桜山小学校	6	参加賞
1268	石田 紗亜良	平和について	桜山小学校	6	参加賞
1269	小林 佑夏	色んな平和	桜山小学校	6	参加賞
1270	小峯 海和	ゴミすて場のような道	桜山小学校	6	参加賞
1271	坂井 愛梨	平和とは	桜山小学校	6	参加賞
1272	酒見 陽菜	心の平和	桜山小学校	6	参加賞
1273	清水 莉空	戦争のないくらし	桜山小学校	6	参加賞
1274	鈴木 舞桜	自由	桜山小学校	6	参加賞
1275	田中 紘登	世界平和	桜山小学校	6	参加賞
1276	鶴嶋 悠月	平和な世界へ	桜山小学校	6	参加賞
1277	土肥 良平	平和な世界	桜山小学校	6	参加賞
1278	永井 柊	ぼくの平和	桜山小学校	6	参加賞
1279	長岡 秀	平和にするには	桜山小学校	6	参加賞
1280	中田 匠	平和について	桜山小学校	6	参加賞
1281	中山 滉絆	君死にたもうことなかれ	桜山小学校	6	参加賞
1282	西田 あこ	戦争のない世界	桜山小学校	6	参加賞
1283	平野 世菜	世界の平和	桜山小学校	6	参加賞
1284	古屋 有菜	平和	桜山小学校	6	参加賞
1285	星野 舜	平和の意味	桜山小学校	6	参加賞
1286	森井 聖奈	笑顔と平和	桜山小学校	6	参加賞
1287	吉田 瑞萌	「この世界の片隅に」を見て	桜山小学校	6	参加賞
1288	若林 夏音	平和について	桜山小学校	6	参加賞
1289	鷲巣 貴一	ぼくの平和	桜山小学校	6	参加賞

作文の部 中学生応募者一覧

No.	氏名	テーマ	中学校名	学年	審査結果
1	石川 颯太	平和について	松山中学校	1	参加賞
2	石塚 真士	埼玉ピースミュージアムで感じたこと	松山中学校	1	参加賞
3	伊藤 里陸	平和について	松山中学校	1	参加賞
4	岩上 友珂	戦争について考えてみて	松山中学校	1	参加賞
5	遠藤 大翔	暮らしをともに良くていく植物	松山中学校	1	参加賞
6	岡部 詩子	戦争といじめ	松山中学校	1	参加賞
7	小川 真央	平和を守るために	松山中学校	1	参加賞
8	小澤 杏紗	平和	松山中学校	1	参加賞
9	金内 嘉子	丸木さんの伝えたいこと	松山中学校	1	参加賞
10	川田 悠貴	戦争と原爆	松山中学校	1	参加賞
11	河又 杏	平和	松山中学校	1	参加賞
12	菊池 謙信	平和のこと	松山中学校	1	参加賞
13	小島 愛莉	戦争について	松山中学校	1	参加賞
14	小林 葵々	紛争と難民	松山中学校	1	参加賞
15	小宮 優奈	戦争を身近にするには	松山中学校	1	参加賞
16	佐藤 文哉	核兵器のない平和な世界へ	松山中学校	1	参加賞
17	鈴木 光希	戦争について	松山中学校	1	参加賞
18	高 遼太郎	平和と心	松山中学校	1	参加賞
19	互井 捺希	たくさんの平和	松山中学校	1	参加賞
20	高橋 歩果	戦争とは	松山中学校	1	参加賞
21	田中 海音	被爆ピアノ	松山中学校	1	最優秀賞
22	辻松 歩佳	平和って？	松山中学校	1	参加賞
23	長島 和樹	戦争から学んでイジメを無くそう	松山中学校	1	参加賞
24	庭田 咲月	平和について	松山中学校	1	参加賞
25	蓮見 優花	平和について	松山中学校	1	参加賞
26	長谷部 步芽	戦争時の喜び	松山中学校	1	参加賞
27	波多 奏音	いじめを無くすためにできる事	松山中学校	1	参加賞
28	濱村 海璃	広島笑顔の傘	松山中学校	1	参加賞
29	屋間 悠佑	平和とは	松山中学校	1	参加賞
30	牧 慶仁	原爆という核兵器	松山中学校	1	参加賞
31	水本 愛香	これからの未来	松山中学校	1	参加賞
32	山岸 芽依	昔と現代	松山中学校	1	参加賞
33	山崎 泰志	戦争経験をした人の話を聞いて	松山中学校	1	参加賞
34	湯川 昂史	僕にとっての平和	松山中学校	1	参加賞
35	吉崎 葉音	平和とは何か	松山中学校	1	参加賞
36	新井 健斗	原爆の絵	松山中学校	1	参加賞
37	石塚 祐太	戦争と平和	松山中学校	1	参加賞
38	伊藤 桐人	「平和」ってなんだろう	松山中学校	1	参加賞
39	伊藤 成那	もしも魔法が使えたら	松山中学校	1	参加賞
40	小倉 璃翔	当たり前は当たり前じゃない	松山中学校	1	参加賞
41	小澤 優宇	平和	松山中学校	1	参加賞
42	小高 漣	平和を願って	松山中学校	1	参加賞
43	小松 ニコラス	平和への努力	松山中学校	1	参加賞
44	小山 寧々香	歩くことに関する悲しい話	松山中学校	1	最優秀賞
45	榊 雛愛	北朝鮮の核兵器	松山中学校	1	参加賞
46	佐藤 愛	みんなの心が平和になっていくために	松山中学校	1	参加賞
47	柴崎 奏音	戦争について	松山中学校	1	参加賞
48	鈴木 心	詩から戦争を学ぶ	松山中学校	1	参加賞
49	須藤 和真	花とウォーキング	松山中学校	1	参加賞
50	高橋 美紗	戦争と私の考え	松山中学校	1	参加賞

No.	氏名	テーマ	中学校名	学年	審査結果
51	田崎 陽光	平和	松山中学校	1	参加賞
52	田中 知波	平和な空	松山中学校	1	参加賞
53	田中 菜桜	平和とは何か	松山中学校	1	参加賞
54	丹野 麻衣	平和について	松山中学校	1	参加賞
55	堤 寧音	平和について	松山中学校	1	参加賞
56	富丘 羽奏	平和の種を心の中に	松山中学校	1	参加賞
57	中島 柊人	体験したことのない戦争	松山中学校	1	参加賞
58	中西 悠人	暮らしの平和と花	松山中学校	1	参加賞
59	野川 昊成	平和について	松山中学校	1	参加賞
60	橋本 七海	平和への第一歩	松山中学校	1	参加賞
61	星野 吏津	世界の平和を続けるため	松山中学校	1	参加賞
62	牧瀬 嬉紀	平和作文	松山中学校	1	参加賞
63	マルティン 明鈴	命と平和	松山中学校	1	参加賞
64	水野 葵	対馬丸について調べて	松山中学校	1	参加賞
65	水本 遥菜	私のふるさと	松山中学校	1	参加賞
66	村田 琥珀	ひいおばあちゃんの空襲	松山中学校	1	参加賞
67	山崎 一之輔	平和とは何か	松山中学校	1	参加賞
68	山中 亮	平和について	松山中学校	1	参加賞
69	山根 遼大	戦争の悲しさ	松山中学校	1	参加賞
70	吉田 華	平和について考えたこと	松山中学校	1	参加賞
71	浅見 紫音	戦争と平和	松山中学校	1	参加賞
72	新井 蒼葉	平和について	松山中学校	1	参加賞
73	新居 巧己	未来と平和	松山中学校	1	参加賞
74	伊藤 ゆら	戦争	松山中学校	1	参加賞
75	伊藤 律希	平和の尊さ・戦争の悲惨さ	松山中学校	1	参加賞
76	今村 心音	本当の、真の平和とは	松山中学校	1	参加賞
77	上田 倫太郎	戦争のことについて	松山中学校	1	参加賞
78	江野 寛汰	ずっと平和な世界へ	松山中学校	1	参加賞
79	大谷 柊人	今生きている	松山中学校	1	参加賞
80	岡田 紗奈	平和について	松山中学校	1	参加賞
81	越智 皓星	身近な平和	松山中学校	1	参加賞
82	小野 柚月	世界の戦争・内戦について	松山中学校	1	参加賞
83	小野瀬 咲菜	平和を願う人々	松山中学校	1	参加賞
84	笠原 海亜	戦争について	松山中学校	1	参加賞
85	金内 菜々美	忘れない戦争	松山中学校	1	参加賞
86	久保田 陽介	僕の思う平和	松山中学校	1	参加賞
87	黒澤 朋花	平和とは	松山中学校	1	参加賞
88	黒澤 紀香	平和って何だろう	松山中学校	1	参加賞
89	小泉 心愛	世界の平和と平和な世界	松山中学校	1	参加賞
90	小松 駿太	世の中の平和とは	松山中学校	1	参加賞
91	菅谷 香里奈	戦争しない世の中へ	松山中学校	1	参加賞
92	瀬尾 悠斗	平和	松山中学校	1	参加賞
93	関根 仁	平和について	松山中学校	1	参加賞
94	竹内 翔	原爆のことについて	松山中学校	1	参加賞
95	出口 叶都	世界の平和	松山中学校	1	参加賞
96	中澤 陸	戦争について	松山中学校	1	参加賞
97	長谷川 陽那	戦争について	松山中学校	1	参加賞
98	羽鳥 世菜	「平和」は幸せを呼ぶ	松山中学校	1	参加賞
99	花澤 真緒	戦争がなくなった平和	松山中学校	1	参加賞
100	林 美緒	平和	松山中学校	1	参加賞

作文の部 中学生応募者一覧

No.	氏名	テーマ	中学校名	学年	審査結果
101	平栗 真志	戦争から学ぶ平和	松山中学校	1	参加賞
102	船戸 若菜	平和になるには	松山中学校	1	参加賞
103	堀口 真実	平和について	松山中学校	1	参加賞
104	丸山 結菜	戦争と平和	松山中学校	1	参加賞
105	茂木 佑正	平和とは何か	松山中学校	1	参加賞
106	谷内 ほのか	平和と戦争のちがい	松山中学校	1	参加賞
107	山崎 稜太	戦争と平和について	松山中学校	1	参加賞
108	赤澤 賢軌	東松山市と平和	松山中学校	1	参加賞
109	秋山 リンダ	教科書では学べないこと	松山中学校	1	参加賞
110	阿部 七望	平和について	松山中学校	1	参加賞
111	五十嵐 瞳	花と平和	松山中学校	1	参加賞
112	市川 乃々栞	過去の過ちをどう残していくか	松山中学校	1	参加賞
113	恵美 愛里	本当の平和	松山中学校	1	参加賞
114	遠藤 岳	戦争について	松山中学校	1	参加賞
115	大木 宝	「平和」の大切さ	松山中学校	1	参加賞
116	大野 温文	「平和」と「戦争」	松山中学校	1	参加賞
117	加賀和 百花	平和の道は身近から	松山中学校	1	参加賞
118	加藤 颯琉	伝えられてきた事	松山中学校	1	参加賞
119	岸野 凌大	笑顔と平和について	松山中学校	1	参加賞
120	齋藤 孝希	災害の恐怖	松山中学校	1	参加賞
121	齊藤 柚依	平和とは？	松山中学校	1	参加賞
122	坂本 愛澄	心の平和と戦争	松山中学校	1	参加賞
123	佐藤 摩耶	平和とは何か	松山中学校	1	参加賞
124	篠澤 真那	平和を求めて	松山中学校	1	参加賞
125	鈴木 翔太	未来と平和	松山中学校	1	参加賞
126	鈴木 成葉	平和の輪	松山中学校	1	参加賞
127	須長 桃華	一言のあいだに	松山中学校	1	参加賞
128	関根 永大	一人一人が平和への第一歩	松山中学校	1	参加賞
129	高野 颯太	平和な世の中へ	松山中学校	1	参加賞
130	中島 鷹斗	今の幸せ	松山中学校	1	参加賞
131	野口 日桜里	戦争について	松山中学校	1	参加賞

No.	氏名	テーマ	中学校名	学年	審査結果
132	野坂 涼太	“WAR AND PEACE”戦争と平和	松山中学校	1	参加賞
133	林 寛人	平和と命	松山中学校	1	参加賞
134	伴 政樹	平和は助け合いから	松山中学校	1	参加賞
135	平塚 柳之佑	人間爆弾、桜花	松山中学校	1	参加賞
136	福村 匠海	二度としてはいけない戦争	松山中学校	1	参加賞
137	宮本 彩季	広島市への原子爆弾投下	松山中学校	1	参加賞
138	八木 愛果	「平和」について考えて	松山中学校	1	参加賞
139	横須賀 葵成	他国の子に聞いた平和	松山中学校	1	参加賞
140	横田 姫彩	平和な未来	松山中学校	1	参加賞
141	田島 詩絵里	「平和」とは何か？	松山中学校	2	参加賞
142	松本 滯那	新しい時代を迎えて	松山中学校	2	参加賞
143	隅谷 詩月	日韓問題	松山中学校	3	参加賞
144	田中 七海	I STILL LOVE THEM	松山中学校	3	参加賞
145	甲斐 洋美	平和な未来	東中学校	1	参加賞
146	吉住 樹里	私達の次の世代の未来の平和	東中学校	1	参加賞
147	砂永 紡輝	今の自分にできること	北中学校	1	優良賞
148	大内 恕栄	花と平和	北中学校	2	参加賞
149	松本 望未	自分でつくる平和	北中学校	3	参加賞
150	西川 千春	今の世界・日本は平和ですか？	北中学校	3	参加賞
151	押切 唯香	平和な世界	白山中学校	1	参加賞
152	ババサヴァ ソフィア	平和と戦争の記憶を受け継ぐために	白山中学校	1	参加賞
153	松口 芽生	「この地球の幸せは…」	白山中学校	1	優秀賞
154	椎谷 瑞希	平和とは何か	白山中学校	1	参加賞
155	嶋田 夕莉	私が思う平和	白山中学校	1	参加賞
156	島田 竜成	二つの平和	白山中学校	1	優良賞
157	馬渡 萌衣	戦争の悲惨さ	白山中学校	1	参加賞
158	小柳 咲月	平和への小さな一歩	白山中学校	2	参加賞
159	染井 那奈	争いの愚かさ	白山中学校	2	参加賞
160	守岡 駿和	今日という日に感謝して	白山中学校	2	優良賞
161	大野 真央	憎しみの壁を越えて	白山中学校	2	優秀賞
162	山口 蘭々	平和について	白山中学校	3	参加賞

作文の部 一般応募者一覧

No.	氏名	テーマ	審査結果
1	小室 精子	花と戦争	参加賞
2	松田 千鶴	組曲「IN TERRA PAX」 を聴いて平和への想いを馳せる	参加賞
3	水沼 安美	平和・生命・人権	優良賞

第22回花とウォーキングのまちの平和賞

絵画の部 入選作品

高校生

【最優秀賞】 幸せな一時 佐藤 百華（本庄第一高校 2年）



《寸評》りんごの質感と、それをほおばる少年の表情や手、バックの草木や畑の自然の風景、どれをとっても描く技量のすばらしさを感じます。りんごの赤色やかじった跡のクリーム色、服装の青と黒、緑灰色のグラデーションの草木という色使い、人物を前面に、後方へ誘う道という画面構成も非凡。作者の言うテーマ「豊かな自然の中でおいしい物を食べられる子どもは、幸せと平和の象徴」を見事に表現し切っています。

【優秀賞】

澄清

山崎 優子（川口北高校 2年）

《寸評》輝くバラ色の雲が、深い青味のある空に浮かぶ、色彩が大変心に響く美しい画面を創り出している作品です。

「いつまでも、空を心安らかな気持ちで眺められる平和な世界が続くように」という作者の祈りが伝わってきます。



【優秀賞】

妖狐と絵師

永澤 羽留香（南稜高校 2年）



《寸評》アニメ風の描き方は、現代の高校生には、当然の美術表現なのでしょう。描かれている物たちの形状や色彩が見事です。紫色の下地に絵巻物・月・炎などの曲線が効果的に配置された動きのある画面になっています。中央の狐の面をかぶった女性絵師は、祭りの夜に何を描こうとしているのでしょうか。「妖力を借りてもいいから、人々の心に響き、コミュニケーションの輪が広がるようなものを創り出して欲しい。」と作者は言っているように思えます。

【優秀賞】

日常

黒沢 ののか（本庄第一高校 1年）



《寸評》静かな街の一角。昭和時代を彷彿させるような雰囲気があります。そこに自転車が1台。主を待っているかのように、また、この自転車に乗っていた人は今何をしているのだろうかなどと考えたくなるような、どこにでもあるようなしかし、しっとりとした落ちついた画面です。色調を少し抑えた画面がとても効果的です。左手前のジャバラの出前用の道具が、一点透視図法だけの遠近感を中和させる役割をはたしているようです。

【優秀賞】

雲居の鬼

磯本 新（松山高校 2年）



《寸評》高層ビルと高速道路、その上に仁王像のような形の雲。今現在もおこっている自然災害を象徴的に描かれています。作者の思いがストレートに表現され、若者らしいすがすがしさを感じます。

【優良賞】

創る平和

江田 奈那子（朝霞高校 1年）

《寸評》画面中央に、バラの花を土ごと持っている高校生がおり、その周りは全てが平和と幸と明るさに満ちています。画面構成的には対象的ですが、その一つ一つの象徴的な事物は美しく、しっかり巧みに表現されており作者の絵画的な力量を感じます。
タイトルの「創る平和」が見事に表現されており、すばらしい作品となっています。



【優良賞】

complication

須田 桃果（大妻嵐山高校 1年）



《寸評》ドリップングによる非計画的な線と足のアウトラインだけの表現の合体の作品。作者の意図的な作風を感じます。中央より左部分の足の背景はモノトーンの空間になっており、静かな中の静かな足音を効果的に見る側に訴えているようです。

【優良賞】

縁の下

丹野 音（越生高校 2年）



《寸評》V字型の樹が不安定にならないのは、重厚な色使いと、作者のデッサン力による樹皮の表現によるものでしょうか。一般的には見過ごされてしまう視線から下の世界を実に巧みに表現されています。平和とは何でもない視野の下の方の部分から上へのびていくのだという、作者の意図を感じます。

【優良賞】

湿気

柳川 郁美（越生高校 2年）



《寸評》薄曇りの空、水面にはかすかな光が反射し、うっそうと茂る森があります。自然の中から発する湿気を帯びた空気が画面の中から見る側の肌にまで伝わってきます。
水面の光と影もとても美しく表現されていて、全体を通して静かな印象でタイトルとともにマッチしていて引き込まれました。

【優良賞】

猫

三吉 莉央（市立川越高校 2年）



《寸評》2匹の猫が顔を寄せ合って、1匹はまっすぐこちらを見つめ、もう1匹は少しいつむいてこちらを見えています。寄せ合った頬がふんわりとした猫の柔らかさを上手に表現しています。明るい光が射し込む場所で、昼寝でもしようとしているのでしょうか。猫が心を許す、穏やかな時間が流れている日常を感じます。こちらを見つめる猫の視線が印象的な作品です。

【優良賞】

静かな海

月岡 夕莉（市立川越高校 3年）



《寸評》画面中央で静かに顔を出す白い鯨。作者が争いがなく自由であることの象徴とした鯨が、宇宙に向かって平和を叫んでいるように見え、美しく咲く白い花々も、力強い生命力を表しています。遠くの空にかすかな一筋の光。希望ある未来を感じます。

【優良賞】

アクアリウムの願い

佐藤 澄海（聖望学園高校 2年）

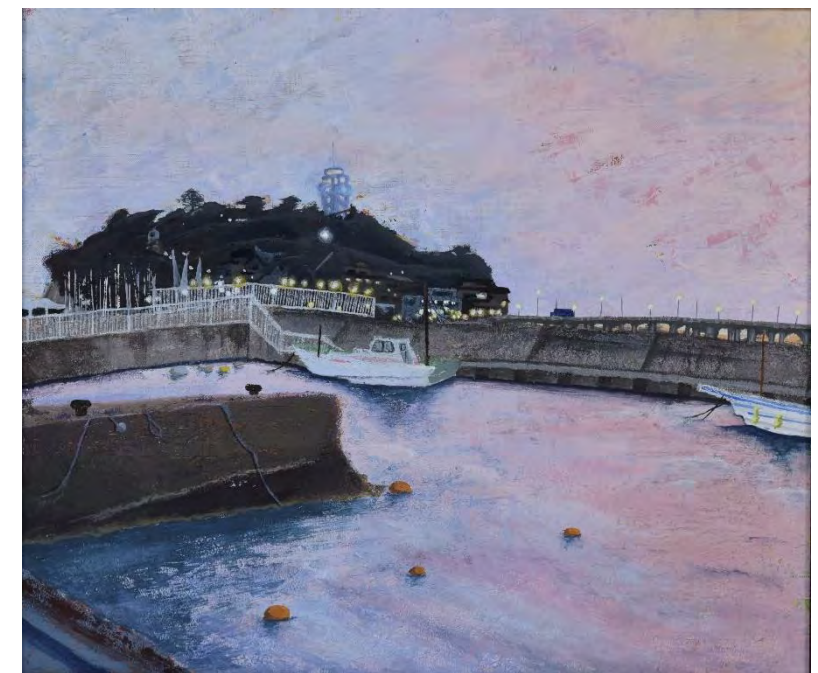


《寸評》愛情たっぷりに描かれたベタやグッピー、タナゴや金魚、多種多様な魚たちが共存しています。中央に平和を象徴するかのようなひまわり、印象的な魚の目の表現。水の流れを感じさせる下方の水草も美しい。画面の周りの額縁のような、アールデコ風なペン画も美しい。こよなく愛するアクアリウムの世界、ステキな表現力のある作品です。

【優良賞】

遠望

堀越 茉菜（所沢北高校 2年）



《寸評》夕焼けの中の江ノ島の風景、堤防と江ノ島を中央に画面を2分割、赤紫に染まる空と海が遠い過去を思い起こさせます。光が灯った外灯が絵の魅力を増してくれました。油絵の具のつきも良く、いつまでも鑑賞したくなる傑作です。

【優良賞】 陽のあたる場所 早坂 晴佳（松山女子高校 3年）



《寸評》画面中央付近の道と木立、左手前の壁面や右側の校舎が透視図法的に配置された構図で、鑑賞者の視線を奥へ奥へと誘う構成が効果的です。光を受けた若葉の木々やそれらの落とす影もうまく表現された心安らぐ画面、まさに平和な風景に思えます。

一般

【最優秀賞】 糸 岡部 仁美（一般）



《寸評》ネット社会を象徴するかのようなクモの巣が画面手前に描いてあり、暗闇の中に肺胞のようなものが垂れ下がる。目をこらすとその中に細い糸のようなものにぶらさがる人の塊が見えてくる。登る人、落ちる人。グレー系の画面の中に赤や青や黄といった色彩が心臓の鼓動のように見えかくれする。現代人の心の不安を見事に表現した傑作です。

【優秀賞】

インドクジャク

長谷部 航輝（一般）



《寸評》羽を大きく広げこちらを向いているクジャク。横を向いたクジャクとの対比から、羽のスケール感がわかりやすく伝わってきます。画面全体の緑のグラデーション、その中の青がとても映えて目を引く。一本一本の羽を丁寧に描くことで、羽の存在感が増し、クジャクの美しさ、堂々とした風格を感じられる見事な作品です。

【優良賞】

初夏の中庭

野口 信夫（一般）



《寸評》ごく一般的な夏の高校の中庭。ひとりの生徒がキャンバスに向かって、絵を描いています。平凡な平和な風景であるが、そこに視点を当てた作者の意図を感じます。一点透視の画面の遠近と色、空気による遠近法を巧みに使い画面構成を深みのあるものにしています。木々の緑と生徒の姿にさわやかさを感じる、すばらしい作品です。

【優良賞】

踊って

増田 亨（一般）



《寸評》長方形の小木片を、横6枚×3段に組んで構成されたユニークな作品。それぞれに2人か9人の動きを、板目を活かして彩色していて、一枚一枚を眺めると、あるシーンの思い出が浮かんでくるようにも思えます。作者の言うように、平和な世でないと喜びの踊りはありえないでしょう。

入賞、誠にありがとうございます。応募総数は102点、一般の部が前回より11点増え14点、高校の部が前回より6点減り88点となりましたが、審査会場には今年も心のこもった素晴らしい作品がたくさん並んでいました。風景画、静物画、抽象画、心象風景画などがあり、日本画、油彩画、水彩画、ペン画、コラージュなどの創意工夫され多彩な技法で描かれた、多様な世界を観させていただきました。

《一般の部》では、**岡部仁美さんの「糸」**は現代のネット社会を蜘蛛の巣に見立て、翻弄され囚われている人達の心を蜘蛛の糸のようなものにぶら下がる人間で表現されています。「幸せは心の平和の中にある。」とコメントされているように現代人の心の不安を見事に表現した傑作です。次は歓喜や賛美の絵を観たいものです。**野口信夫さんの「初夏の中庭」**はごく一般的な夏の高校の中庭。ひとりの生徒がキャンパスに向かい絵を描いています。一点透視の遠近と色、空気による遠近法を巧みに使い画面構成を深みのあるものにしています。木々の緑と生徒の姿にさわやかさを感じるすばらしい作品でした。**長谷部航輝さんの「インドクジャク」**は羽を大きく広げてこちらを向いているクジャク。横を向いたクジャクとの対比から、羽のスケール感がわかりやすく伝わります。画面全体の緑のグラデーション、その中の青がとてもとても映えて目を引く。一本一本の羽を丁寧に描くことで、羽の存在感が増し、クジャクの美しさ、堂々とした風格を感じられます。見事な作品でした。**増田亨さんの「踊って」**は長方形の小木片を横6枚×3段に組んで構成されたユニークな作品。それぞれに二人から数人の動きを、板目を活かして彩色しています。作者の言うように、平和な世ではないと喜びの踊りはありえないでしょうね。

《高校の部》では11校の参加がありました。出品数が多かった順に発表させていただきますが、同数の場合は名簿順にいたします。

【**越生高等学校**】は湖と森を中心にした風景画が並びました。**丹野音さんの「縁の下」**は、「太く力強いびのびとした幹に、平和にすごしている日本をかさねました。」とされているように、重厚な色使いと、デッサン力により表現されていました。**柳川郁美さんの「湿気」**は湖に浮かぶ重量感のある森と、森にかかる低い雲、その雲にほぼ隠れてしまった後方の森、丁寧に描かれた湖面、湿気が観ている側まで伝わってくるとともに作者の感性の豊かさにも感動しました。

【**川口北高等学校**】は思いのこもった風景画が並びました。**山崎優子さんの「澄清」**は輝くバラ色の雲、深く青味のある空、色彩が心に響くとても美しい作品でした。「いつまでも変わらずにある空と、恒久的な平和・・・」といわれるように作者の祈りが伝わってきます。

【**川越市立川越高等学校**】は植物や動物、心に残る思いなどが登場する、平和への想いの心象画が並びました。**三吉莉央さんの「猫」**は『『可愛い』『愛しい』『養いたい』』と思われることを目指した。」とされているように、ほんとうに愛らしく描かれています。2匹の猫の寄せ合う頬の柔らかさや、こちらを見つめる視線の表現がすばらしい作品でした。**月岡夕莉さんの「静かな海」**は夜明けをむかえた幻想的な空と白い花が浮かぶ広い海に白鯨が空に向かって吠える。争いがなく自由あることの象徴とした鯨が、宇宙に向かって平和を叫ん

でいるようで見事な作品でした。

【**本庄第一高等学校**】は普段見慣れた身近な場所の風景画と平和への想いを描いた心象画が並びました。**佐藤百華さんの「幸せな一時」**はりんごの質感と、それをほおぼる少年の表情や手、バックの草木や畑の自然の風景、どれをとっても描く技量のすばらしさを感じます。作者の言うテーマ「豊かな自然の中でおいしいものを食べられる子供は、幸せと平和の象徴」を見事に表現した傑作でした。**黒沢ののかさんの「日常」**は昭和時代を彷彿させるような静かな街角。色調を少し抑えた画面がしっとりとした雰囲気を表しています。左手前のジャバラの出前道具が一点透視図法だけの遠近感を中和させています。力のある作品でした。

【**大妻嵐山高等学校**】は多彩な技法を駆使した美しい心象風景画が並んでいました。**須田桃果さんの「complication」**は有彩色のドリッピングによる非計画的な線と無彩色の足のアウトラインだけの対比的表現の現代美術作品。「色彩とともに平和への足音が感じられる作品とした。」と作者のコメントのようすばらしい作品でした。

【**所沢北高等学校**】は江ノ島海岸の海と空を描いた力作が並びました。**堀越茉菜さんの「遠望」**は 夕焼けの江ノ島の風景。堤防と江ノ島を中央に空と海に二分割、赤紫に染まる空と海に遠い過去を思いおこさせます。光が灯った外灯が絵の魅力を増してくれました。油絵具のつきも良く、いつまでも鑑賞したくなる作品でした。

【**松山女子高等学校**】は校内を描いた風景画を中心に並びました。**早坂晴佳さんの「陽のあたる場所」**は中央付近の道と木立、左手前の壁面や右側の校舎が透視図法的に配置され観る者を奥へ奥へと誘います。光を受けた木々やそれらの落とす影もうまく表現され、心安らぐまさに平和な風景が描かれていました。

【**松山高等学校**】は作者の思いをストレートに表現した作品が並びました。**磯本新さんの「雲居の鬼」**は高層ビルと高速道路、その上空に仁王像のような形の積乱雲が描かれています。「人間が好きなように変えていった自然。いつか自然が人間に牙をむく・・・」と作者のコメントのように台風19号により都幾川が決壊。今年度の日本を象徴するような作品でした。

【**南稜高等学校**】は自分の想いを具現化した力作が並びました。 **永澤羽留香さんの「妖狐と絵師」**はアニメ風な描き方、現代の高校生には当然の美術表現なのでしょう。描かれている物たちの形状や色彩が見事な作品になっていました。

【**聖望学園高等学校**】は個性豊かな作品が並びました。**佐藤澄海さんの「アクアリウムの願い」**は愛情たっぷりに描かれた多種多様な魚たち、画面の周りの額縁のようなペン画も美しい。作者の願う平和はアクアリウムの世界。素敵な表現力のある作品でした。

【**朝霞高等学校**】は平和への思いを題材にした作品が並びました。**江田奈那子さんの「創る平和」**は中央にバラを土ごと持っている高校生、その周りはずべてが平和と幸と明るさに満ちていて、画力もあってタイトルの「創る平和」が見事に表現されていて、すばらしい作品になっていました。

以上で入賞作品の寸評とさせていただきます。今回も絵画の部でも平和についてのコメントを短くではありますが掲示していただきました。作者の平和への想いが伝わり、観る人

もより一層作品への理解が深まったことと思います。明日も平和であり続けること、表現すること、自由であることが続くことを願います。 終わりに第22回花とウォーキングのまちの平和賞に出品してくださいました皆様と審査員としてご尽力いただきました丸山幸男先生と関根吉昭先生、そしてご協力いただいた高島明子様にも心から感謝申し上げます。

森 勝彦

絵画の部高校生応募者一覧

No.	テーマ	氏名	学校名	学年	作品に込めた平和への思い	審査結果
1	猫と少女	小川 真央	朝霞高校	1	この作品は「花と平和」をイメージして描きました。花が咲いていて、幼い子どもが動物とふれあう姿は、平和だからこそ在ることができているのではないかと思ったのでこの絵を描きました。	参加賞
2	創る平和	江田 奈那子	朝霞高校	1	この絵の主人公は私たち高校生で、私たち1人ひとりが平和についてしっかりと考えて、私たちが平和を創り、守っていこう。という思いを込めて描きました。	優良賞
3	荘厳	加藤 寿々奈	大妻嵐山高校	1	美しい海を表現することにより平和を感じてもらいたかった	参加賞
4	complication	須田 桃果	大妻嵐山高校	1	色彩とともに平和への足音が感じられる作品とした	優良賞
5	月華	新谷 映美里	大妻嵐山高校	2	月に向かって飛ぶクジャクの後ろ姿の華やかさから、平和でないと見ることのできない美しさというものを感じました。また、比較的明るい色を使い画面が重くなりすぎないように気をつけました。	参加賞
6	泡沫	強瀬 愛莉	大妻嵐山高校	2	海のブルーから平和を感じてほしい。抽象表現によりいろいろなイメージを感じてほしい	参加賞
7	いつの日か	菅原 理穂	大妻嵐山高校	2	平和になった時代に幸せの色をのせて彩色できる幸せ。喜びを感じてほしかった。	参加賞
8	マントラ	内田 果恋	大妻嵐山高校	3	無限の時の流れ、平和への思い、大きく伝わるように画面に想いをこめた。	参加賞
9	もうひとつの地球	河合 愛奈	大妻嵐山高校	3	青く平和な地球がずっとずっと続きますように・・・死の星にならないように・・・。	参加賞
10	うまれる	舟山 紀子	大妻嵐山高校	3	いつの時代でも生命が誕生する場所は平和にあふれています。その感動を表現しました。	参加賞
11	夏の自然	浦田 凜	越生高校	1	この豊かな自然がいつまでも続けば良いなという思いを込めて作品を描き上げました。	参加賞
12	蒼い自然	小笠原 七海	越生高校	1	この森や湖の景色が、このまま壊れなければいいのにと思いました。	参加賞
13	自然の鏡	河田 茉里菜	越生高校	1	この絵を描いた場所がとても自然豊かでキレイでした。だからこれからの人生の中でこんな景色がたくさん見れたらいいなと思って描きました。	参加賞
14	初夏の榛名湖	佐藤 寧音香	越生高校	1	大自然の中で、榛名湖と森を中心に描きました。どんなに心や体が荒んだ人でも、この絵の中にある自然を見て、少しでも穏やかになれば良いなという思いで描きました。	参加賞
15	癒しの緑	田村 リサ	越生高校	1	緑は、「調和」と「安定」の色。沢山の人の心に美しい緑が広がってくれたら良いなという思いを込めました。	参加賞
16	どこかで見たいつかの風景	橋本 亜希	越生高校	1	争いなく平和な景色が保たれればいいなと思い込めました。川の水が澄んだように見せるのが大変でした。	参加賞
17	そよ吹く山	廣井 恵美莉	越生高校	1	釣りをする音、ボートをこぐ音、筆がキャンパスに触れる音、波の音、人間と自然が共存する音が聴こえる夏がこれから先も続いて欲しいと思いました。	参加賞
18	癒しの空間	森高 亜香	越生高校	1	自然豊かなこの景色がこれからも続けばいいなと思いました。庭いじりが好きな事もあり、楽しく描けました。	参加賞
19	生命の囁き	山中 海砂	越生高校	1	きれいな川や湖、たくさんの草木や虫たちの制限ない自由な自然の豊かさを感じながら描きました。	参加賞
20	涼しい夏の山	山中 星砂	越生高校	1	私は田舎で育ったので、自然が好きです。自然を見ると心が癒され、とても心地よくなります。風が強い夏の日の大自然で、一人でも多く癒されてほしいです。	参加賞
21	霧吸う緑	叶内 由芽	越生高校	2	霧は何も見えず、先も見えなくなるので緑が霧を吸って消しきってくれたら、そこに広がる風景や音や色が見えてくれるので、そんな風に見えるものを吸ってくれたらという思いを込めました。	参加賞
22	霧	金田 恭春	越生高校	2	霧というのは、何時にかかるものかわかりません。それを現在の世界情勢に例え、それが晴れるのを待つかのような町と山々の風景を描きました。水面は、少し重めの色で着彩しました。	参加賞
23	湖畔	工藤 賢利	越生高校	2	湖が自然の力の1つなので、自然の豊かさを尊重します。	参加賞

絵画の部高校生応募者一覧

No.	テーマ	氏名	学校名	学年	作品に込めた平和への思い	審査結果
24	霧の先	黒米 柚香	越生高校	2	霧がはれた時の空や風景がとても晴れていてきれいにすんでいてこれからもそんな風であるようにと思いました。	参加賞
25	縁の下	丹野 音	越生高校	2	私にとっての平和は縁の下で生活することだと思います。平和にすごしている未来の日本をこの太く力強いのびのびした幹にかかれました。	優良賞
26	揺らめく波紋	千野 花鈴	越生高校	2	森の豊かさそして、それを反射する湖を画面の内に閉じこめました。この自然がこれからも残りつづければ良いと思います。	参加賞
27	深緑	千葉 太介	越生高校	2	木々の深い色、湖面の輝き等の自然の美しさを後世の人々に伝えられるよう、美しい自然の色彩がいつまでも残り続けるよう思いをこめて描きました。	参加賞
28	霧が反射する	富樫 花菜	越生高校	2	静かに生きる。	参加賞
29	湿気	柳川 郁美	越生高校	2	雨が降った時の湿気を表しました。自然が、見せる景色の豊かさをこれから先も感じられたら良いなと思って描きました。	優良賞
30	湖	吉田 光志	越生高校	2	きりが晴れた瞬間を描きました。この絵画を描いていた時、明日は晴れるかなと思いながら絵描きました。初日に見たのとは全く違うキラキラした水面を見ることができました。どんなにくもって荒れているものでも晴れればとてもキレイなんだと思いました。	参加賞
31	はっぱのうえをあるきたい	央戸 小夏	川口北高校	1	小さな頃の願いや夢が叶ったらいいなと思い、身近なスイレンの葉に焦点をあて、水の色などもくふうして描いた。	参加賞
32	日曜日の朝	杉田 葵	川口北高校	1	平和がテーマなので、平和なイメージのあるカモと暖色の壁とトゲがあり危険なイメージのあるサボテンとの対比で、より平和が強調できるようにしました。タイトルのように、日曜日の朝のような平和な時の流れを意識しました。	参加賞
33	いもり池	新井 天音	川口北高校	2	美術部の合宿でいもり池に行きました。池のまわりには色々な植物が生い茂っていて、空も青くてとても平和な光景だと思いました。	参加賞
34	妙高山	大山 虎之介	川口北高校	2	新潟県の妙高山をいもり池から眺め、描きました。とても穏やかな時間が流れていて、何事もなく暮らせていることに感謝すべきだという思いを込めました。	参加賞
35	赤と緑	国馬 花	川口北高校	2	題名通り赤や緑など沢山の色や水蓮の葉や木などの自然と人工物が共存している姿を描いた作品です。人間同士が対立するのではなく、地球の未来のために美しい自然環境を守っていきましょうというメッセージを込めました。	参加賞
36	平穏	武部 萌	川口北高校	2	この作品は合宿中に描いた絵で、普段騒がしい都内での生活とは真逆で、自然あふれる澄んだ場所でした。耳をすませば、虫の鳴き声しか聞こえない空間がとても「平和」という文字がぴったりだなと思いました。こんな個んでいたこともずっと流れていきそうな空間がもっと広がればいいのになという気持ちを込め、「平穏」という題名を付け、描きました。	参加賞
37	夏空	常見 拓大	川口北高校	2	平和で自由な空を眺めることができる幸せを表現したいと思った。時代や場所によって様々な色をする空のように多様性があふれる世界になってほしい。	参加賞
38	行雲流水	豊山 凜	川口北高校	2	学校からの帰り道の橋からの風景です。良くあるようであまり見ないようなさりげない一瞬を表現しました。眺めていると心が落ちつくこの空が私にとって一番美しい空です。	参加賞
39	散歩道	野田 朋美	川口北高校	2	草木のみどりは平和の象徴の一つだと思います。人同士の争いから離れた土地であるからこそ見ることでできる風景。この景色がこの先永遠につづくことを願って描きました。	参加賞
40	澄清	山崎 優子	川口北高校	2	明るく鮮やかな空の美しさを表現しました。いつまでも変わらずにある空と、恒久的な平和への祈りを重ねて、描きました。	優秀賞
41	夜明け	山下 梨佳子	川口北高校	2	永遠に続くような光をもつ空を表現しました。美しい夜明けを全ての生き物が眺めることができる世が続いてほしいです。	参加賞
42	海辺の彼女	笹川 恭子	市立川越高校	1	何ごともなかった1日も終わり、あふれる夕日の中で好きな人と手をつなげるようなそんな平和な世界が続くことを願っています。	参加賞
43	過ぎた思い出	佐藤 見紅	市立川越高校	1	この作品はライブに行ったときの感動や楽しさを表したものです。その反面タイトルではあころの楽しさは今ではすっかり思い出になってしまって少しさみしいような気持ちでもあります。	参加賞
44	LIKE	河野 愛	市立川越高校	2	あまり暗い色は使わず、明るい色を使いました。我々の未来が明るくあるようにという思いと全ての人が幸せであるようにという願いから、黄色をふんだんに使いました。	参加賞
45	皆の愛され犬	中嶋 あまね	市立川越高校	2	愛犬の美しいオーラを中心にできていて、全てが許されてきれいになるように描きました。これからも、皆を魅了する愛犬であってほしいです。	参加賞
46	猫	三吉 莉央	市立川越高校	2	作品を見た方に「可愛い」「愛しい」「養いたい」と思われることを目指しました。穏やかな空間の中に生命力がかいま見えるような光を描きこみました。	優良賞

絵画の部高校生応募者一覧

No.	テーマ	氏名	学校名	学年	作品に込めた平和への思い	審査結果
47	チンチラとグラス	山崎 樹弥	市立川越高校	2	人間によって乱獲される動物達が少しでも減って動物達も平和に暮らせるような世界になってほしいです。	参加賞
48	桜の散歩道	飯田 莉菜	市立川越高校	3	友達と一緒に散歩に行くときによく通る道です。特に春は桜の咲きぐあいでも季節の流れを感じることができます。	参加賞
49	赤と黄色	川久保 璃菜	市立川越高校	3	中心に描いたのはサンダーソニアという花です。花言葉は「祝福、祈り」です。中心にいる女の子が描いたサンダーソニアで、「少女は平和を祈っている」という意味を込めました。	参加賞
50	ひかり	久保 千鶴	市立川越高校	3	世界各国の関係が不安定で不透明なこれからの未来を、暗い海(水)に沈んでいく様子で描きました。所々に散りばめた、ほのかに光を放つものは平和の象徴であるピースマークや、「平和」を花言葉にもつ黄のバラです。先が見えなくとも、「平和」で未来を照らしていけたら、という気持ちを込めました。	参加賞
51	真実	高野 華音	市立川越高校	3	この先の未来がきれいな花がたくさん育つくらい、戦争や環境汚染のない平和な世界になってほしいと思いました。右側の木は、オリーブの木で、平和の象徴を見つめる様子から、平和に向かっていこうという意志を表しました。	参加賞
52	静かな海	月岡 夕莉	市立川越高校	3	水面から顔を出す白鯨は、争いがなく自由であることの象徴です。地球上のすべての生物が自由に生きることのできる世界になることを願っています。	優良賞
53	ふたつの生命	山田 菜月	聖望学園高校	1	子供にとって一番の平和は、家庭内の平穏を願うことだと思います。日常をそのまま切り取ったような絵に仕上がりました。	参加賞
54	アクアリウムの願い	佐藤 澄海	聖望学園高校	2	魚のような多種多様の共存、水のような静かでおだやかな空気、花のような美しく強く輝かしい光、私の願う平和はまさにアクアリウムの世界です。	優良賞
55	明日の希望	李 静	聖望学園高校	2	この絵を見た人が明るく、元気が出るようにという思いを込めて仕上げました。	参加賞
56	潮風	大野 未来	所沢北高校	1	これは江ノ島の海の近くで友人と並んで描いた絵です。この時のように、のんびり絵が描けるような平和な時がずっと続けばいいと思って描きました。	参加賞
57	江ノ島の海岸	鈴木 彩花	所沢北高校	1	江ノ島の海のように穏やかで人の笑顔が絶えない場所がこれからも変わりませんようにと思いました。	参加賞
58	青い	鈴木 舞音	所沢北高校	1	これは江ノ島で描いた海の絵です。先に大きく広がるこの海のように、広い心を大切にして人に接してほしいなという思いを込めました。	参加賞
59	8月1日	太田 圭瞳	所沢北高校	2	8月1日の江ノ島は晴天で風いだ海も何の変哲もない夏だなと思える穏やかな日に平和を感じたのでこの景色を絵として残したいと思いました。	参加賞
60	波にうつる	寺島 実咲	所沢北高校	2	波はゆったりとゆれていて。波にうつった舟もゆったりとゆれ、その情景はおだやかで、平和を象徴しているかのようだった。この波のような平和が永遠に続くことを願う。	参加賞
61	遠望	堀越 茉菜	所沢北高校	2	この絵は江ノ島を描いた作品だ。戦時中の洞窟陣地があるというこの島も、今や人々で賑わっている。風いだ海の向こうで。	優良賞
62	夕暮れ	水本 眞結	所沢北高校	2	この絵は江ノ島の海です。この海のように江ノ島のおだやかな日々がずっと続けば良いなという思いを込めて描きました。	参加賞
63	江ノ島の海	吉野 広恵	所沢北高校	2	江ノ島の美しい海がこれからも見られるような、平和な世界がこれからも続いていこうようにと願って描きました。	参加賞
64	パラレルワールド	清水 彩未	南稜高校	2	この作品は人間と蜘蛛が一体化することで、虫も人と同じ生き物で尊い命であり争いなく共存できるという思いを込めました。	参加賞
65	流れ	高塚 みえか	南稜高校	2	この絵は様々な流れを表していて、その中でも「風の流れ」に逆らい新しい未来へ進んでいる少女に注目して見てほしいです。	参加賞
66	不穏	武田 迪流	南稜高校	2	この絵は女の子のように人は本当の姿を隠して生きているけれど、本音でつきあえることができれば楽しいだろうなという思いを込めて描きました。	参加賞
67	妖狐と絵師	永澤 羽留香	南稜高校	2	この絵に描いた狐にとりつかれて力をもらった絵師のように、心を開くということは大切だという思いを込めました。	優秀賞
68	さんぽ	安藤 瑛理	本庄第一高校	1	散歩をしていたときに偶然見つけた素敵な風景を描きました。日々の中にある小さな幸せを大切にしていくことが平和に繋がると思います。	参加賞
69	廃れたバス停	石川 萌絵	本庄第一高校	1	廃れた建物を大切にしている感じが平和だと思い描いていました。	参加賞

絵画の部高校生応募者一覧

No.	テーマ	氏名	学校名	学年	作品に込めた平和への思い	審査結果
70	日常	黒沢 ののか	本庄第一高校	1	ありふれたようで、かけがえのない日常風景を描きました。この絵に描かれているのは、その極一部ですが、その一部を大切にしていきたいと思います。	優秀賞
71	海軍屋	櫻澤 杏	本庄第一高校	1	私はこの家に住んでいたおばさんにおばさんが見た戦争の恐ろしいところやその様子などをたくさん教えてもらいました。私はそんな戦争のことを人に広めていきたいと思います。	参加賞
72	青い樹木	松田 千佳	本庄第一高校	1	絵では一部ですが緑あふれたこの木々や森をずっと保っていけることを願います。	参加賞
73	幸せな一時	佐藤 百華	本庄第一高校	2	私たちは自分たちの置かれた状況がどれほど恵まれているか忘れてしまっている。おいしい食べ物を食べることができる平和な世界にただで十分すぎる幸せなのだから。絵のように豊かな自然の中おいしいそうに果実を食べる子どもは平和と幸せの象徴といえることだろう。	最優秀賞
74	愁事少女	中野 恵梨子	本庄第一高校	3	高校生の女の子たちの日常を描きました。楽しいお喋りや深い悩みを通して大人になっていくのだと思います。大きな世界の平和は小さな教室から始まってほしいと思っています。	参加賞
75	外柔内剛	中山 智尋	本庄第一高校	3	身近なものを大切にすることを皆がもってお互いに尊重する平和な世界になればいいなと思いました。	参加賞
76	花降るまちの少女	藤原 菜南美	本庄第一高校	3	この作品に描かれている花には1つ1つ意味があり、例えば中央の少女が持っている傘のガーベラ、花言葉は希望です。どんなに苦しい状況におかれても希望を心にもち続けていれば、平和につながると思いを込めました。	参加賞
77	広大	長尾 心	松山高校	1	自分が抱える悩みや嫌な事、ストレスなどはこの果てしなく広がる空や草原の中にいると全てちっぽけに感じます。	参加賞
78	対話	青山 祐亮	松山高校	2	草原には花々が咲き乱れ、蝶は穏やかに過ごしている。そんな平和な世界を、水彩と切り絵を使って表現した。	参加賞
79	雲居の鬼	磯本 新	松山高校	2	人間が好きなように変えていった自然。いつか自然が人間に牙をむくかもしれません。	優秀賞
80	ペット	鯉沼 颯太	松山高校	2	東松山でも、人間が日本に連れて来た動物を害獣として殺処分している。しかしそれは本当に平和なのだろうか？	参加賞
81	燦々	古川 誠大	松山高校	2	燦々と降り注ぐ陽光 この星に生を受けた全てが その恩恵を享受する 私たちの未来を照らす光の下 深呼吸をすれば世界は広がる	参加賞
82	明かり	清水 野乃花	松山女子高校	2	静かな教室で、明かりが差し込む部屋の中で絵を描けることが、私にとっての平和だと思ったのでこの絵にしました。	参加賞
83	家族	富塚 真琴	松山女子高校	2	本当に大切な物は失わないと分からない。といいますが、平和もそうだと思います。この平和な世界が永遠に続くことを祈ります。	参加賞
84	高嶺の花	基 友里	松山女子高校	2	「外見だけで権利も手に入れられなかったのに、今では外見だけで高嶺の花、だなんて。」「平和になったものね。」	参加賞
85	鳥の声	竹前 楓	松山女子高校	3	春から夏にかけて、鳥の鳴き声を聴きながら描きました。こういうように、ゆっくり絵を描いている時間が平和だと感じます。	参加賞
86	陽のあたる場所	早坂 晴佳	松山女子高校	3	晴れの日も雨の日も何の不自由もなく絵を描き続けることが私にとって平和だと思います。この平和が続いてほしいと思いながら描きました。	優良賞
87	晴れ渡る空	福田 ゆりあ	松山女子高校	3	皆それぞれ悩みや苦しみがあるかもしれないけど鮮やかな空や自然の緑は、全ての人を幸せにしたいと思います。私もこの景色を観ているうちにとても心が癒されました。なので、これを観た時に心の曇りがこの空のように晴れ渡って優しい気持ちになれることを願い描きました。	参加賞
88	緑と校舎	村山 央	松山女子高校	3	美しい緑と校舎に囲まれて生活できる平和な日々を感じながら描きました。	参加賞

絵画の部一般応募者一覧

No.	テーマ	氏名	作品に込めた平和への思い	審査結果
1	糸	岡部 仁美	現代のネット社会での情報で翻弄され、囚われている人達の心を表現した。幸せは心の平和の中にある。	最優秀賞
2	「もー、なめないでよ」	後藤 雅史	娘と動物園に行った時、顔を「ベロツ」つとなめられ、とても嫌な表情を見せていました。よい思い出です。	参加賞
3	カオルの絵	小林 薫	広告用紙を使った作品、絵と文字の関係は分かりませんが、父との旅行をたのしみに行っている雰囲気がつたわります。	参加賞
4	楽しく歩けば風の色がみえてくる	小室 精子	平和はどう表現できるか考えてみると難しい。東松山駅前にある「楽しく歩けば風の色がみえてくる」のモニュメントの印象がそれにふさわしいと思い作品に仕上げました。	参加賞
5	故郷の川、市の川	齋藤 朝子	故郷東松山に戻り子供の頃、遊んだ市の川辺に立った時の心のやすらぎを絵にこめた。このやすらぎがずっと続きますように。	参加賞
6	動物の絵	高橋 奈美	色あざやかな動物の絵を描く高橋さんは笑顔が絶えません。毎日そんなあざやかな作品がうまれています。	参加賞
7	初夏の中庭	野口 信夫	初夏の陽が差す中庭で生徒がキャンパスに向かい絵を描く。音楽室からは、風に乗って歌声が響き、ゆったりとした時間が流れていく。当たり前の様な日常の中で、かけがえのないこの平和な世が続くことを願う。	優良賞
8	交流	野原 陽介	いつまでも長く交流をできるよう。	参加賞
9	インドクジャク	長谷部 航輝	自然の中でクジャクが羽を広げていると平和を感じる。こんな平和が続きますように...	優秀賞
10	踊って	増田 亨	人は平和の時に踊ります。理解できない踊りもあるかもしれない。でもそれ受け入れることが出来たらさ	優良賞
11	かみさまのリンゴ	間部 恭子	平和な世界へ 思いやりの心から、皆が笑顔でいられますように	参加賞
12	動物たちの花とウォーキング	道下 れい子	少子高齢化、核家族、動物達はどうでしょうか？花とウォーキング楽しんでいるファミリーの気持ちを描きました。	参加賞
13	文字	森川 里緒菜	うめつくされた青い文字は彼女の日々の出来事です。友だちのこと家族のことなどがところどころ出てきます。日々のたのしいことがたくさんです。	参加賞
14	シュープリムス	吉川 健司	60年代に活躍した女性グループシンガー。カラフルな服と歌がたくさんです。力強い線を色で制作されました。	参加賞

東松山市花と歩けの国際平和都市宣言

戦後半世紀余りが経過した現在、わが国は高度成長を遂げ経済大国へと発展し、豊かな社会を築き上げました。

しかしながら、その背景には、自国発展のための自然破壊が当然のように繰り返され、経済的な豊かさと引き換えに、人間の真の心の豊かさは失われつつあります。

また、世界に目を向けると、依然として核の脅威は、人類に大きな不安を与えており、今なお国家間の争いによって、日々かけがえのない命が奪われています。

このような世界情勢の中、わがまち東松山市は、花いっぱい運動や国際的イベントである日本スリーデーマーチを通じて、戦争のない平和な社会の建設を世界に訴えとともに、市民共通の平和への願いをここに表明します。

わたしたちは、花や緑に囲まれた貴重な自然を守ります。

わたしたちは、人権を尊重し思いやりのある人を育てます。

わたしたちは、健康で自由に安心して暮らせるまちを造ります。

わたしたち東松山市民は、世界の恒久平和の実現のため、一人ひとりが努力し、次代に引き継ぐことを誓いここに花と歩けの国際平和都市を宣言します。

平成8年9月17日制定

第22回花とウォーキングのまちの平和賞審査員

【作文の部】 鍋谷正則、比島順、間中龍史、八木原和子

【絵画の部】 森勝彦、丸山幸男、関根吉昭

東松山市平和推進懇話会参加者

今井有紀、鍋谷正則、比島順、間中龍史、八木原和子、小川徹、矢島央喜、山岸隆、渡邊千尋、黒澤拓也

第22回 花とウォーキングのまちの平和賞 入選作品集 (作文・絵画)

令和2年1月発行

発行 東松山市
編集 総務部 総務課
〒355-8601
東松山市松葉町1-1-58
電話 0493-23-2221